

埼玉県立近代美術館年報

平成 24 年度



ANNUAL REPORT 2012——THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

埼玉県立近代美術館年報

平成24年度



ANNUAL REPORT 2012—THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

■目次

埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント 及び戦略目標	3	トピックス	
施設	4	[1]みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10	81
美術館誌	5	[2]『たまもの 埼玉県立近代美術館のコレクションより』	83
企画展		[3] Saitama Art Platform 形成準備事業	84
草間彌生 永遠の永遠の永遠	6	埼玉県立近代美術館フレンド	88
ウルトラマン・アート!	11	貸館事業	89
日本の70年代 1968-1982	21	一般展示室利用状況	89
ベン・シャーン展	32	入館状況	
ポール・デルヴォー展	42	平成24年度入館者数一覧	92
MOMASコレクション	47	名簿	
MOMASコレクション[I]	47	埼玉県立近代美術館協議会委員	93
MOMASコレクション[II]	50	埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員	93
MOMASコレクション[III]	52	埼玉県立近代美術館利用審査会委員	93
MOMASコレクション[IV]	54	埼玉県立近代美術館職員	93
サンデー・トーク	56		
収集事業	57		
新収蔵作品一覧	58		
美術資料貸出等一覧	63		
教育・普及事業			
美術館講座			
現代美術入門・パブリックアートについて考えよう	67		
近現代建築探検ツアー	67		
子どものためのプログラム			
MOMASの扉	69		
夏休みの特別プログラム	70		
ミュージアム・コラボレーション	71		
企画展ワークシートの作成	71		
学校との連携			
先生のための鑑賞会	72		
美術館利用研究会	72		
教員美術講座	72		
その他の学校連携事業	73		
博物館実習	74		
美術館ボランティア			
美術館サポーター	75		
教育普及サポート・スタッフ	75		
MOMAS彫刻ボランティア	76		
広聴・広報・刊行物	77		
図書資料の収集と公開	80		
椅子の美術館	80		
ハイビジョン・コーナー	80		

■埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント及び戦略目標

埼玉県立近代美術館は世界の今を生きる全ての人のために存在します。

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
 - ①身近な視点から世界の今をみつめ、国境や言語を超えて共有される美術の素晴らしさを紹介します。
 - ②出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく展示や美術の楽しさを体感できるプログラムを提供します。
 - ③継続的な収集活動を通して特色あるコレクションを形成し後世に伝えます。また館内外での効果的な活用を通じてその魅力を紹介し付加価値を高めていきます。
 - ④すべての美術館活動の基盤となる調査研究活動を重視します。

- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
 - ①魅力あるレストランやショップなど上質な空間とゆとりの時間を提供し、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすい環境を持った、居心地のよい美術館を目指します。
 - ②美術に関する情報センターの役割を果たします。
 - ③美術を愛する人々の交流や自主的活動を支援します。

- 3 未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。
 - ①子どもたちとともに生き生きとした感性と創造力の素晴らしさを再発見していきます。
 - ②学校現場との連携を深め、学校による利用の促進を図ります。

- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。
 - ①県民のニーズや時代の変化に対応して進化する美術館を目指します。美術館の情報を公開し改善に努めます。職員の意識改革を継続して行います。
 - ②美術館の持つあらゆる資源（人・作品・施設等）を有機的・効果的に活用し、新たな顧客層を開拓するとともに、美術館を支援してくださる方々の輪を広げます。
 - ③北浦と公園の活用も含め、美術館がまちのにぎわいの創出や地域の活性化に寄与するように努めます。

■施設

敷地面積	35,177㎡
建築面積	2,238㎡
延床面積	8,577㎡
展示壁長	1,440m
建築高さ	17.8m
構造	地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工期	昭和55年3月28日～昭和57年2月27日
設計	株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
開館	昭和57年11月3日

建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのように突き出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央に4層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられた。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、極めて特異な空間として各種のイベントにも使われる。

2階の企画展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中での人間性を回復するという意味でも注目される。

設備については、展示面積を増やすために天井吊式の移動パネルが2階企画展示室と地階一般展示室に取り付けられ、前後の方向とともに、企画展示室では斜めにも動かせるなど柔軟な使用が可能である。

絵画用の収蔵庫には、独自に工夫された上下可動型と水平に移動する可動書架改良型の電動式絵画収納ラックが備えられている。

■美術館誌

平成24(2012)年

- 4月8日 「見沼100年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備（以降毎月第2日曜日）。
- 4月14日 企画展「草間彌生 永遠の永遠の永遠」を開催（～5月20日）。開幕記念記者会見に草間彌生氏、上田清司知事が出席。
- 4月19日 「MOMASコレクション[I]」を開催（～7月8日）。
- 4月22日 建島館長による講演会「草間彌生の世界」を開催。
- 5月15日 「Saitama Art Platform 形成準備事業」を開催（～3月30日）。
- 5月29日 「第62回県展 埼玉県美術展覧会」を開催（～6月20日）。
- 6月22日 「第1回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 7月7日 企画展「ウルトラマン・アート！ 時代と創造—ウルトラマン&ウルトラセブン」を開催（～9月2日）。北浦和公園でポリスコンサートを実施。
- 7月14日 「MOMASコレクション[II]」を開催（～10月14日）。「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」投票（～9月2日）。
- 7月17日 美術館サポーターによる開館30周年記念プレゼント・キャンペーンを実施（～1月20日）。
- 7月20日 「第1回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 7月23日 埼玉県立近代美術館ホームページをリニューアル。
- 8月3日 「第1回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 9月15日 企画展「開館30周年記念展 日本の70年代 1968-1982」を開催（～11月11日）。開幕記念記者会見を実施。レセプションに出品作家などが出席。

- 10月20日 「MOMASコレクション[III]」を開催（～1月20日）。会期中に「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」展示・関連イベントを実施。
- 11月3日 開館30周年を迎える。
- 11月4日 「彩の国教育週間」を記念し「MOMASコレクション」を無料公開。
- 11月14日 「県民の日」を記念し「MOMASコレクション」を無料公開。
- 11月17日 企画展「丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展—

線の魔術師—」を開催（～1月14日）。レセプションに須崎勝茂氏（丸沼芸術の森代表）などが出席。

平成25 (2013) 年

- 1月22日 企画展「ポール・デルヴォー展 夢をめぐる旅」を開催（～3月24日）。レセプションにリュック・リーバウト氏（ベルギー大使館大使）などが出席。
- 1月25日 年度ごとの企画展観覧者数過去最高（101,209人）を突破。
- 1月26日 「MOMASコレクション[IV]」を開催（～3月31日）。
- 1月29日 「埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会」による審査（～2月8日）。
- 2月8日 「第2回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 2月12日 「日本の70年代 1968-1982」展が美連協奨励賞を受賞。
- 2月16日 「県立博物館合同研究発表会」で平山学芸員が発表。
- 2月20日 消防訓練を実施。
- 3月7日 「第2回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 3月12日 当館所蔵の小茂田青樹《鳴鶏》が埼玉県指定有形文化財に指定。
- 3月18日 館内の最後の公衆電話を撤去。
- 3月21日 開館以来の入館者700万人を達成。
- 3月27日 北浦和公園に寄付された桜の木7本を植樹。

■企画展

■草間彌生 永遠の永遠の永遠 YAYOI KUSAMA Eternity of Eternal Eternity

- 会期：2012年4月14日（土）～5月20日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館、朝日新聞社
- 協賛：岡村印刷工業
- 協力：草間彌生スタジオ、株式会社フジテレビジョン、
JR東日本大宮支社、FM NACK 5
- 観覧料：一般1,100円（880円）、大高生880円（710円）
- 入場者数：47,546人
- 広報印刷物：ポスター B2、ちらしA4／デザイン：グラフィット
- 担当学芸員：前山裕司、吉岡知子



ポスター

■開催趣旨

世界的にますます評価が高まる草間彌生の、最新の創作活動を紹介した。半世紀以上にわたって、水玉や網目の作品を作り続けてきた草間は、2009年から驚異的な創作意欲を傾け、新たな絵画シリーズ『わが永遠の魂』にとりくみ始める。自由奔放なイメージと色彩があふれだし、宇宙的な規模まで感じさせる、これまでに見たこともない作品群となった。この新作と対照的なのが、『愛はとこしえ』の連作である。草間が2004年から3年間で描き上げたモノクロの作品は、無限に湧き出る連鎖的なイメージを、魔法のような筆使いで描き出したものである。さらにこの展覧会

で初公開となる《大いなる巨大な南瓜》や《明日咲く花》などの彫刻や、光と水と鏡による部屋《魂の灯》も展示し、草間ワールドを体感することができた。

■カタログ

規格：29.7×21.5cm、176頁

編集：安來正博（国立国際美術館）、前山裕司（埼玉県立近代美術館）、澁田見彰（松本市美術館）、草間彌生スタジオ、草間彌生記念文化財団、朝日新聞社企画事業本部

デザイン：井上淳子（FROG SPLASH）

翻訳：後町幸枝（作品タイトル、詩）、クリストファー・スティヴンズ

印刷：岡村印刷工業

発行：朝日新聞社

内容：【各章解説と図版】「愛はとこしえ」「わが永遠の魂」「幸福の彫刻たち」（章解説：前山裕司）【テキスト】草間彌生「永遠の永遠の永遠」／建畠哲「みんなのアヴェンギャルド」／安來正博「永遠の道程－草間彌生のゼロ年代絵画を巡って－」／澁田見彰「花園に舞う永遠の魂」

【資料等】略歴、主な書籍、主な展覧会（前山裕司）

価格：2,000円

■関連事業

- ・講演会 「草間彌生の世界」／4月22日（日）／講師：建畠哲／講堂／参加者：125人
- ・映画上映会 「草間彌生 わたし大好き」／4月29日（日）11:00～、14:00～／監督：松本貴子／2008年／講堂／2回の上映後、松本監督によるアフタートークを行った。／参加者：計208人。

■広報記録

<新聞>

- ・木村未来「満ちあふれる〈生の喜び〉」『読売新聞』2012年2月16日
- ・木村由理江「草間彌生さん」『朝日新聞』2012年3月7日
- ・「鮮やか 最新作など100点」『朝日新聞』2012年4月4日
- ・建畠哲・談「草間彌生 孤高の至高の崇高」『朝日新聞』2012年4月10日
- ・「草間彌生 永遠の永遠の永遠」『信濃毎日新聞』2012年4月12日
- ・小山内伸・藤谷浩二「圧巻 草間彌生の世界」『朝日新聞』2012年4月15日
- ・前山裕司「いまこそ生命の輝きを見てほしい」、「果てしない人間の一生」、吉岡知子「静かな朝のめざめ」『朝日

新聞』2012年4月19日

- ・「神をみつめていたわたし」『上毛新聞』2012年4月20日
- ・岸桂子「孤高の人生賛歌」『毎日新聞』2012年4月23日
- ・大西若人「無限世界 全身で味わう」『朝日新聞』2012年4月25日
- ・吉岡知子「神をみつめていたわたし」『朝日新聞』2012年4月26日
- ・小山内伸「草間流 水玉・網目模様が魅了 作品展でオリジナルグッズ人気」『朝日新聞』2012年4月29日
- ・吉岡知子「大いなる巨大な南瓜」『朝日新聞』2012年5月2日
- ・「草間彌生展 2万人を突破」『朝日新聞』2012年5月5日
- ・前山裕司「チューリップに愛をこめて、永遠に祈る」『朝日新聞』2012年5月9日
- ・吉岡知子「青春の日々 [YOZMTO]」『朝日新聞』2012年5月10日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・安来正博「新しき〈草間ワールド〉初公開」『美術の窓』2011年9月号
- ・「2012年必見の美術展ハンドブック」『日経おとなのOFF』2012年1月号特別付録
- ・「天才は現れる時を知っている！～建昌館長が語る草間彌生さん」『ソカロ』2012年4-5月号
- ・「特集・草間彌生」『美術手帖』2012年4月号
- ・吉岡知子「草間彌生 永遠の永遠の永遠」『展覧会ガイド』2012年4月号
- ・吉岡知子「草間彌生《青春の日々 [YOZMTO]》」『サラダハウス』2012年4月号
- ・坪内祐三「草間彌生はあのピカソを超えたのか」『週刊ポスト』2012年5月18日号
- ・せり～ぬ少納言「奇跡」『新樹くらぶ』2012年7・8月号
- ・告知：『けんぼプラザ』2012年冬号／『美術の窓』2012年2月号／『新美術新聞』2012年3月21日号／『東京アート&カルチャー散歩』2012年3月30日号／『ばびるす』2012年4月号／『彩の国だより』2012年4月号／『たまログ』2012年4月号／『サラダハウス』2012年4月号／『月刊展覧会ガイド』2012年4月号／『ソー！×たまログ』2012年4月号／『J:COMクーポン』2012年4月号／『J:COMチャンネル番組ガイド』2012年4月号／『ソー！』2012年4月2日号／『ショッパー 浦和川口』2012年4月19日号／『ショッパー 大宮・上尾』2012年4月19日号／『笑浦和(らふ)』2012年4月19日創刊号／『別冊ユーラシアニュース』2012年4月20日号／『アコレ・おおみや』2012年4・5月号／『月刊美術』2012年5月号／『武州路』2012年5月号／『ばびるす』2012年5月号／『新美術新

聞』2012年5月1・11日号／『週刊ポスト』2012年5月7日号／『エル・ジャポン』2012年6月号／『新美術新聞』2012年7月号

<テレビ、ラジオ>

- ・JCNプラスチャンネル「DAILY NEWS 川口・戸田」2012年4月6日
- ・FM NACK5「モーニングスクエア」2012年4月19日
- ・NHK FM「日刊！さいたま〜ず」2012年4月25日

■担当後記

◆前会場の国立国際美術館の予想外の混雑状況を踏まえて、作品の安全や観客の待機場所などを考慮し、会場図面を考える必要があった。さらに、パーテーションやコインロッカーの増設、男子トイレを女子用にする工夫、職員の勤務態勢の変更など考えられる限りの対策を講じた。体験者が限定される《魂の灯》では、看視に加えボランティアと職員も加わり、順番待ちの観客の整理にあたった。1回に体験する人数と時間を、列の長さに応じて増減する役目の看視は、とくに判断が困難だった。なお最終日には、手作りの水玉模様の蝶ネクタイで接客に努めた男性事務職員たちが人気となった。

◆当館は展示室の天井高が低いため、展示にいくつもの制約があった。出品番号が早い「愛はとこしえ」のシリーズは、かろうじて二段掛けが可能な展示室Ⅱとするしかなく、番号順でないため、「見にくい」との苦情に繋がった。

◆新作絵画は他会場のような二段掛けが不可能だったが、かえって個々の作品と対峙することが可能となったと思う。あわせて、コの字型の空間の3枚の可動壁を若干離すことによって、作品と観客の距離にゆとりを持たせるとともに、隙間から見える別な作品との重層的な関係性を持たせ、木々が交錯する森で迷うような感覚を意図した。

◆彫刻《チューリップに愛をこめて、永遠に祈る》の中の1点の最高点は、天井との差が3cmもなかった。展示する場所では組み立てができず、天井の高い場所で組んで移動することになったが、台車に載せる余裕がないため、輸送会社が用意したスキー板のような道具に載せて滑らせた。途中、自重で1cmほど下がっていたシャッターを押し上げて通過する難所もあった。

◆エントランスから地階まで草間ワールドとなったが、各フロアをつなぐ軸となったのが、吹き抜けに吊り下げた全長10mのバルーン《ヤヨイちゃん》である。横からだけでなく、真下から見上げる《ヤヨイちゃん》など、当館独特の空間を活かす展示となった。

(前山裕司)



会場風景



会場風景

■出品リスト

*当館で展示されなかった作品は、通し番号が欠番になっています。

No.	作品名	Title	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
1	春のめざめ [TWSHON]	AWAKENING OF SPRING [TWSHON]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
2	うるわしき夜 [ABCTW]	LOVELY NIGHT [ABCTW]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
3	恋人たち	LOVERS	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
4	花片 [AWSHTS]	FLOWER PETALS [AWSHTS]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
6	宴のあと [SOXTE]	AFTER THE PARTY [SOXTE]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
8	波に浮かぶ唇 [TOWHC]	LIPS FLOATING IN THE WAVES [TOWHC]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
11	初恋 [SWTUE]	FIRST LOVE [SWTUE]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
12	女の残像 [FAOWE]	WOMAN'S AFTERTIME [FAOWE]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
15	夏の午後 [FTOPK]	SUMMER AFTERNOON [FTOPK]	2005	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
16	群衆 [TWXOZ]	THE CROWD [TWXOZ]	2005	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
17	愛はとこしえ [OPXTWE]	LOVE FOREVER [OPXTWE]	2005	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
18	女の園 [OEWST]	WOMAN'S WORLD [OEWST]	2005	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
19	河のながれ	A FLOWING RIVER	2006	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
20	女たちのつどい	A GATHERING OF WOMEN	2006	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
22	きのう見た夢	A DREAM I DREAMED YESTERDAY	2006	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
23	愛のおわり	END OF LOVE	2006	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
25	生命讃歌 [BOZA]	HYMN OF LIFE [BOZA]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
26	愛はとこしえ [TAOW]	LOVE FOREVER [TAOW]	2004	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
27	朝が来た。 [TWST]	MORNING IS HERE [TWST]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
28	春来る [QA. B. Z]	ARRIVAL OF SPRING [QA. B. Z]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
29	春を待つ女たち [TZW]	WOMEN WAITING FOR SPRING [TZW]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
31	献花 (チューリップ)	FLORAL TRIBUTE (TULIPS)	2006	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
32	野に出でる	GOING OUT INTO THE FIELD	2006	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
33	我が心の中の旗 [TXOZT]	FLAG IN MY HEART [TXOZT]	2006	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス

No.	作品名	Title	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
34	花咲けるニューヨーク [OPRT]	FLOWERING NEW YORK [OPRT]	2005	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
36	女の一生 [T.WXO]	WOMAN'S LIFE [T.WXO]	2005	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
37	星の住処 [TWXSS]	DWELLING OF STARS [TWXSS]	2007	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
38	生老病死 [QXPAT]	BIRTH, AGING, SICKNESS AND DEATH [QXPAT]	2007	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
39	春のきざし [WQZY]	SIGNS OF SPRING [WQZY]	2007	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
40	青春への道標 [HOTWOX]	GUIDEPOST TO YOUTH [HOTWOX]	2007	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
41	芽ぶき [TOXZS]	SPROUTING [TOXZS]	2006	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
44	青春の日々 [YOZMTO]	DAYS OF YOUTH [YOZMTO]	2007	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
45	朝のかがやき [TWHIOW]	MORNING SPLendor [TWHIOW]	2007	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
46	女たちのニューヨーク [SSAAWA]	WOMEN'S NEW YORK [SSAAWA]	2007	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
47	朝のめざめ [TQSTW]	WAKING UP IN THE MORNING [TQSTW]	2007	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
48	私だいすき [TOWHSQ]	I LIKE MYSELF [TOWHSQ]	2006	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
50	無限の宇宙 [TOWEY]	INFINITY-COSMOS [TOWEY]	2007	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
51	心が傷んだときの自画像	MY SELF-PORTRAIT DONE WHEN I WAS HEARTBROKEN	2009	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
52	心から生命の賛美をうたい上げたい	I WANT TO SING MY HEART OUT IN PRAISE OF LIFE	2009	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
53	青春は死と生を共にたずさえて、あなたの背後から音もなくしのびよってくる	YOUTH, HAND IN HAND WITH DEATH AND LIFE, SILENTLY CREEPS UP ON YOU FROM BEHIND	2009	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
54	花園にうずもれた心	THE HEART BURIED IN A FLOWER GARDEN	2009	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
55	いまこそ生命の輝きを見てほしい	I WANT YOU TO NOW LOOK AT THE BRILLIANCE OF LIFE	2009	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
56	失恋の痛み、そして自殺したい	PAIN OF LOVE LOST, AND A WISH TO COMMIT SUICIDE	2009	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
57	果てしない人間の一生	ENDLESS LIFE OF PEOPLE	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
58	人間の一生	ENTIRE LIFE OF PEOPLE	2010	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
59	私大好き、とても好き	I LOVE MYSELF, I ADORE MYSELF SO	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
60	燃え上がる恋の記録	RECORD OF BURNING LOVE	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
61	私たちのパーティ	OUR PARTY	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
62	星	STARS	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
63	静かな朝のめざめ	WAKING UP IN A QUIET MORNING	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
64	さざなみ	RIPPLES	2010	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
65	月の夜の河	RIVER IN THE MOONLIT NIGHT	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
66	愛のものがたり	LOVE STORY	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
67	心の中の詩	A POEM IN MY HEART	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
68	思い出の中にしずんだ私の夢	MY DREAM THAT SANK INTO MEMORIES	2010	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
69	無限の未来	INFINITE FUTURE	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
70	地球の中で	ON THE INSIDE OF THE EARTH	2011	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
71	命の消滅	OBLITERATION OF LIFE	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
72	いつかは死をむかえる	DEATH IS INEVITABLE	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
73	自分の死のあとも宇宙は何ごともなく進んでいる	THE WORLD KEEPS ON MOVING QUIETLY EVEN AFTER MY DEATH	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
74	朝のめざめ	WAKING UP IN THE MORNING	2011	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス

No.	作品名	Title	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
75	太平洋	PACIFIC OCEAN	2011	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
76	女の一生	WOMAN'S LIFE	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
77	心	HEART	2011	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
78	黒い太陽	THE BLACK SUN	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
79	旗のひらめき	FLUTTERING FLAGS	2011	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
80	愛の旅路	JOURNEY OF LOVE	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
81	河のさざ波	RIVER RIPPLES	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
82	地の果てにて	AT THE END OF THE EARTH	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
83	夕映えの海	THE SEA IN THE EVENING GLOW	2011	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
84	青い風	BLUE WIND	2011	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
85	思い出	MEMORIES	2011	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
86	野の花たち	FLOWERS IN THE FIELD	2011	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
87	沈みゆく太陽	THE SETTING SUN	2011	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
88	星のささやき	WHISPERINGS OF STARS	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
89	青い星くず	BLUE STARDUST	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
90	強迫	COMPULSION	2011	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
91	月の出を待っている	WAITING FOR THE MOON TO APPEAR	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
92	朝が来た	MORNING IS HERE	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
93	人間の生命は無に帰す	HUMAN LIFE COMES TO NOTHING	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
94	私の命の消滅	OBLITERATION OF MY LIFE	2011	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
95	すべてが永遠に回帰する	EVERYTHING REVOLVES FOREVER	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
96	美を記憶する	BEAUTY REMEMBERED	2011	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
97	死をおそれる事はない	THERE IS NO NEED TO FEAR DEATH	2011	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
98	星たちの消滅 (金)	OBLITERATION OF STARS (GOLD)	2010	259.0×194.0	アクリル・カンヴァス
99	星たちの消滅 (銀)	OBLITERATION OF STARS (SILVER)	2010	259.0×194.0	アクリル・カンヴァス
100	青春を前にした我が自画像	MY SELF-PORTRAIT IN THE PRESENCE OF ADOLESCENCE	2011	227.3×181.8	アクリル・カンヴァス
101	青い目の異国で	IN A FOREIGN COUNTRY OF BLUE-EYED PEOPLE	2011	227.3×181.8	アクリル・カンヴァス
102	神をみつめていたわたし	I WHO WAS LOOKING HARD AT GOD	2011	227.3×181.8	アクリル・カンヴァス
103	大いなる巨大な南瓜	GREAT GIGANTIC PUMPKIN	2011	H245.0 φ260.0	FRP、ウレタン塗装
104	チューリップに愛をこめて、永遠に祈る	WITH ALL MY LOVE FOR THE TULIPS, I PRAY FOREVER	2011	H295.0×207.0×170 H235.0×181.0×170 H229.5×210.0×170	FRP、ウレタン塗装 FRP、ウレタン塗装 FRP、ウレタン塗装
105	明日咲く花	FLOWERS THAT BLOOM TOMORROW	2011	H200.0×200.0×425.0	FRP、ウレタン塗装
106	魂の灯	GLEAMING LIGHTS OF THE SOULS	2008	H287.4×415.0×415.0	ミクストメディア

■ウルトラマン・アート！ 時代と創造—ウルトラマン&ウルトラ セブン

- 会期：2012年7月7日（土）～9月2日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 特別協力：円谷プロダクション
- 展示協力：西村祐次（M1号）
- 企画協力：北海道立旭川美術館、北海道新聞社、キュレ
イターズ
- 協力：青森県立美術館、J R 東日本大宮支社、
FM NACK 5
- 観覧料：一般1,100円（880円）、大高生880円（710円）
- 入場者数：30,990人
- 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4/デザイン：三善
俊彦（三善デザイン事務所）
- 担当学芸員：渋谷 拓、前山裕司



ポスター

■開催趣旨

昭和41（1966）年7月にテレビ放映が開始された『ウルトラマン』と翌年放映開始の『ウルトラセブン』は、必殺技を駆使して怪獣と闘う巨大ヒーローというキャラクターを提示し、日本を代表するエポックメイキングな特撮映像となった。

1980年代前後から、『ウルトラマン』と『ウルトラセブン』は番組を見て育った世代によってアートの視点から再評価され、新たな文化的位置を獲得し始める。彫刻家・成田亨や画家・高山良策らによるヒーローや怪獣のデザイン・造形の仕事が注目され、精巧なフィギュアや特撮にインス

パイアされた現代アート作品が出現するなど、『ウルトラマン』と『ウルトラセブン』は、昭和40年代以後の日本の視覚文化において大きな位置を占めるに至っている。

本展では、ウルトラマンや怪獣のデザイン画のほか、立体の造形物、撮影当時の貴重な記録写真、怪獣フィギュア、映像インスタレーションなど約400点の展示により、現代日本におけるひとつの重要なサブカルチャーとなった『ウルトラマン』と『ウルトラセブン』の世界をアートの視点から検証した。

■カタログ

規格：33.7×24.5cm、104頁

執筆：中村聖司（北海道立近代美術館）、河野泰久（福井市美術館）

デザイン制作：大溝 裕（Glanz）

編集：キュレイターズ

発行：北海道新聞社

内容：出品図版 / 【テキスト】中村聖司「『ウルトラマン・アート！』展の企画主旨について」「テレビ映画『ウルトラマン』誕生の背景」「成田亨とヒーロー、怪獣」ほか / 河野泰久「アトリエ・メイと怪獣造形の現場」 / 座談会「ウルトラマンと美術館」中村聖司・河野泰久・小泉淳一（茨城県近代美術館） / 河野泰久編：ウルトラマン年譜 / 『ウルトラマン』放映一覧 / 『ウルトラセブン』放映一覧 / 出品リスト

価格：2,000円

■関連事業

- ・スペシャル・トーク&サイン会 / ゲスト：黒部進（俳優）、桜井浩子（女優） / 7月8日（日）14時～15時30分 / 講堂 / 『ウルトラマン』でハヤタ隊員を演じた黒部進氏とフジ・アキコ隊員役を演じた桜井浩子氏に当時のエピソードなどをお話しいただいた / 入場無料 / サイン会は図録・著書の購入者限定 / 定員100名（当日先着順） / 参加者：100名。
- ・アート・ディレクターズ・トーク / ゲスト：池谷仙克（映画美術監督）、三池敏夫（映画美術監督） / 8月5日（日）14時～15時30分 / 講堂 / 『ウルトラマン』で美術助手、『ウルトラセブン』でデザイナーとして活躍した池谷仙克氏と『ウルトラマンメビウス』美術監督、『ウルトラマンサーガ』特技監督の三池敏夫氏による対談 / 入場無料 / 定員100名（当日先着順・整理券配布） / 参加者：100名。
- ・撮影会「ようこそウルトラマン！写真撮影&握手会」 / 8月19日（日）11時、14時 / 講堂 / 当日10時より総合受付

にて整理券を配布／各回50組(1組は5名まで)／参加無料／参加者：計300名。

- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／7月14日(土)、8月18日(土) 渋谷 拓／参加者：計73名。

■広報記録

<新聞>

- ・石飛徳樹・増田愛子「特撮展で怪獣気分」『朝日新聞』2012年6月30日
- ・小山内伸「ウルトラマンはアートだ ヒーロー・怪獣登場」『朝日新聞』2012年7月3日
- ・三宅芳樹「巨大ヒーローの足跡紹介」『埼玉新聞』2012年7月6日
- ・林奈緒美「ウルトラマンの世界を検証400点」『毎日新聞』2012年7月6日
- ・「ファン待望〈ウルトラマン〉大集合」『産経新聞』2012年7月7日
- ・前田朋子「アートで魅せる シュワッチ！」『東京新聞』2012年7月7日
- ・「さきたま抄」『埼玉新聞』2012年7月20日
- ・「ウルトラマン・アート！」『公明新聞』2012年8月8日
- ・「なるほど鑑賞教室」『読売新聞』2012年8月11日
- ・井上晋治「〈ウルトラマン〉に美術光線」『読売新聞』2012年8月16日
- ・安岡一成「ハヤタ隊員が本紙だけに明かしたセブンへの嫉妬心とは…」『産経新聞』

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・渋谷拓「デザイン画から映像へー怪獣に〈アウラ〉を吹き込む創造のプロセス」『ソカロ』2012年6-7月号
- ・渋谷拓「高山良策制作《ゴモラ(頭部)》」『サラダハウス』2012年7月号
- ・『さいたま朝日』2012年7月22日
- ・小出和明「現代に甦る！オジサンも夢中になった特撮ヒーローの芸術」『サンデー毎日』2012年8月12日号
- ・大川祐「ウルトラマン・アート！」『JCJ広告支部ニュース』2012年9月号
- ・『語れ！ウルトラマン[永久保存版]』2012年9月24日発行(KKベストセラーズ)
- ・告知：『別冊ユーラシアニュース』2012年4月20日号／『埼玉往来』2012年5・6月号／『ぱびるす』2012年6月号／『まみたん』2012年6月号／『プチぶんか村』2012年6・7月号／『彩の国だより』2012年7月号／『武州路』2012年7月号／『さいたまグラフ』2012年7月号／『ソー！』2012年7月号／『たまログ』2012年7月号／『J:COMクーポン』2012年7月号／『タウンジャーナル』2012年7月

号／『J:COMチャンネル』2012年7月号／『ぱびるす』2012年7月号／『定年時代』2012年7月号／『ショッパー』2012年7月5日号／『ぼど 埼玉中央版』2012年7月13日号／『ぼど 所沢版』2012年7月13日号／『リビングさいたま』2012年7月14日号／『墨田区夏休み情報2012』7月22日号／『アコレ・おおみや』2012年7・8月号／『ぱびるす』2012年8月号／『まみたん』2012年夏号／『OZマガジン』2012年9月号

<テレビ、ラジオ>

- ・JCN埼玉「デイリーニュース 川口・戸田」2012年6月28日
- ・FM NACK5「モーニングスクエア」2012年7月6日
- ・NHK「NHKニュース」2012年7月7日
- ・NHK FM「日刊！さいたま〜ず」2012年7月24日
- ・テレビ埼玉「彩の国ニュース ほっと」2012年7月28日
- ・FMぐんま「あさナビ」2012年8月6日
- ・JCN関東「デイリーニュース」2012年8月14日

<ウェブ>

- ・「埼玉県知事ブログ」2012年7月9日

■担当後記

◆「ウルトラシリーズ」のなかでも、初期の『ウルトラマン』『ウルトラセブン』は、そのファンタジー性やSF性によって今日でも極めて評価が高い。これら2作品に焦点を絞って切り口を「アート」とし、世界観や時代背景を製作当時のデザイン画・立体造形・ユニフォームをはじめとする小道具・脚本・スチール写真を交えて紹介し、インスパイアされた現代アート作品をも加えた本展は、文化史・映像史の観点からも意義のある内容の展覧会となった。

◆展示の第1章は両作品の世界への導入であると同時に、等身大のウルトラマンやセブン、人気怪獣のバルタン星人やメトロン星人などと記念撮影ができる構成で、携帯電話による情報の自律的な拡散に大いに効果を発揮していた。モバイル・コミュニケーションが全盛の時代にあって、人気の高いコンテンツを写真撮影可とする展示が広報上いかに有効かを、今更ながら改めて実感することになった。

◆担当はテレビでの再放送やDVD鑑賞などを通じて『ウルトラマン』『ウルトラセブン』の世界に子供のころから親しんできたが、美術館の仕事としてこの「ウルトラシリーズ」に関わることができて感激した。黒部進氏(ハヤタ隊員役)と桜井浩子氏(フジ・アキコ隊員役)をお招きしてのトークでは、ホストとして進行役を務めたが大変緊張してしまった。おおらかに構えてトークにご協力いただいたお二人に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

◆池谷仙克氏×三池敏夫氏という両映画美術監督によるトー

クも豪華な陣容で大変好評だった。突っ込んだ内容のトークは、造詣の深いファンにも大満足であったことと思う。参加者のなかには中国からの留学生もおり、鋭い視点の質問があったのが印象的だった。池谷氏自身も中国で教鞭をとっているということで、「ウルトラシリーズ」の国際的な知名度・人気の高さがうかがわれた。

◆東京に最も近い巡回会場ということもあり、円谷プロダクションからは、当館吹き抜けでの展示用として飛行中のウルトラマンの撮影用モデルを特別出品していただいた。展示作業や巡回展の展示構成において、大変なご尽力をいただいた同プロダクションに改めて感謝申し上げます。

(渋谷 拓)



会場風景 《バルタン星人》



会場風景 《ウルトラセブン》



会場風景 《科学特捜隊のユニフォーム》



会場風景 伊藤隆介 《Realistic Virtuality (Flying Giant)》

■出品リスト

- ※1. 展覧会用に制作した写真パネルについては、所蔵者を割愛した。
- ※2. 「再制作」は撮影当時のオリジナルの制作者によるもの。「レプリカ」はオリジナルの制作者とは異なる制作者によるもの。
- ※3. 所蔵の表記がない作品は円谷プロダクション蔵。

プロローグ～テレビ映画「ウルトラマン」誕生の背景～

出品番号	作品／資料名	制作者名ほか	制作年／撮影年	材質・形状	寸法(縦×横または高さ×幅×奥行cm)	所蔵
P-01	円谷英二			写真パネル	400×670	
P-02	金城哲夫			写真パネル	400×670	
P-03	家に来たテレビを見る開拓農家の子ども。 北海道長万部町	撮影：掛川源一郎	1967(昭和42)	写真パネル	400×670	
P-04	『ウルトラQ/カネゴンの繭』より			写真パネル	400×670	

Ⅰ ウルトラマンとウルトラセブン～はるかな星から来たヒーロー

I-01	ウルトラマン	番組終了後の制作
I-02	ウルトラセブン	番組終了後の制作
I-03	バルタン星人	番組終了後の制作

出品番号	作品/資料名	制作者名ほか	制作年/撮影年	材質・形状	寸法 (縦×横または高さ×幅×奥行cm)	所蔵
I-04	マグラー		番組終了後の制作			
I-05	ピラ星人		番組終了後の制作			
I-06	メトロン星人		番組終了後の制作			
I-07	ジェットビートル		番組終了後の制作		全長1000mm	
I-08	ウルトラホーク1号		番組終了後の制作		全長700mm	
I-09	ウルトラホーク3号		番組終了後の制作		全長900mm	
I-10	ウルトラマンvsアントラー		1966(昭和41)	写真パネル	A3	
I-11	ネロンガを持ち上げるウルトラマン		1966(昭和41)	写真パネル	A3	
I-12	ネロンガの前に立ちはだかるウルトラマン		1966(昭和41)	写真パネル	A3	
I-13	ネロンガの光線を跳ね返すウルトラマン		1966(昭和41)	写真パネル	A3	
I-14	ウルトラマンの必殺技、スペシウム光線		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-15	ウルトラスラッシュ (八つ裂き光輪)		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-16	テレポーテーション		1966(昭和41)	写真パネル	A3	
I-17	ウルトラセブンvsピラ星人		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-18	人間大で活動するウルトラセブン		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-19	十字架にかけられたウルトラセブン		1968(昭和43)	写真パネル	A3	
I-20	アイスラッガー		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-21	エメリウム光線		1967(昭和42)頃	写真パネル	A3	
I-22	ワイドショット		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-23	カプセル怪獣ウイングム		1968(昭和43)	写真パネル	A3	
I-24	カプセル怪獣ミクラス		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-25	カプセル怪獣アギラ		1968(昭和43)	写真パネル	A3	
I-26	科学特捜隊 (小林昭二、桜井浩子、黒部進、二瓶正也、石井伊吉/現・毒蝮三太夫)		1966(昭和41)頃	写真パネル	A3	
I-27	科学特捜隊基地		1966(昭和41)	写真パネル	A3	
I-28	小型ビートル (三角ビートル)		1966(昭和41)頃	写真パネル	A3	
I-29	ウルトラ警備隊 (中山昭二、石井伊吉/現・毒蝮三太夫、阿知波信介、菱見百合子/現・ひし美ゆり子、森次浩司/現・晃嗣、古谷敏)		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-30	ポインター		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-31	ウルトラホーク2号		1967(昭和42)	写真パネル	A3	
I-32	マグマライザー		1967(昭和42)頃	写真パネル	A3	

II ヒーローと怪獣、そのかたちの創造

II-01	渡辺明による「科学特捜隊ベムラー」のためのデザイン		1965(昭和40)	写真	A3	
II-30	ダリー	池谷仙克	1968(昭和43)	鉛筆、ペン、水彩・紙	36.7×25.4	作家蔵
II-31	ダンカン	池谷仙克	1968(昭和43)	鉛筆、ペン、水彩・紙	36.6×25.2	作家蔵
II-32	ペロリンガ星人	池谷仙克	1968(昭和43)	鉛筆、ペン、水彩・紙	36.4×25.0	作家蔵
II-33	フック星人	池谷仙克	1968(昭和43)	鉛筆、ペン、水彩・紙	35.0×23.5	作家蔵
II-34	バンドン	池谷仙克	1968(昭和43)	鉛筆、ペン、水彩・紙	36.8×25.8	作家蔵
II-35	科学特捜隊日本支部ジオラマ (1/33スケール)	池谷仙克	2006(平成18)	木、プラスチック、金属、発泡スチロール	120.0×215.0×99.0	
II-36	ウルトラ警備隊秘密基地のジオラマ (1/100スケール)	池谷仙克	2007(平成19)	木、プラスチック、金属、発泡スチロール	93.0×185.0×105.0	
II-37	マンモスフラワー	佐々木明	2007(平成19)	油彩、キャンバス	60.6×72.7	西村祐次 (M1号) 蔵
II-38	ウルトラマンひな形(再制作)	佐々木明	2006(平成18)	FRP	54.0×24.0×13.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-39	ウルトラマンひな形(再制作)	佐々木明	2006(平成18)	FRP	54.0×24.0×13.0	西村祐次 (M1号) 蔵

出品番号	作品/資料名	制作者名ほか	制作年/撮影年	材質・形状	寸法(縦×横×高さ×幅×奥行mm)	所蔵
II-40	ウルトラマン (出現シーン用/再制作)	佐々木明	2006(平成18)	FRP	15.0×45.0×89.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-41	ウルトラマン (飛行シーン用/再制作)	佐々木明	2006(平成18)	FRP	19.0×17.0×94.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-42	ウルトラマンひな形 (再制作) の下絵	佐々木明	2006(平成18)	鉛筆、色鉛筆、紙	69.4×35.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-43	ウルトラマン (飛行シーン用/再制作) の下絵	佐々木明	2006(平成18)	鉛筆、板	49.0×100.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-44	ウルトラマン (マスク/再制作) の下絵	佐々木明	2006(平成18)	鉛筆、紙	33.2×24.4	西村祐次 (M1号) 蔵
II-45	ウルトラマン (出現シーン用/再制作) の下絵	佐々木明	2006(平成18)	鉛筆、紙	24.4×33.2	西村祐次 (M1号) 蔵
II-46	ウルトラマン (飛行シーン用、マスク/再制作) の下絵	佐々木明	2006(平成18)	鉛筆、紙	33.2×24.4	西村祐次 (M1号) 蔵
II-47	ウルトラマンの眼の制作過程	佐々木明	制作年不詳	アクリル	5.0×22.0×16.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-48	佐々木明によるウルトラマン関連資料		2006(平成18) 他	FRP他	21.0×16.0×11.0他	西村祐次 (M1号) 蔵
II-49	ウルトラマン (Bタイプマスク)		1980年代(レプリカ)	ポリエステル樹脂	38.0×28.0×16.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-50	ウルトラマン (Bタイプマスク)		1980年代(レプリカ)	ポリエステル樹脂	38.0×28.0×16.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-51	ウルトラマン (Cタイプマスク)	佐々木明 (オリジナル制作)	制作年不詳(レプリカ) オリジナルは1966(昭和41)	ポリエステル樹脂	38.0×28.0×16.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-52	ウルトラマン (Cタイプマスク)	佐々木明 (オリジナル制作)	制作年不詳(レプリカ) オリジナルは1966(昭和41)	ポリエステル樹脂、内 側にスポンジ貼り	38.0×28.0×16.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-53	ウルトラセブン (飛行シーン用)	佐々木明	1968(昭和43)	FRP	17.0×43.0×92.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-54	ウルトラセブン (マスク)	佐々木明 (オリジナル制作)	2005(平成17)頃(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42) 頃	FRP、ゴム	41.0×25.0×31.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-55	ウルトラセブン (マスク)	佐々木明 (オリジナル制作)	2005(平成17)頃(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42) 頃	FRP、ゴム	41.0×25.0×31.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-56	ウルトラセブン (マスク)	佐々木明 (オリジナル制作)	2005(平成17)頃(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42) 頃	FRP、ゴム	41.0×25.0×31.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-57	ウルトラセブン (マスク)	佐々木明	1968(昭和43) ※展示作品は 再制作	FRP、ゴム	41.0×25.0×31.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-58	アイスラッガー	佐々木明 (オリジナル制作)	制作年不詳(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42)	木	32.0×2.2×26.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-59	ウルトラセブン (ミニチュア)	佐々木明	1968(昭和43)	木、FRP、合皮	29.0×11.0×10.5	西村祐次 (M1号) 蔵
II-60	ウルトラセブンの眼の制作過程	佐々木明	制作年不詳	アクリル	5.0×22.0×14.2	西村祐次 (M1号) 蔵
II-61	佐々木明造形によるウルトラマンひな形		1965(昭和40)頃	写真 (3点組)	A3	
II-62	バルタン星人		1966(昭和41)	写真	A3	
II-63	佐々木明造形によるネロンガ		1966(昭和41)	写真	A3	
II-64	佐々木明関連写真		2006(平成18)	写真	A3	
II-65	カラータイマー	倉方茂雄	1965(昭和40)頃	アクリル、ポリエステル 樹脂、真鍮、セロファン、 電球	高さ3.0×径6.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-66	ウルトラマン (Cタイプ) ブーツ		1966(昭和41)	合成皮革	18.0×10.0×29.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-67	ウルトラセブン グローブ		1967(昭和42)頃	合成皮革	27.0×13.0他	西村祐次 (M1号) 蔵
II-68	ウルトラセブン ブーツ		1967(昭和42)頃	合成皮革	21.0×10.0×30.0	西村祐次 (M1号) 蔵
II-69	パニラ (頭部)	高山良策	1966(昭和41)	ラテックス、アクリル、 鉄筋	38.0×19.0×37.0	
II-70	アボラス (頭部)	高山良策	1966(昭和41)	ラテックス、アクリル、 鉄筋	50.0×33.0×56.0	
II-70-02	アボラス (右) vsパニラ		1966(昭和41)	写真	B2	
II-71	ゴモラ (頭部)	高山良策	1966(昭和41)	ラテックス、ポリエス テル樹脂、アクリル	19.0×60.0×44.0	
II-71-02	ゴモラ		1967(昭和42)	写真	B2	
II-73	クール星人 (腕)	高山良策	1967(昭和42)	木、金属	39.0×13.0×7.0	西村祐次 (M1号) 蔵

出品番号	作品/資料名	制作者名ほか	制作年/撮影年	材質・形状	寸法(縦×横×高さ×幅×奥行cm)	所蔵
II-73-02	クール星人		1967(昭和42)	写真	B2	
II-74	キングジョー(背部パーツ)	高山良策	1967(昭和42)	硬質ウレタン、金属、木	30.0×37.0×10.0	西村祐次(M1号)蔵
II-75	ケムラー図面	高山良策	1966(昭和41)	ペン・紙	25.0×35.5	
II-75-02	高山良策造形によるケムラー		1966(昭和41)	写真	A3	
II-76	ドラコ図面	高山良策	1966(昭和41)	鉛筆、ペン・紙	42.0×30.0	
II-77	ピラ星人図面	高山良策	1967(昭和42)	鉛筆、ペン・紙	39.0×22.0	
II-78	アンノン図面(ミニチュア用)	高山良策	1967(昭和42)	鉛筆、サインペン・紙	38.6×76.0	西村祐次(M1号)蔵
II-79	アンノン図面(着ぐるみ用)	高山良策	1967(昭和42)	鉛筆、サインペン・紙	38.4×77.4	西村祐次(M1号)蔵
II-80	アンノン(ミニチュア用石膏型)	高山良策	1967(昭和42)	石膏	上:20.0×17.0×66.0 下:9.0×16.0×66.0	西村祐次(M1号)蔵
II-81	アンノン(ミニチュア)	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42)	FRP	20.0×16.0×65.0	西村祐次(M1号)蔵
II-82	アンノン(撮影用に改修後のミニチュア)	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42)	FRP	20.0×16.0×40.0	西村祐次(M1号)蔵
II-83	ウイングダム(頭部)	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42)	FRP、金属	49.0×35.0×37.0	西村祐次(M1号)蔵
II-84	シャドー星人(マスク)	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42)	FRP	20.0×25.0×17.0	西村祐次(M1号)蔵
II-85	ボール星人	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1968(昭和43)	FRP	73.0×32.0×30.0	
II-86	ボール星人	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1968(昭和43)	FRP	71.0×25.0×14.0	西村祐次(M1号)蔵
II-87	ボール星人	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1968(昭和43)	FRP	72.0×42.0×16.0	西村祐次(M1号)蔵
II-88	ゴリー(マスク)	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1968(昭和43)	FRP	20.0×15.0×11.0	西村祐次(M1号)蔵
II-89	セミ人間(頭部)	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1965(昭和40)	FRP	49.0×34.0×26.0	西村祐次(M1号)蔵
II-90	ラゴン(頭部)	高山良策(オリジナル制作)	1987(昭和62)頃(レプリカ) オリジナルは1965(昭和40)	FRP	56.0×27.0×37.0	西村祐次(M1号)蔵
II-91	題不詳(感謝状)(1974)関連作品	高山良策	1975(昭和50)	水彩・紙	57.0×75.0	西村祐次(M1号)蔵
II-92	レッドキング	高山良策	1966年以後	鉛筆・紙	20.0×14.6	西村祐次(M1号)蔵
II-93	チブル星人	高山良策	1968年以後	鉛筆・紙	20.7×18.2	西村祐次(M1号)蔵
II-94	怪獣造形用人型(胴体、腕、脚)	高山良策		針金、金網、紙	155.0×35.0×30.0、 82.0×23.0×25.0 他	
II-95	怪獣造形用人型	高山良策	1960年代	針金、金網	155.0×35.0×30.0	西村祐次(M1号)蔵
II-96	怪獣造形用採寸図	高山良策	1960年代	サインペン・紙	36.4×25.7	西村祐次(M1号)蔵
II-97	スケッチブック	高山良策		インク他・紙	B4	西村祐次(M1号)蔵
II-98	ベギラを制作する高山良策		1965(昭和40)	写真	A3	
II-99	ガラモンを制作する高山良策		1965(昭和40)	写真	A3	
II-100	高山良策と制作した『ウルトラQ』の怪獣たち。「多摩テック」遊園地にて		1966(昭和41)	写真	A3	
II-101	アントラーと高山良策		1966(昭和41)	写真	A3	
II-102	チャンドラーと子どもたち。高山良策アトリエにて		1966(昭和41)	写真	A3	
II-103	高山良策。改造のために戻されたベムラーとビーターとともに		1966(昭和41)	写真	A3	
II-104	高山良策アトリエにて。パンナ制作中		1966(昭和41)	写真	A3	
II-105	高山良策アトリエにて制作中のダダ		1966(昭和41)	写真	A3	
II-106	チブル星人。高山良策アトリエにて		1967(昭和42)	写真	A3	
II-107	ボール星人とカナン星人。高山良策アトリエにて		1968(昭和43)	写真	A3	

出品番号	作品/資料名	制作者名ほか	制作年/撮影年	材質・形状	寸法(縦×横または高さ×幅×奥行) 所蔵
II-108	ガンダー。高山良策アトリエにて		1968(昭和43)	写真	A3
II-109	ギエロン星獣。高山良策アトリエにて		1968(昭和43)	写真	A3
II-110	高山良策造形によるウイングダム		1967(昭和42)	写真	A3
II-111	高山良策造形によるバスター (3面写真)		1966(昭和41)	写真 (3点)	A3
II-112	高山良策造形によるドラコ (3面写真)		1966(昭和41)	写真 (3点)	A3
II-113	「アトリエ・メイ」看板			木	77.0×45.0×6.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-114	高山良策の怪獣造形道具等		1947(昭和22)他	木他	11.4×17.6×33.0 西村祐次 (M1号) 蔵 他
II-115	高山良策関連資料		1966(昭和41)他	印刷物他	B5/長4他 西村祐次 (M1号) 蔵
II-116	ジェットビートル	郡司模型製作所	1988年(再制作) オリジナルは1965(昭和40)頃	真鍮	14.5×39.0×59.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-117	ウルトラホーク2号	郡司模型製作所	1967(昭和42)頃	ブリキ、木、FRP	140.0×25.0×25.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-118	ウルトラホーク2号	郡司模型製作所	1967(昭和42)頃	真鍮	径6.5×高さ29.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-119	小型(三角)ビートル(羽根部分)	郡司模型製作所	1965(昭和40)頃	木	2.5×11.0×13.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-120	S型特殊潜行艇(翼部分)	郡司模型製作所	1965(昭和40)頃	真鍮、トタン	2.8×7.0×33.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-120-02	S型特殊潜行艇		1966(昭和41)	写真	B2
II-121	科学特捜隊カタパルト		1965(昭和40)頃	木	25.0×78.0×73.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-122	ジャミラ円盤		1966(昭和41)	鉄、FRP	17.0×32.4×32.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-122-02	ジャミラ円盤		1966(昭和41)	写真	B2
II-123	ゼットン星人小型円盤		1967(昭和42)	塩化ビニール、電球、 ビニールテープ	7.0×20.0×25.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-124	クール星人円盤		1967(昭和42)	FRP	14.0×60.0×60.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-125	キングジョー(頭部)		1967(昭和42)	FRP、アクリル、金属	32.0×75.0×23.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-125-02	ウルトラセブンvsキングジョー		1967(昭和42)	写真	B2
II-126	キングジョー(胸部)		1967(昭和42)	FRP、アクリル、セロハ ン	36.0×49.0×22.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-127	キングジョー(前腕)		1967(昭和42)	発泡スチロール	51.0×14.0×14.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-128	キングジョー(脚の一部)		1967(昭和42)	発泡スチロール、FRP	径18.0×48.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-129	プロテ星人円盤		1968(昭和43)	金属	70.0×161.0×70.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-130	ブラチク星人宇宙戦車		1968(昭和43)	木	18.0×15.0×37.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-131	ゴース星人(コスチューム)		1968(昭和43)	布、ビニール	72.0×50.0 西村祐次 (M1号) 蔵
II-131-02	ゴース星人		1968(昭和43)	写真	B2
II-132	怪獣供養	実相寺昭雄	2004(平成16)	墨、紙	21.2×29.8 西村祐次 (M1号) 蔵
A-01	ウルトラセブン初稿	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	44.5×37.5 青森県立美術館蔵
A-02	ウルトラマン	成田 亨	1966(昭和41)	ペン、水彩・紙	36.4×25.3 青森県立美術館蔵
A-03	ウルトラマン初稿	成田 亨	1966(昭和41)	ペン、水彩・紙	35.7×24.5 青森県立美術館蔵
A-04	ウルトラ警備隊隊員コスチューム	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	36.2×22.7 青森県立美術館蔵
A-05	エレキング	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	36.8×32.6 青森県立美術館蔵
A-06	カネゴン決定稿	成田 亨	1965(昭和40)	ペン、水彩・紙	34.5×22.2 青森県立美術館蔵
A-07	キングジョー決定稿	成田 亨	1967(昭和42)	鉛筆・紙	33.2×43.5 青森県立美術館蔵
A-08	ケムール人	成田 亨	1965(昭和40)	水彩・紙	34.7×25.1 青森県立美術館蔵
A-09	ゴーガ注意書き	成田 亨	1965(昭和40)	ペン・紙	18.1×31.8 青森県立美術館蔵
A-10	ゴドラ星人	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	36.4×25.4 青森県立美術館蔵
A-11	ゴモラ決定稿	成田 亨	1966(昭和41)	ペン、水彩・紙	36.7×34.8 青森県立美術館蔵
A-12	シーボーズ	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	36.6×47.7 青森県立美術館蔵
A-13	ジャミラ	成田 亨	1966(昭和41)	ペン、水彩・紙	36.5×19.8 青森県立美術館蔵
A-14	ゼットンイラスト	成田 亨	1983(昭和58)	ペン、水彩・紙	36.6×25.4 青森県立美術館蔵

出品番号	作品/資料名	制作者名ほか	制作年/撮影年	材質・形状	寸法(縦×横×高さ×輪×奥行)mm	所蔵
A-15	ダダAイラスト	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	38.0×26.8	青森県立美術館蔵
A-16	ダダBイラスト	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	38.0×26.9	青森県立美術館蔵
A-17	ダダCイラスト	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	38.0×26.9	青森県立美術館蔵
A-18	バルタン星人初稿	成田 亨	1966(昭和41)	ペン、鉛筆・紙	36.6×25.7	青森県立美術館蔵
A-19	ビッド星人	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	36.6×27.6	青森県立美術館蔵
A-20	ブルトン	成田 亨	1966(昭和41)	鉛筆、水彩・紙	24.2×31.0	青森県立美術館蔵
A-21	ベムラー	成田 亨	1966(昭和41)	ペン・紙	38.8×25.6	青森県立美術館蔵
A-22	ベムラー(ウルトラマン)初稿	成田 亨	1965(昭和40)	ペン・紙	35.7×24.4	青森県立美術館蔵
A-23	メトロン星人	成田 亨	1967(昭和42)	ペン、水彩・紙	39.6×36.5	青森県立美術館蔵
A-24	レッドキング	成田 亨	1966(昭和41)	ペン、水彩・紙	38.6×36.3	青森県立美術館蔵

III 手づくりの夢の現場

III-01	科学特捜隊ヘルメット(フジ隊員用)		1965(昭和40)頃	ポリエステル樹脂、アルミ ルミ製造、合成皮革、 鉄材	21.0×21.0×27.0	西村祐次(M1号)蔵
III-02	科学特捜隊隊員服(フジ隊員用)		1965(昭和40)頃	エラストティック	長さ51.5(上衣)	西村祐次(M1号)蔵
III-03	流星マーク(科学特捜隊隊員腕用)		1965(昭和40)頃	フェルト	6.0×3.5	西村祐次(M1号)蔵
III-04	流星マーク(タイピン)		1966(昭和41)頃	金属	4.5×0.8	西村祐次(M1号)蔵
III-05	流星型通信機	M1号	1992(平成4)(レプリカ) オリジナルは1965(昭和40) 頃	真鍮	4.0×1.5	西村祐次(M1号)蔵
III-06	スーパーガン(ホルダー付き)		1965(昭和40)頃	アルミ製造、真鍮	12.0×3.0×20.0	西村祐次(M1号)蔵
III-07	スパイダーショット	M1号	1995(平成7)(レプリカ) オリジナルは1965(昭和40) 頃	ポリエステル樹脂、真 鍮	24.0×11.0×38.5	西村祐次(M1号)蔵
III-08	科学特捜隊関連資料		1966(昭和41)他	サインペン、紙他	23.0×25.0他	西村祐次(M1号)蔵
III-09	ウルトラ警備隊ヘルメット(アマギ隊員用)		1967(昭和42)頃	ポリエステル樹脂、金 属、合成皮革	22.0×22.0×29.0	西村祐次(M1号)蔵
III-10	ウルトラ警備隊ヘルメット		制作年不詳(レプリカ) オリジナルは1967(昭和42) 頃	ポリエステル樹脂、金 属、合成皮革	22.0×22.0×29.0	西村祐次(M1号)蔵
III-11	ウルトラ警備隊隊員服(キリヤマ隊長用)		1967(昭和42)頃	ポリエステル樹脂、金 属、合成皮革(ヘルメッ ト) エラストティック、 ゴム(上衣)	22.0×22.0×29.0 長さ65.0(上衣)	原口智生蔵
III-12	ウルトラ警備隊ブーツ(ソガ隊員用)		1967(昭和42)頃	合成皮革	26.0×10.0×27.0	西村祐次(M1号)蔵
III-13	ウルトラ警備隊ベルト		制作年不詳(レプリカ)	合成皮革、金属		西村祐次(M1号)蔵
III-14	ウルトラガン		1980年代のレプリカ	真鍮、プラスチック		西村祐次(M1号)蔵
III-15	ウルトラ警備隊ビデオシーバー		1980年代のレプリカ	金属	ビデオ面:0.8×4. 5×3.5	西村祐次(M1号)蔵
III-16	ウルトラ警備隊、ウルトラセブン出演者等 関連資料		1967(昭和42)頃 他	サインペン・紙他	25.0×22.4他	西村祐次(M1号)蔵
III-17	『ウルトラセブン』最終回シナリオ(直筆 金城哲夫 原稿)		1968(昭和43)	インク・紙	B5	西村祐次(M1号)蔵
III-18	『ウルトラQ』シナリオ(全28話)		1964~65(昭和39~40)	印刷物	B5	西村祐次(M1号)蔵
III-19	『ウルトラマン』シナリオ(全39話)		1966~67(昭和41~42)	印刷物	B5	西村祐次(M1号)蔵
III-20	『ウルトラセブン』シナリオ(全49話)		1967~68(昭和42~43)	印刷物	B5	西村祐次(M1号)蔵
III-21	企画書、NG稿等				B5	西村祐次(M1号)蔵
III-22	ウルトラマン絵コンテ		1966(昭和41)	コピー・紙	B5	西村祐次(M1号)蔵
III-23	ウルトラマン(Aタイプ)	撮影:大島康嗣	1966(昭和41)	写真	A3	
III-24	ウルトラセブン	撮影:大島康嗣	1967(昭和42)	写真	A3	
III-25	ウルトラマン、試着時の写真		1966(昭和41)	写真	A3	
III-26	ウルトラマン(Bタイプ)。東京美術センター (東京都世田谷区大蔵)の裏にて		1966(昭和41)	写真	A3	
III-27	ウルトラマン(Cタイプ)		1967(昭和42)	写真	A3	
III-28	円谷英二、ウルトラマン、科特隊、怪獣 (第2回撮影会)		1966(昭和41)年 6月16日	写真	A3	

出品番号	作品／資料名	制作者名ほか	制作年／撮影年	材質・形状	寸法(縦×横または高さ×幅×奥行cm)	所蔵
III-29	円谷英二とウルトラマン (第1回撮影会)		1966(昭和41)年4月1日	写真	A3	
III-30	ウルトラマンと、演じた古谷敏		1966(昭和41)	写真	A3	
III-31	『ウルトラQ/地底超特急西へ』演出中の飯島敏宏監督		1965(昭和40)	写真	A3	
III-32	撮影中のウルトラマン		1966(昭和41)	写真	A3	
III-33	『ウルトラマン/オイルSOS』撮影風景		1966(昭和41)	写真	A3	
III-34	『ウルトラマン/悪魔はふたたび』撮影風景。左から3人目が円谷英二		1966(昭和41)	写真	A3	
III-35	ジェットビートル撮影風景		1966(昭和41)頃	写真	A3	
III-36	ゴモラと大阪城の撮影準備		1966(昭和41)	写真	A3	
III-37	ゴモラと大阪城撮影風景		1966(昭和41)	写真	A3	
III-38	「ウルトラマン/海底科学基地」撮影風景		1966(昭和41)	写真	A3	
III-39	眠るばかりの怪獣ガヴァドン (B)		1966(昭和41)	写真	A3	
III-40	自動車事故で亡くなった子どもの化身、怪獣ヒドラ		1966(昭和41)	写真	A3	
III-41	怪獣ウー		1967(昭和42)	写真	A3	
III-42	円谷英二も参加した『ウルトラセブン』放映前の記者会見		1967(昭和42)年8月21日	写真	A3	
III-43	『ウルトラセブン/北へ還れ!』撮影風景		1968(昭和43)	写真	A3	
III-44	『ウルトラセブン/湖のひみつ』撮影風景		1967(昭和42)	写真	A3	
III-45	ウルトラセブン		1967(昭和42)	写真	A3	
III-46	ウルトラホーク1号の三尺モデル。東京美術センターにて		1967(昭和42)	写真	A3	
III-47	ウルトラホーク1号と二子山の基地、撮影風景		1967(昭和42)	写真	A3	
III-48	ポインター		1967(昭和42)	写真	A3	
III-49	ポインター(斜め後ろから)		1967(昭和42)	写真	A3	
III-50	ウルトラセブンを囲んで。後列左から二人目は円谷一監督。『ウルトラセブン/闇に光る目』撮影現場にて		1967(昭和42)	写真	A3	
III-51	『ウルトラセブン』演出中の実相寺昭雄監督		1967(昭和42)	写真	A3	
III-52	ウルトラセブン最終回を演出中の満田稔監督		1968(昭和43)	写真	A3	
III-53	高野宏一特技監督とエレキング		1967(昭和42)	写真	A3	
III-54	『ウルトラセブン/ウルトラ警備隊西へ(後編)』撮影風景		1967(昭和42)	写真	A3	
III-55	『ウルトラセブン/水中からの挑戦』撮影風景		1968(昭和43)	写真	A3	
III-56	ちゃぶ台をはさんだダンとメトロン星人		1967(昭和42)	写真	A3	
III-57	夕陽のメトロン星人		1967(昭和42)	写真	A3	
III-58	工場街の夕景、ウルトラセブンとメトロン星人の対決		1967(昭和42)	写真	A3	
III-59	円盤状のナース		1967(昭和42)	写真	A3	
III-60	円盤状のナース(真上から)		1967(昭和42)	写真	A3	
III-61	分離して飛行するキングジョー		1967(昭和42)	写真	A3	
III-62	ノンマルト		1968(昭和43)	写真	A3	
III-63	ウルトラQ怪獣の撮影会(左からカネゴン、ラゴン、M1号)。向ヶ丘遊園(神奈川県川崎市)にて		1966(昭和41)	写真	A3	
III-64	ウルトラQ怪獣の撮影会。向ヶ丘遊園(神奈川県川崎市)		1966(昭和41)	写真	A3	
III-65	「ウルトラマン/さらばウルトラマン」撮影時のスナップ		1967(昭和42)	写真	A3	
III-66	施設を訪れた怪獣。手前ドラコ、奥エレキング		1967(昭和42)	写真	A3	
III-67	子どもたちとゴドラ星人		1967(昭和42)	写真	A3	
III-68	ウルトラセブンと子どもたち		放映当時	写真	A3	
III-69	三鷹市の商店街をパレードするウルトラセブンたち		1968(昭和43)年11月10日	写真	A3	
III-70	ウルトラ怪獣カード(11枚)	原画:成田亨	1966(昭和41)頃	印刷物	各17.6×17.6	西村祐次(M1号)蔵
III-71	当時のウルトラマン意匠登録図画をもとにしたパネル			木	59.6×84.8	西村祐次(M1号)蔵

出品番号	作品/資料名	制作者名ほか	制作年/撮影年	材質・形状	寸法(縦×横または高さ×幅×奥行mm)	所蔵
III-72	放映当時のソフトビニール怪獣					西村祐次 (M1号) 蔵
III-73	放映当時の雑誌、書籍、グッズ等					西村祐次 (M1号) 蔵

IV 映像のウェーブ～現代のフィギュアとインスタレーション

IV-01-01	「メガソフビ」ウルトラマン (Cタイプ)	制作：㈱海洋堂 原型：木下隆志	2000(平成12)	ソフトビニールキット	40.0×19.0×14.8	㈱海洋堂蔵
IV-01-02	「メガソフビ」ウルトラセブン	制作：㈱海洋堂 原型：木下隆志	2000(平成12)	ソフトビニールキット	40.0×20.6×14.0	㈱海洋堂蔵
IV-02-01	「Monster Classics-30cmウルトラ怪獣シリーズ」ゴルドン	制作：怪獣無法地帯 原型：村田幸徳	2008(平成20)	ガレージキット	22.0×16.0×42.0	怪獣無法地帯蔵
IV-02-02	「Monster Classics-30cmウルトラ怪獣シリーズ」ペロリンガ星人	制作：怪獣無法地帯 原型：村田幸徳	2009(平成21)	ガレージキット	31.0×14.0×12.0	怪獣無法地帯蔵
IV-02-03	「Monster Classics-30cmウルトラ怪獣シリーズ」ゴロン星人	制作：怪獣無法地帯 原型：村田幸徳	2010(平成22)	ガレージキット	30.0×25.0×25.0	怪獣無法地帯蔵
IV-03	「Monster Gallery-1/350ウルトラ怪獣シリーズ」ウルトラマンvsザンボラー	制作：怪獣無法地帯 原型：村田幸徳	2004(平成16)	ガレージキット	13.5×10.5×25.0	怪獣無法地帯蔵
IV-04-01	「リアルアクションヒーローズ」ガラモン	制作：㈱メディコム・トイ 原型：奥田茂喜 (アトリエG-1)	2007(平成19)	可動フィギュア	高さ約30.0	㈱メディコム・トイ蔵
IV-04-02	「リアルアクションヒーローズ」シーボーズ	制作：㈱メディコム・トイ 原型：奥田茂喜 (アトリエG-1)	2009(平成21)	可動フィギュア	高さ約30.0	㈱メディコム・トイ蔵
IV-05-01 ～05-54	「大怪獣シリーズ」ウルトラマン編	制作：㈱エクスプラス	2005(平成17)～	ソフトビニール(完成品)	高さ約20.0	㈱エクスプラス蔵
IV-06-01 ～06-34	「大怪獣シリーズ」ウルトラセブン編	制作：㈱エクスプラス	2005(平成17)～	ソフトビニール(完成品)	高さ約20.0	㈱エクスプラス蔵
IV-07-01 ～07-145	「ウルトラ怪獣名鑑」「ウルトラ怪獣戯画」シリーズ	制作：バンダイ ディ事業部	2002～08(平成14～20)	PVC(ポリ塩化ビニール)、ABS他	高さ約6.0	バンダイ キャンディ事業部蔵および個人蔵
IV-08	Realistic Virtuality (Flying Giant)	伊藤隆介	2003/2010(平成15/22)	CCDカメラ、液晶プロジェクトクター、モーター、照明器具、ミクストメディア	400.0×560.0×720.	作家蔵

特別出品

S-01	ウルトラマン飛びポーズ		2003(平成15)	FRP		
------	-------------	--	------------	-----	--	--

■開館30周年記念展 日本の70年代 1968-1982 The 70s in Japan 1968-1982

- 会期：2012年9月15日（土）～11月11日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社
- 協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
- 協力：JR東日本大宮支社、FM NACK 5
- 観覧料：一般1,000円（800円）、大高生800円（640円）
- 入場者数：12,825人
- 広報印刷物：ちらし（42.0×21.0cm、折りサイズ21.0×21.0cm）／デザイン：大溝 裕（Glanz）
- 担当学芸員：前山裕司、平野 到、梅津 元



ちらし

■開催趣旨

学生運動の激化や大阪万博の熱狂など、1970年前後の日本は、熱い時代を迎えた。同じ頃、様々な分野の表現者が大胆に交流しながら、芸術を根源から問い直そうとする動きが起こる。表現することを疑い、原点を探るような試みが多く現れ、同時に万博に反対する反万博や、権威と見なされた組織への反抗なども起こる。時代の気分が大きく変化した70年代後半になると、原点から再出発するように絵画が復権する。軽やかで日常的なイラストレーションも多く見られるようになる。若者文化を取り上げる雑誌が次々と創刊され、セゾン文化と呼ばれる西武百貨店を中心とし

たデザインやコマーシャルの華やかさが、この時代を彩った。本展は、当館が開館した1982年までの15年間の時代の精神を、美術、デザイン、建築、写真、演劇、音楽、漫画などによって回顧した。

■カタログ

- 規格：21.1×14.9cm、288頁
- 編集：、前山裕司、平野到、梅津元（埼玉県立近代美術館）
- デザイン：大溝裕（Glanz）
- 印刷：アベイズム株式会社
- 発行：埼玉県立近代美術館、美術館連絡協議会
- 内容：【テキスト】前山裕司「70年代の気分を読み解くために」、平沢剛「1970年代の再検証のために」、建畠哲「転換点としての70年代美術」、西村智弘「実験映画と自主制作の時代」、飯沢耕太郎「ラディカリズムとコマーシャルイズムの行方—1970年代の日本写真」、前山裕司「回想の西武美術館」、「コラム」前山裕司、平野到、梅津元【資料等】年表、索引、出品リスト（差し込み）
- 価格：1,300円

■関連事業

- ・公開インタビュー「日本の1970年代文化論（日本の1970年代とはどういう時代だったのか）」／10月5日（金）／ゲスト：辻井喬／堤清二（詩人・作家、日本芸術院会員、セゾン文化財団理事長）、聞き手：建畠哲、前山裕司／講堂／参加者：110人。
- ・映画上映会「略称・連続射殺魔」／10月14日（日）11時～、14時30分～。2回目終了後、松田政男によるアフタートーク。聞き手：平沢剛／講堂／参加者：計73人。
- ・ミュージアム・コンサート「つややかなる声のよそおい」／10月21日（日）／出演：黒沢綾（ヴォーカル、ピアノ）、関根彰良（ギター）、ゲスト：田村真寛（サクソフォン）／センターホール／参加者：82人。
- ・「70年代を語る」／出席者：榎本了壺（クリエイティブ・ディレクター／プロデューサー）、萩原朔美（映像作家／演出家）、山崎博（写真家）／10月28日（日）／講堂／参加者：62人。
- ・ミュージアム・コンサート「音の綾、しなやかに」／11月3日（土）／出演：植木昭雄（チェロ）、山田武彦（ピアノ）／講堂／参加者：76人。
- ・ミュージアム・コンサート「ジャズの閃光」／11月11日（日）14時30分～、16時～／出演：井上陽介（ベース）、椎名豊（ピアノ）、ゲスト：田中拓也（サクソフォン）／センターホール／参加者：計149人。
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／9月22日（土）、

10月13日(土) 前山裕司／参加者：計36人。

■広報記録

<新聞>

- ・「70年代の日本 振り返る」『読売新聞』2012年8月27日
- ・小山内伸「70年代は面白い」『朝日新聞』2012年9月11日
- ・『読売新聞』2012年9月14日
- ・「さきたま抄」『埼玉新聞』2012年9月20日
- ・渋沢和彦「デザインが切り開いた時代」『産経新聞』2012年9月26日
- ・三宅芳樹「堤清二氏が公開インタビュー」『埼玉新聞』2012年9月30日
- ・「県立近代美術館で〈日本の70年代〉展」『読売新聞』2012年10月5日
- ・石川翠「前衛芸術の黄金期 失速へ」『東京新聞』2012年10月12日
- ・岸桂子「出版デザインに勢い」『毎日新聞』2012年10月24日
- ・西岡一正「70年代の混沌再現」『朝日新聞』2012年10月31日
- ・平野到「伝説の異彩パピリオン」『読売新聞』2012年11月1日
- ・梅津元「地球を裏返す思考実験」『読売新聞』2012年11月3日
- ・前山裕司「時代の推移細部に宿る」『読売新聞』2012年11月6日
- ・村田真「サブカルとの温度差が特徴」『北海道新聞』2012年11月19日
- ・光田由里「回顧2012 美術」『読売新聞』2012年12月13日
<雑誌、ミニコミ誌等>
- ・前山裕司「70年代とはどういう時代だったか」『美連協ニュース』2012年2月号
- ・「70年代はこんなにおもしろい」『ソカロ』2012年8-9月号
- ・前山裕司「『アンアン』創刊号」『サラダハウス』2012年10月号
- ・住友文彦「前衛芸術の後に引き継がれたもの」『中央公論』2012年10月号
- ・『Seoul Art Guide』2012年10月号
- ・平井玄「1970年代、果たして埼玉は〈荒野〉だったのか」『ブルータス』2012年10月1日号
- ・「時代の精神を美術や写真などで回顧」『タウンわたらせ』2012年10月6日号
- ・武田徹・永江朗対談「あの頃の未来に」『週刊読書人』2012年10月19日号

- ・「特集 70年代をひも解く」『日々の新聞』2012年11月15日号
- ・前山裕司「開館30周年と記念展〈日本の70年代 1968-1982〉」『関東の博物館』2013年3月25日37号
- ・「美連協奨励賞」『美連協ニュース』2013年5月号
- ・告知：『別冊ユーラシアニュース』2012年4月20日号／『彩の国だより』2012年8月号／『ぱど 埼玉中央版』2012年8月31日号／『たまログ』2012年9月号／『しろがね』2012年9月号／『J:COMクーポン』2012年9月号／『ぱびるす』2012年9月号／『たまログ』2012年9月号／『リエール』2012年9月号／『J:COMクーポン』2012年9月号／『ピバ・アミーゴ』2012年9月7日号／『ぱど 川越エリア』2012年9月14日号／『ショッパー』2012年9月20日号／『中央公論』2012年10月号／『美術の窓』2012年10月号／『書道界』2012年10月号／『武州路』2012年10月号／『リエール』2012年10月号／『別冊ユーラシアニュース』2012年10月号／『埼玉中央よみうり』2012年10月5日号／『リビングさいたま』2012年10月20日号／『アコレ・おおみや』2012年10・11月号／『ぷちぶんか村』2012年10・11月号

<テレビ、ラジオ>

- ・NHK「新日曜美術館 アートシーン」2012年10月21日

■担当後記

◆70年代の文化を包括的に取り上げた初の展覧会であるため、多くのジャンルへの広がりや無限の資料の山から何を選択し、どれを捨てるかを決めるのが最大の難問だった。出品作品の選定には時間がかかり、最終的にはどの雑誌を展示し、どの頁を開くかを、展示をしながら決めることとなった。そのために、並行作業でキャプションを作成するというアクロバティックな作業となった。

◆会場内で、学生の部屋の再現を行った。設定は、70年代半ばにデザインの勉強する男子学生の実家の部屋で、上がって色々な物に触ることができるようにした。この部屋は映画の美術監督と東映の協力がなければ、実現できなかっただろう。だが、部屋が広すぎるとか、持っているものが良すぎる、などの指摘もあった。

◆期せずして、東京国立近代美術館の「実験場1950年代」、ニューヨーク近代美術館の「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」と、日本の50、60、70年代を扱う展覧会がほぼ同時期に開催されることとなった。日本の戦後美術を検証する機運の高まりといえるが、12月23日にはこれら3館の担当者を含むシンポジウムも東京国立近代美術館で開催された。

◆広島市現代美術館での巡回(2013年4月20日～7月7日)は、

一部出品作を組み替えた内容となった。これは巡回決定が遅れたため、改めての出品依頼であったことや輸送経費の問題だったが、むしろ70年代を知らない広島を担当者が自由に解釈する機会として期待した。基本コンセプトを保持しながら、同館の所蔵作品を追加し、展示も当館の混沌を目指したとは異なる、整然とした展示となり、まったく違う印象となった。
(前山裕司)



会場風景



会場風景



会場風景

■ 出品リスト

【凡例】出品リストの順番は、概ね展示の順番に従った。／図録の図版には、出品リストの作品を抜粋して掲載した。／原則として、データは「作者名・作品名(雑誌名、著書名)・制作年(発行年)・技法等・寸法・出版社名・所蔵者名」の順に記し、適宜、必要なデータを補足した。／展示替のある作品の展示期間は次の通り。前期(2012年9月15日～10月14日)、後期(2012年10月16日～11月11日)。

* 粟津潔《ピアノ炎上》演奏:山下洋輔/1973年/映像:16mmフィルム、ベータカム(DVDで上映)/7分32秒/金沢21世紀美術館蔵

* 佐々木美智子《日大全共闘》1968年/ゼラチン・シルバー・プリント/作家蔵

* 佐々木美智子《いつか死ぬのね》1968年/1974年/映像(DVDで上映)/28分/作家蔵

* 伊坂芳太良《西暦2001の未来商品》1970年/ポスター:オフセット、紙/102.7×72.5cm/ポスターハリス・カンパニー蔵

* 横尾忠則《新宿泥棒日記》映画監督:大島渚/1968年/ポスター:シルクスクリーン、紙/創造社/99.8×71.5cm/国立国際美術館蔵

* 横尾忠則《新宿泥棒日記》ポスター原画、版下、色指定紙/1968年/作家蔵

* 装幀:横尾忠則『わが日本精神改造計画』大島渚著/1972年/産報/個人蔵

* 横尾忠則《第6回東京国際版画ビエンナーレ展》東京国立近代美術館/1968年/ポスター:オフセット、紙/104.4×74.0cm/国立国際美術館蔵

* 表紙デザイン:横尾忠則《第6回東京国際版画ビエンナーレ展》図録/1968年/埼玉県立近代美術館蔵

* 『週刊アンボ』 No.0・1969年6月・第2版(表紙:粟津潔)、No.1・1969年11月17日号(表紙:粟津潔)、No.2・1969年12月1日号(表紙:横尾忠則)、No.3・1969年12月15日号(表紙:井上洋介)、No.4・1969年12月29日号(表紙:滝谷節雄)、No.5・1970年1月12日号(表紙:赤瀬川原平)、No.6・1970年1月26日号(表紙:木村恒久)、No.7・1970年2月9日号(表紙:辰巳四郎)、No.8・1970年2月23日号(表紙:柳生弦一郎)、No.9・1970年3月9日号(表紙:池田稔)、No.10・1970年3月23日号(表紙:片山健)、No.11・1970年4月6日号(表紙:長新太)、No.12・1970年4月20日号(表紙:佐々木マキ)、No.13・1970年4月28日号(折りたたみ形式)/週刊アンボ社/うらわ美術館蔵

- * 赤瀬川原平 / 「櫻画報 第4号」 『朝日ジャーナル』 1970年8月30日号、「櫻画報 第31号」 『朝日ジャーナル』 1971年3月19日号 / 朝日新聞社 / 個人蔵
- * 赤瀬川原平 《The 2nd Anti-Imperialism International Conference Tokyo 国際反帝会議国際実行委員会》1969年 / ポスター: オフセット、紙 / 85.0×59.4cm / 国立国際美術館蔵
- * 赤瀬川原平 《櫻画報 三塚版》1971年 / ポスター: シルクスクリーン、紙 / 102.3×73.2cm / 三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 粟津潔 《なにかいってくれ いま さがす / *ex·pose' 68 / 草月会館ホール / 草月アートセンター・デザイン批評(風土社)》1968年 / ポスター: オフセット、紙 / B1 / 金沢21世紀美術館蔵
- * 粟津潔 《フィルム・アート・フェスティバル / 1969 東京 / 草月会館ホール / フィルム・アート・フェスティバル運営委員会》1969年 / ポスター: オフセット、紙 / B2 / 金沢21世紀美術館蔵
- * 『映画運動誌 眼』 1969年11月1日・第3号 / 1969年 / 杉並シネクラブ / 個人蔵
- * 表紙: 粟津潔 『デザイン批評』 1968年7月・No.6 / 責任編集: 粟津潔、泉真也、川添登、原広司、針生一郎 / 風土社 / 個人蔵
- * 針生一郎・編 『われわれにとって万博とはなにか』 装幀: 多木浩二 / 1969年 / 田畑書店 / 個人蔵
- * 表紙写真: 東松照明 『季刊 KEN 噫! 万博』 1970年7月1日・1号 / 写研 / 個人蔵
- * 表紙: 粟津潔 『季刊藝術 特集・万博とは何か?』 1970年春号・第13号 / 季刊藝術出版 / 個人蔵
- * イメージ・ディレクター: 田名網敬一、フォトグラファー: 原榮三郎 『虚像未来図鑑』 1969年 / プロンズ社 / 三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 『叛』 1968年1号、2号 / 建築家'70 行動委員会 / 個人蔵
- * 亀倉雄策 《EXPO'70(祭)》1969年 / ポスター: フォトグラビア / 103.0×72.8cm / 富山県立近代美術館蔵
- * 伊坂芳太良 《日本万国博覧会場鳥瞰図》1970年 / ポスター: オフセット、紙 / 74.1×105.3cm / 国立国際美術館蔵
- * 横尾忠則 《日本万国博覧会せんい館》日本繊維館協力会 / 1969年 / ポスター: オフセット、紙 / 104×77.2cm / 国立国際美術館蔵
- * 横尾忠則 「せんい館・ドーム内壁デザイン習作」 1968年 / 鉛筆、紙 / 39.6×83.0cm / 松本俊夫蔵
- * せんい館・映像ドーム内壁展開図 / 原案: 横尾忠則、松本俊夫 / 1968年 / 資料: 青焼にペン / 59×84cm / 松本俊夫蔵
- * せんい館・ドーム内映像エリアのレイアウト / 原案: 松本俊夫 / 1968年 / 資料: 青焼にペン / 41.5×58cm / 松本俊夫蔵
- * せんい館 《Space Projection <AKO-Lighting Plan(I)>》原案: 松本俊夫 / 1969年 / 鉛筆、紙 / ほか / 42.5×37.8cm / 松本俊夫蔵
- * 四谷シモン 《ルネ・マグリットの男》1970年 / ウレタン樹脂、布 / 205×74×52cm / 三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * せんい館記録映像(広報映像を編集した記録映像: 約6分、「スペース・プロジェクト・アコ」記録映像: 約15分) / DVDで上映 / 映像提供: 松本俊夫
- * 湯浅譲二 他 「大阪万博・せんい館の音楽」 / Edition OMEGA POINT / CD
- * 「大阪万博・せんい館」関連写真・資料パネル / 「せんい館」全景、外観と大看板(建築デザイン: 横尾忠則、建築設計: 大林組、写真撮影: 遠藤正、1970年)、《せんい館・内部体験空間基本構想》(原案: 松本俊夫、1967年末)、「せんい館・アイディアスケッチ(2点)」(1968年)、「せんい館・建築概念模型と図面」(原案: 松本俊夫、1968年)、「せんい館・建築概念図」(原案: 横尾忠則、1968年)、「せんい館・概念図(2点)」(1968年)、「せんい館・ロビー」(人形: 四谷シモン、1970年、写真撮影: 遠藤正)、「せんい館ドーム内の映像《スペース・プロジェクト・アコ》」(映像: 松本俊夫、写真撮影: 遠藤正、1970年)、「せんい館・映像制作時の集合写真」(1969年) / 以上全て、写真・資料提供: 松本俊夫
- * 「大阪万博・せんい館」関連書籍等 / 『せんい館 繊維は人間生活を豊かにする』編集: 日本繊維館協力会 / 1970年 / 大阪府立中之島図書館蔵、『せんい館』編集・刊行: 日本繊維館協力会 / 1970年 / 大阪府立中之島図書館蔵、「せんい館」『EXPO'70の建築 パビリオン・基幹施設の計画と工法』1970年 / 工業調査会 / 大阪府立中之島図書館蔵、「せんい館」『装置空間EXPO'70 そのメカニズムとデザインを探る』 / 『商店建築』1970年3月号臨時増刊 / 商店建築社 / 大阪府立中之島図書館蔵、『日本万国博覧会 公式ガイド』1970年 / 日本万国博覧会協会 / 個人蔵、『5000万人のための万国博オーラルガイド』1970年 / 実業之日本社 / 個人蔵、「せんい館」『EXPO'70 スタンプコレクション』1970年 / 個人蔵、「せんい館とロープウェイ」『EXPO'70 ポストカードセット』1970年 / 個人蔵、「せんい館」『アサヒグラフ増刊 開幕! 日本万国博』1970年4月1日 / 朝日新聞社 / 個人蔵、「せんい館」『EXPO'70 日本万国博覧会 上巻』1970年 / 国際情報社 / 個人蔵、「せんい館」『万国博カラーガイド 中一・中二・中三時代合同臨時増刊』1970年5月1日 / 旺文社 / 個人蔵
- * アートディレクション: 堀内誠一 『平凡パンチ臨時増刊女性版』4号 / 1970年2月 / 表紙イラストレーション: 大橋歩 / 平凡出版 / 堀内事務所蔵
- * 『アンアン』 創刊号・テスト版 / 1970年 / 堀内事務所蔵
- * アートディレクション: 堀内誠一 『アンアン』 創刊号 / 1970年3月20日号 / 表紙写真: 立木義浩 / 平凡出版 / 堀内事務所蔵
- * アートディレクション: 堀内誠一 『アンアン』 2号 / 1970年4月5日号 / 平凡出版 / 堀内事務所蔵
- * 堀内誠一の手帖 / 1970年1月 / 堀内事務所蔵
- * 《DISCOVER JAPAN 美しい日本と私》日本国有鉄道 / 制作: 電通(キャンペーン企画・藤岡和賀夫) / 1970年代初頭 / ポスター: オフセット、紙 / B1 / 鉄道博物館蔵 / 前期展示(長野・伊那地方のポスター)、後期展示(奥能登のポスター)
- * 中村誠 《BRONZE SUMMER》資生堂 / 写真: 横須賀功光 / 1969年 / ポスター: オフセット、紙 / 103.0×72.8cm / 富山県立近代美術館蔵
- * 『びあ』 1972年創刊号・8月号・通巻1号、1972年9月号・通巻2号、1972年10月号・通巻3号(以上、表紙: 高比良芳実)、1974年3月号・通巻19号、1975年2月号・通巻30号(以上、表紙: 湯浅一夫)、1975年9月号・通巻37号、1975年11月号・通巻39号(以上、表紙: 及川正通) / 月刊びあ編集室 / びあ株式会社蔵
- * 『季刊フィルム』 1968年創刊号、1970年5号、1970年6号、1971年8号、1971年9号、1971年10号、1972年11号、1972年12号 / 表紙デザイン: 粟津潔 / 編集委員: 粟津潔、飯村隆彦、石崎浩一郎、今野勉、武満徹、勅使河原宏、中原佑介、松本俊夫、山田宏一 / フィルムアート社 / 個人蔵
- * 『芸術倶楽部』 1973年7月創刊号～12月号、1974年1月号、1974年2月号、1974年No.8、1974年No.9 / 編集委員: 粟津潔、石崎浩一郎、今野勉、勅使河原宏、寺山修司、中原佑介、松本俊夫 / フィルムアート社 / 個人蔵
- * 粟津潔 『粟津潔デザイン図絵』装幀: 榎本了彦、渋谷青由 / 1970年 / 田畑書店 / 個人蔵
- * 『SUB』 創刊号・1970年12月、2号・1971年4月(表紙: 横尾忠則)、3号・1971年10月(表紙: 浅井慎平)、4号・1972年6月(表紙: 浅井慎平・片庭瑞穂)、5号・1972年12月(表紙: 浅井慎平・片庭瑞穂)、6号・1973年7月(表紙: 片庭瑞穂) / 三原宏元(ピリケン商会)蔵

- * 『グラフィケーション』 1971年7月号(表紙:赤瀬川原平)、1971年8月号(表紙:関根伸夫)、1971年12月号(表紙:中平卓馬)、1972年9月号(表紙:菅木志雄)、1973年2月号(表紙:榎倉康二)、1973年8月号(表紙:粟津潔/富士ゼロックス/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 『男の雑誌 NOW』 1971年13号(表紙:河村要助)、1973年21号(表紙:湯村輝彦)、1973年22号(表紙:矢吹申彦)/文化出版局/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 『TAU(Trans-Architecture & Urban)現象としての建築雑誌』 1972年01号(表紙:木村恒久)、1973年02号(表紙:遺留品研究所)、1973年03号/商店建築社/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 表紙:羽良多平吉(波羅多平吉) 『プレイマップ』 1972年1月号・第4巻31号/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 表紙:横尾忠則 『プレイマップ』 1972年6月・第4巻36号/個人蔵
- * 粟津潔《季刊藝術 秋》原画/1970年/インク、水彩、コラージュ、紙/29.0×20.5 cm/金沢21世紀美術館蔵
- * 表紙デザイン:粟津潔 『季刊藝術』 1970年秋号・vol.4・No.4/季刊藝術出版/埼玉県立近代美術館蔵
- * 粟津潔《建築文化30巻342号1975年4月》原画/1974年/インク、水彩、紙/48.0×34.0cm/金沢21世紀美術館蔵
- * 表紙:粟津潔 『建築文化』 1975年3月号・vol.30・No.341/1975年/彰国社/埼玉県立近代美術館蔵
- * 粟津潔《原子爆弾と二十六聖人》1970年/インク、紙/23.5×34.5cm/金沢21世紀美術館蔵
- * 粟津潔 「あるにもあらぬ世の中の 先ず」 『都市』 1970年Summer・第1巻3号/都市出版社/個人蔵
- * 粟津潔《因果説話 すてたろう》原画/1970-73年/インク、紙/33.0×51.5×0.3cm/金沢21世紀美術館蔵
- * 粟津潔 「すてたろう」 『サンデー毎日増刊 劇画&マンガ 第3集』 1970年8月7日号/毎日新聞社/個人蔵
- * 横尾忠則《由比正雪》劇団状況劇場/1968年/ポスター:シルクスクリーン、紙/100.4×71.5cm/国立国際美術館蔵
- * 横尾忠則《由比正雪》1968年/ポスター原画、色指定紙/作家蔵
- * 赤瀬川原平《少女都市》劇団状況劇場/1969年/ポスター:オフセット、紙/72.7×51.5cm/ポスターハリス・カンパニー蔵
- * 赤瀬川原平《少女都市》劇団状況劇場/1969年/チラシ裏面/25.8×18.6cm/島田安彦コレクション
- * 横尾忠則《毛皮のマリー》天井棧敷/1967年/ポスター:シルクスクリーン、紙/105×75.3cm/国立国際美術館蔵
- * 宇野重喜良《星の王子さま》天井棧敷/1968年/ポスター:シルクスクリーン、紙/103.0×72.8cm/ポスターハリス・カンパニー蔵
- * 及川正通《時代はサーカスの象ののって》天井棧敷/1969年/ポスター/72.0×34.1cm/ポスターハリス・カンパニー蔵
- * 及川正通《書を捨てよ!町へ出よう!》天井棧敷/1969年/ポスター:シルクスクリーン、紙/109×79.4cm/ポスターハリス・カンパニー蔵
- * 粟津潔《大神》天井棧敷フランクフルト公演版/1969年/ポスター:シルクスクリーン、紙/101.5×72.7cm/ポスターハリス・カンパニー蔵
- * 粟津潔《渋谷・天井棧敷館デザイン原画》1969年/ペン、紙/37.7×28.6 cm/ポスターハリス・カンパニー蔵
- * 《渋谷・天井棧敷館正面》写真/写真提供:ポスターハリス・カンパニー
- * 『季刊 地下演劇』 創刊号/装幀:榎本了堯/写真:須田一政/1969年5月1日/グロオバル社/個人蔵
- * 『季刊 地下演劇』 3号/1970年12月1日/装幀:波羅多平吉/編集:寺山修司、芥正彦/地下演劇社/個人蔵
- * 『モンスターグラウンド』 3号/イラストレーション:榎本了堯/責任編集:鶴飼正英/1970年10月15日/発行:モンスターグラウンド編集局/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 《「あしたのジョー」 力石徹葬儀》チラシ/ポスターハリス・カンパニー蔵
- * 《「あしたのジョー」 力石徹葬儀会場写真》写真提供:ポスターハリス・カンパニー
- * カルメン・マキ《時には母のない子のように》1969年/EPレコード/個人蔵
- * 上村一夫《日吉ミリサイタル歌舞伎町篇》1973年/ポスター/B1/上村一夫オフィス蔵
- * 粟津潔《カルチュエ巴瑠古/PARCO》イラストレーション:粟津潔/アートディレクション、デザイン:草刈順/1973年/ポスター:オフセット、紙/B1/金沢21世紀美術館蔵
- * 『VIA PARCO 渋谷パルコ開店 記念グラフ』 編集:小池一子ほか、デザイン:松永真ほか/1973年/西武百貨店、渋谷パルコ/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 《箱根アフロディーテ・コンサート》アートディレクター:馬場雄二/1971年/ニッポン放送/ポスター:オフセット、紙/103×72.8cm /個人蔵
- * 『箱根アフロディーテ・コンサート』 アートディレクション:馬場雄二/1971年/パンフレット/ニッポン放送/個人蔵
- * 《はれんちりさいたる 当世今様 民謡大温習会 ふをうく・くるせだあず ザ・ズートルビー》1968年/ポスター:シルクスクリーン/56.0×42.5cm/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 《あんぐら音楽祭 オープニング・コンサート》写真:黒木さとる、デザイン:広野勝、制作:秦政明/1969年/ポスター:オフセット/57.5×40.8cm/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 《プロテストソング大会》デザイン:広野勝・宮川一朗/1969年/ポスター:シルクスクリーン/56.5×40.8cm/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 《Too Much in Jindaiji》1970年/ポスター:シルクスクリーン/76.7×36.3cm/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 黒川紀章 「Oh! サイボーグの掟」 『SD』 No.52/1969年3月号/鹿島研究所出版会/個人蔵
- * 表紙デザイン:粟津潔/黒川紀章著 『黒川紀章の作品』 1970年/美術出版社/黒川紀章建築都市設計事務所蔵、金沢21世紀美術館蔵
- * 粟津潔《黒川紀章の作品/美術出版社》1970年/両面刷りポスター:シルクスクリーン、紙/102.2×72.8cm/金沢21世紀美術館蔵

- * 黒川紀章《中銀カプセルタワービル住宅カプセル》1972年/ボンデ鋼板、他/268.1×418.1×278.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- * 黒川紀章《中銀カプセルタワービル立面図》、《カプセル・ユニット・アクソメ図》1971年/インク・トレーシングペーパー/各42.0×59.0cm
- * 《中銀カプセルタワービル竣工記念スタンドライト》ほか資料/1972年/照明スタンド/28.0×17.5×13.5cm/個人蔵
- * WORKSHOP MU!!/ポスターカレンダー《Your Sweet Life !》1969年/ポスター:シルクスクリーン、紙/51.5×72.8cm/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * ジャケット・デザイン:WORKSHOP MU!!/小坂忠《ありがとう》1971年/LPレコード/日本コロムビア、成田賢《眠りからさめて》1971年/LPレコード/日本コロムビア、ジミー時田・寺本圭一・斎藤任弘・大野義夫《COUNTRY PUMPKIN》1972年/LPレコード/日本コロムビア、ミッキー・カーチス《耳》1972年/LPレコード/日本コロムビア、麻田浩《グリーンティン・フロム・ナッシュビル》1972年/LPレコード/CBS・ソニーレコード、平尾昌晃・ミッキー・カーチス・山下敬二郎《Forever Rock'n Roll》/1972年/LPレコード/キングレコード、大瀧詠一《大瀧詠一》1972年/LPレコード/キングレコード、大瀧詠一《Niagara Moon》1975年/LPレコード/エレクトレコード、細野晴臣《HOSONO HOUSE》1973年/LPレコード/キングレコード、はっぴいえんど《HAPPY END》1973年/LPレコード/キングレコード、サディスティック・ミカ・バンド《SADISTIC MIKA BAND》1973年/LPレコード/東芝音楽工業/以上全て、三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 高松次郎《光》『サンデー毎日増刊 劇画&マンガ 第3集』1970年8月7日号/毎日新聞社/金沢21世紀美術館蔵
- * 表紙デザイン:横尾忠則『週刊少年マガジン』1970年5月24日号(前期展示)、5月31日号(後期展示)、6月14日号、8月16日号、8月23日号、8月30日号、9月13日号/講談社/5月24日号と5月31日号:川崎市市民ミュージアム蔵、その他:個人蔵
- * 赤瀬川原平《漫画主義No.1-4》1967年/ポスター:シルクスクリーン、紙/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 表紙:赤瀬川原平『漫画主義』No.4・1968年、No.6・1969年、No.9・1972年/個人蔵
- * 表紙:伊坂芳太良『ビッグコミック』1周年記念特別号/1969年4月号/小学館/個人蔵
- * 表紙:和田誠『COM』第4巻第5号/1970年5・6合併号/虫プロ/個人蔵
- * 表紙デザイン:横尾忠則『まんがNo.1』第2巻第1号/赤塚不二夫責任編集/1973年/島田安彦コレクション
- * 表紙:赤瀬川原平『月刊漫画ガロ』No.119/1973年7月号/青林堂/個人蔵
- * 表紙:赤瀬川原平『サンデー毎日増刊 劇画&マンガ 第2集』1970年5月9日号/毎日新聞社/個人蔵
- * 表紙:上村一夫『タッチ』1971年9月創刊号/三崎書房/個人蔵
- * 上村一夫《同棲時代》原画/1972年/漫画アクション(双葉社)に掲載/上村一夫オフィス蔵
- * 上村一夫《修羅雪姫 「外題之八 生命質屋無残始末」》原画/1972年/『週刊プレイボーイ』に掲載/上村一夫オフィス蔵
- * 上村一夫『タッチ』1971年9月創刊号表紙原画/上村一夫オフィス蔵
- * 上村一夫『ヤングコミック』1973年10月10日号表紙原画/上村一夫オフィス蔵
- * 上村一夫《修羅雪姫》第3巻(スタジオジップ)口絵原画/1973年/上村一夫オフィス蔵
- * 上村一夫《同棲時代》第6集(アクション・コミックス)表紙原画/1974年/上村一夫オフィス蔵
- * 真崎・守《連作・はみだし野郎の子守歌 「四角い荒野」》原画/1969年/『ヤングコミック』(少年画報社)に掲載/作家蔵
- * 真崎・守《ジロがゆく》原画/1969年/『月刊少年マガジン』(講談社)に掲載/作家蔵
- * 真崎・守《ロマン歳時記 「かぐや月」》原画/1973年/『高一コース』(学習研究社)に掲載/作家蔵
- * 30時間市街劇「ノック」(天井桟敷)関連資料/『天井桟敷新聞』第16号・30時間市街劇「ノック」(アートディレクション:森崎偏陸/編集人:藤原薫/発行人:九条映子/1975年3月26日)、《30時間市街劇「ノック」台本 1975市街図》(デザイン:榎本了彦/1975年)ほか/ポスター・ハリス・カンパニー蔵
- * 永山則夫『無知の涙』装幀:赤瀬川原平/1971年/合同出版/個人蔵
- * 《略称・連続射殺魔》監督:足立正生/製作:足立正生、松田政男、佐々木守、岩淵進、野々村政行、山崎裕/編集:市丸房子、山田幸子/撮影:1969年/音楽監修:相倉久人/音楽:富樫雅彦、高木元輝/86分
- * 赤瀬川原平《赤軍-P.F.L.P 世界戦争宣言》製作:若松プロダクション/監督:若松孝二、足立正生/1971年/ポスター/B2/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- * 松田政男『風景の死滅』装幀:横田登美子/写真:中平卓馬/1971年/田畑書店/個人蔵
- * 松田政男『テロルの回路』装幀:横田登美子/1969年/三一書房/個人蔵
- * 松田政男『薔薇と無名者 松田政男映画論集』装幀:横田登美子/1970年/芳賀書店/個人蔵
- * 平岡正明『地獄系24 平岡正明評論集』1970年/芳賀書店/個人蔵
- * 平岡正明『ジャズより他に神はなし』1971年/三一書房/個人蔵
- * 平岡正明『あらゆる犯罪は革命的である』装幀:片山健/1972年/現代評論社/個人蔵
- * 平岡正明『永久男根16』装幀:赤瀬川原平/1973年/イザラ書房/個人蔵
- * 平岡正明『マリリン・モンローはプロパガンダである』装幀:長尾信/1973年/イザラ書房/個人蔵
- * 平岡正明『スラップスティック快人伝』1976年/白川書院/個人蔵
- * 平岡正明『戦後日本ジャズ史』装幀:イラスト:長島敏彦/1977年/アディン書房/個人蔵
- * 相倉久人『ジャズからの挨拶』装幀:西部隆一、写真:堀田正実/1968年/音楽之友社/個人蔵
- * 『美德」を逆なでする五人女』『アサヒグラフ』1969年6月13日号/朝日新聞社/個人蔵
- * 『映画批評』編集:批評戦線/70年1号・71年4号・71年7号・72年21号(以上、表紙:赤瀬川原平)、1972年25号・1973年36号(以上、表紙:赤塚不二夫)/発行:新泉社/個人蔵

- *写真:中平卓馬/文:松田政男 『映画批評』 1971年5号/発行:新泉社/個人蔵
- *赤瀬川原平・中平卓馬 「赤馬が見たり」 『映画批評』 1971年13号/発行:新泉社/個人蔵
- *表紙写真:中平卓馬 『シネマ69』 1969年1月1日・創刊号/編集:波多野哲男、手島修三、山根貞男/1969年/個人蔵
- *表紙+見返し写真:森山大道/多木浩二 『建築年鑑 '69 予兆としての季節』 装幀:多木映像デザイン研究所/編集:宮内嘉久/1969年/建築ジャーナリズム研究所/個人蔵
- *『プロヴォーク』 1号・1968年11月、2号・1969年3月、3号・1969年8月/プロヴォーク社/飯沢耕太郎蔵
- *写真:森山大道/文:寺山修司 『にっぽん劇場 写真帖』 装丁:辰巳四郎/1968年/室町書房/三原宏元(ピリケン商会)蔵、飯沢耕太郎蔵
- *多木浩二・中平卓馬編 『まづたしからしさの世界をすてろ 写真と言語の思想』 1970年/田畑書店/飯沢耕太郎蔵
- *中平卓馬 『来るべき言葉のために』 装本:木村恒久/1970年/風土社/飯沢耕太郎蔵
- *中平卓馬 「もうひとつの国(3) 植物図鑑」 『朝日ジャーナル』 1971年8月20・27日合併号/朝日新聞社/個人蔵
- *中平卓馬 『なぜ、植物図鑑か 中平卓馬映像論集』 1973年/晶文社/個人蔵
- *森山大道 『写真よさよなら』 1972年/写真評論社/三原宏元(ピリケン商会)蔵、飯沢耕太郎蔵
- *写真:中平卓馬 『SUNNY 安田南ウィズ山本剛トリオ』 1975年/LPレコード/フラスコ・レコード/個人蔵
- *柏原えつとむ 《これは本である》 1970年/シルクスクリーン、紙/実験印刷工房ばたばた/19.0×13.6×2.0cm/テスト版(1969年)、オフセット版(1973年)も展示/全て、うらわ美術館蔵
- *柏原えつとむ 《Silencer-four panels》 1967年/水性ペイント、カンヴァス/185.3×372.2cm/埼玉県立近代美術館蔵
- *関根伸夫 《位相シリーズ》(『関根伸夫素描集 1960-1976』より)1968年/色鉛筆、鉛筆、紙/28.1×35.2cm/鎌倉画廊蔵
- *関根伸夫 《位相シリーズ》(『関根伸夫素描集 1960-1976』より)1968年/インク、鉛筆、紙/35.2×28.1cm/鎌倉画廊蔵
- *関根伸夫 《位相一大地 1》 1986年/シルクスクリーン(19色19版)、アルシユ紙/87.0×190.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- *関根伸夫 《映像版・位相一大地》 1968年 | 2005年/映像:DVD/7分/埼玉県立近代美術館蔵/写真提供:関根伸夫、村井修、神戸市立須磨離宮公園、西宮市大谷記念美術館/映像編集:町田良夫/企画制作:関根伸夫・埼玉県立近代美術館
- *関根伸夫 《PROGETTO》 1971年/黒焼きコピー、インク、鉛筆、紙/101.1×71.8cm/作家蔵
- *吉田克朗 《650ワットと60ワット》 1970年/コード、電球/可変サイズ/埼玉県立近代美術館蔵
- *写真:中平卓馬 《第10回日本国際美術展 the 10th tokyo biennale 人間と物質 between man and matter》ポスター/1970年/シルクスクリーン、紙/毎日新聞社、日本国際美術振興会/B1
- *表紙写真・表紙デザイン:中平卓馬 『第10回日本国際美術展 tokyo biennale'70:人間と物質 between man and matter図録』 編集:中原佑介、峯村敏明/1970年/毎日新聞社、日本国際美術振興会/個人蔵
- *『第10回日本国際美術展 tokyo biennale'70:人間と物質 between man and matter 報告集』 編集:中原佑介、峯村敏明/1970年/毎日新聞社、日本国際美術振興会/個人蔵
- *中平卓馬 「犬の世界」 『アサヒグラフ』 1969年9月26日号/朝日新聞社/個人蔵
- *『季刊藝術』 第17号・1971年、第18号・1971年、第19号・1971年、第22号・1972年、第36号・1976年、第37号・1976年/表紙・目次・扉デザイン:高松次郎/季刊藝術出版/第37号は個人蔵。その他は埼玉県立近代美術館蔵
- *李禹煥 『出会いを求めて—新しい芸術のはじまりに』 装幀:中平卓馬/1971年/田畑書店/個人蔵
- *中原佑介 『人間と物質のあいだ—現代芸術の状況』 装幀:高松次郎/1972年/田畑書店/個人蔵
- *彦坂尚嘉 『反覆—新興芸術の位相』 装幀:木村恒久/1974年/田畑書店/個人蔵
- *ル・クレジオ(豊崎光一訳) 『物質的恍惚』 装幀:高松次郎/1970年/新潮社/個人蔵
- *ル・クレジオ(豊崎光一訳) 『戦争』 装幀:高松次郎/1972年/新潮社/個人蔵
- *多田道太郎・富岡多恵子対談 『ひとが生きている間』 装幀:菅木志雄/1974年/草思社/個人蔵
- *富岡多恵子 『わたしのオンナ革命』 装幀:菅木志雄/1972年/大和書房/個人蔵
- *宮内康 『宮内康建築論集 風景を撃て 大学一九七〇—七五』 写真:宮本隆司/装幀:松井晴子/1976年/相模書房/個人蔵
- *稲川方人 『新鋭詩人シリーズ7 稲川方人詩集』 作品:原口典之/写真:Georg Nemeec/装幀:菊池信義/1979年/思潮社/個人蔵
- *写真:多木浩二 《第10回現代日本美術展〈人間と自然〉》京都市美術館のためのポスター/1971年/オフセット、紙/京都市、毎日新聞社、日本国際美術振興会/B1
- *高松次郎 《布の弛み》 1970年/布/240.0×240.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- *高松次郎 《日本語の文字(この七つの文字)》 1970年/オフセット、リトグラフ、紙/72.8×51.0cm/The Estate of Jiro Takamatsu/Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- *高松次郎 《紙の単体》 1971年/色紙、紙/48.4×30.5cm/The Estate of Jiro Takamatsu/Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- *高松次郎 《紙の単体》 1973年/色紙、紙/47.3×29.8cm/The Estate of Jiro Takamatsu/Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- *高松次郎 《写真の写真》 1972-73年/ゼラチン・シルバー・プリント/20.5×25.4cm/The Estate of Jiro Takamatsu/Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- *高松次郎 《写真の写真》 1973年/ゼラチン・シルバー・プリント/25.4×20.5cm/The Estate of Jiro Takamatsu/Courtesy of Yumiko Chiba Associates

-
- *高松次郎《写真の写真》1973-74年/ゼラチン・シルバー・プリント/25.8×20.2cm/The Estate of Jiro Takamatsu/Courtesy of Yumiko Chiba Associates
-
- *榎倉康二《予兆-鉛の塊・空間へ(1)P.W.-No.41》1972年/ゼラチン・シルバー・プリント/37.8×49cm
-
- *榎倉康二《予兆-鉛の塊・空間へ(2)P.W.-No.42》1972年/ゼラチン・シルバー・プリント/46×56cm
-
- *榎倉康二《予兆-鉛の塊・空間へ(5)P.W.-No.45》1972年/ゼラチン・シルバー・プリント/46×56cm
-
- *野村仁《Dec.1973-Oct.1974 又は 視覚のブラウン運動》1973-74年/映像:16mmフィルム(DVDで上映)/37分(1秒24コマ)/埼玉県近代美術館蔵/今回は1秒8コマ相当で上映
-
- *北辻良央《作品》1973年/鉛筆、写真、トレーシングペーパー/2点1組で全21セット:各29.5×42.1cm/作家蔵
-
- *山中信夫《川を写したフィルムを川に映す》(資料展示)1971年/記録写真2枚、プラン(コピー)、案内ハガキ/協力:栃木県立美術館
-
- *山中信夫《川のカドラーージュ》(資料展示)1972年/記録写真2枚/協力:栃木県立美術館
-
- *山中信夫《Diffusion de Riviere》(資料展示)1972年/記録写真2枚、プラン(コピー)/協力:栃木県立美術館
-
- *山中信夫《転写》1972年/リスフィルム
-
- *山中信夫《転写》1972年/リスフィルム
-
- *山中信夫「自作解説」『第5回現代の造形〈映像表現'72〉-もの・場・時間・空間-Equivalent Cinema』図録/1972年/現代の造形実行委員会、京都新聞社/協力:栃木県立美術館
-
- *萩原朔美《TIME》/1971年/映像:16mmフィルム(DVDで上映)/7分/作家蔵
-
- *萩原朔美《KIRI》/1972年/映像:16mmフィルム(DVDで上映)/9分/作家蔵
-
- *萩原朔美《日曜日に僕が見たもの》/1973年/映像:ビデオ(DVDで上映)/5分/作家蔵
-
- *谷川晃一《タージ・マハル旅行団》1970年/ポスター:シルクスクリーン、紙/75.7×51.0cm
-
- *栗津潔《ユートピアズ&ビジョンズ UTOPIA /後楽園アイスパレス/栗津潔、副島輝人、一柳慧、内田裕也、木村英輝、中谷芙二子、ミッキー・カーチス》タージ・マハル旅行団/1971年/両面刷りポスター:シルクスクリーン、紙/B1/金沢21世紀美術館蔵
-
- *「Utopias & Visions」(後楽園アイスパレス)パンフレット/デザイン:栗津潔/1971年/印刷物/三原宏元(ピリケン商会)蔵
-
- *タージ・マハル旅行団《旅について》1971-72年/製作:綜合社/映像:16mmフィルム/DVD版(2008年)/87分/ディスクユニオン/個人蔵
-
- *写真:山崎博「新宿〈マトグロッシ・ギャラリー〉にて」『芸術倶楽部』1973年12月号/1973年/個人蔵
-
- *「Utopia & Visions」展でのタージ・マハル旅行団『グラフィケーション』1971年10月号/三原宏元(ピリケン商会)蔵
-
- *「Utopia & Visions」展でのタージ・マハル旅行団『off jazz』1973年6月25日第7号/1973年/個人蔵
-
- *THE TAJ MAHAL TRAVELERS JULY 15, 1972/1972年/レコード/CBS/SONY/三原宏元(ピリケン商会)蔵
-
- *TAJ-MAHAL TRAVELERS August 1974/1975年/レコード/日本コロムビア/三原宏元(ピリケン商会)蔵
-
- *栗津潔《小杉武久 マノ・ダルマ・コンサート/梅若能楽堂/株式会社トータルメディア開発研究所》1974年/ポスター:オフセット、紙/B1/金沢21世紀美術館蔵
-
- *杉浦康平《田中未知の言語楽器展》ゼロックス・ナレッジイン/1974年/ポスター:オフセット、紙/72.6×51.4cm/富山県近代美術館蔵
-
- *横尾忠則《STONE 音響標定(藤原和通)》1974年/ポスター:シルクスクリーン、紙/103.4×73.2cm/国立国際美術館蔵
-
- *山崎博《土方巽》ゼラチン・シルバー・プリント/25.0×16.2cm
-
- *山崎博《TV(万博)》1970年/ゼラチン・シルバー・プリント/18.5×27.5cm
-
- *山崎博《演劇センター68/70》1970年/ゼラチン・シルバー・プリント/15.0×22.0cm
-
- *山崎博《海亀、栗津潔》1972年/ゼラチン・シルバー・プリント/16.2×23.9cm
-
- *山崎博《寺田武弘》1971年/ゼラチン・シルバー・プリント/19.5×20.0cm
-
- *山崎博《赤瀬川原平》1971年/ゼラチン・シルバー・プリント/24.0×16.3cm
-
- *山崎博《東由多加》1971年/ゼラチン・シルバー・プリント/14.7×21.8cm
-
- *山崎博《東由多加》1971年/ゼラチン・シルバー・プリント/21.5×14.5cm
-
- *山崎博《タージ・マハル旅行団》1971年/ゼラチン・シルバー・プリント/16.0×24.2cm
-
- *山崎博《寺山修司》ゼラチン・シルバー・プリント/26.6×17.7cm
-
- *山崎博《新宿》ゼラチン・シルバー・プリント/19.7×19.5cm
-
- *山崎博《山下洋輔》1973年/ゼラチン・シルバー・プリント/16.8×24.5cm
-
- *山崎博《山下洋輔》1973年/ゼラチン・シルバー・プリント/16.8×24.5cm
-
- *山崎博《鵠沼》ゼラチン・シルバー・プリント/15.8×23.8cm
-
- *山崎博《鵠沼》ゼラチン・シルバー・プリント/18.6×27.5cm
-
- *山崎博《鵠沼》ゼラチン・シルバー・プリント/18.6×27.5cm
-
- *篠山紀信『晴れた日』1975年/平凡社/29.5×23.1cm/個人蔵
-

- *山本容子《Papa's and Mama's (JUNE BRAND '75)》1975年/ソフトグランド・エッチング、シルクスクリーン、フロッタージュ、紙/54.0×86.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- *山本容子《Papa Land (JUNE BRAND '75)》1975年/ソフトグランド・エッチング、紙/45.0×60.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- *山本容子《Asparagus Guy (JUNE BRAND '77)》1977年/ソフトグランド・エッチング、アクアチント、紙/45.0×60.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- *山本容子《To the Park (JOURNEY)》1978年/ソフトグランド・エッチング、アクアチント、紙/45.0×60.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- *谷川晃一《タチカワ・ベースキャンプ》1976年/グワッシュ、紙、パネル/73.0×103.0cm
- *宮迫千鶴《イタリアン・ソング》1978年/コラージュ、グワッシュ、紙/76.0×56.0cm
- *《アール・ポップ展》1979年/ポスター:オフセット、紙/A1
- *《チャイナタウン・ファンタジア展》ポスターのデザイン:宮迫千鶴/1980年/ポスター:オフセット、紙/B1
- *編者:谷川晃一『アール・ポップ』装幀:松永真/1980年/冬樹社
- *谷川晃一『アール・ポップの時代』1979年/皓星社/個人蔵
- *宮迫千鶴『イエロー感覚』装幀:著者/1980年/冬樹社/個人蔵
- *植草甚一/コラージュ《USUALLY 100 YEN》1969年/ペン、大入り袋、紙/29.0×18.1cm/世田谷区立世田谷文学館蔵/後期展示
- *植草甚一/コラージュ作品/1975年/コラージュ、紙/20.8×13.0cm/世田谷区立世田谷文学館蔵/前期展示
- *植草甚一/兵隊のオブジェ/ブローチ、額/35.5×29.0×5.3cm/世田谷区立世田谷文学館蔵
- *編集:植草甚一『ワンダーランド』1973年8月創刊号(表紙:植草甚一)、1973年9月号/ワンダーランド、晶文社/世田谷区立世田谷文学館蔵
- *編集:植草甚一『宝島』1973年11月号(表紙:小松崎茂)、1973年12月号(表紙:杉浦茂)、1974年1月号(表紙:及川正通)、1974年2月号(表紙:谷岡ヤスジ)/ワンダーランド、晶文社/世田谷区立世田谷文学館蔵
- *アートディレクション・イラストレーション:堀内誠一『ポパイ』創刊号/1976年/平凡出版/堀内事務所蔵
- *アートディレクション・イラストレーション:堀内誠一『ポパイ』創刊100号記念特大号/1981年4月/平凡出版/堀内事務所蔵
- *堀内誠一『ポパイ』創刊100号記念号・表紙レイアウト指定紙/1981年/堀内事務所蔵
- *アートディレクション・イラストレーション:堀内誠一『ポパイ』創刊5周年記念特大号/1982年4月10日号/堀内事務所蔵
- *堀内誠一『ポパイ』創刊5周年記念特大号・原画/1982年/堀内事務所蔵
- *堀内誠一『ブルータス』ロゴタイプ設計図/堀内事務所蔵
- *アートディレクション:堀内誠一『ブルータス』創刊号/1980年7月号/表紙写真:英興/平凡出版/堀内事務所蔵
- *アートディレクション・イラストレーション:堀内誠一『ブルータス』第18号/1981年5月1日号/平凡出版/堀内事務所蔵
- *アートディレクション・イラストレーション:堀内誠一『オリーブ』創刊号/1982年6月3日号/平凡出版/堀内事務所蔵
- *アートディレクション・イラストレーション:堀内誠一『オリーブ』7号/1982年9月3日号/平凡出版/堀内事務所蔵
- *堀内誠一『オリーブ』7号・1982年9月3日号・切り絵、背景原画、色指定紙、校正紙/堀内事務所蔵
- *横尾忠則《GORO》小学館/1974年/ポスター:オフセット、紙/103.1×73cm/国立国際美術館蔵
- *レコード・ジャケット展示/柳田ヒロ《ミルク・タイム》ジャケット・デザイン:木村道弘/1970年/LPレコード/東芝音楽工業、TOO MUCH《TOO MUCH》ジャケット・デザイン:木村英輝/写真:ガリバー/1971年/LPレコード/日本ワーナー・アトランティック、SPEED, GLUE & SHINKI《SPEED, GLUE & SHINKI》1972年/LPレコード(2枚組+カバー付)/日本ワーナー・アトランティックほか、計43枚/39点は三原宏元(ピリケン商会)蔵。4点は個人蔵。
- *表紙デザイン:羽良多平吉『WX-raY』創刊準備号/1979年/WX-raY inc./三原宏元(ピリケン商会)蔵
- *表紙デザイン:羽良多平吉『HEAVEN』創刊号/1980年/群雄社/三原宏元(ピリケン商会)蔵
- *『季刊panoramic mag. Is 特集・鏡』1978年6月創刊号/デザイン:春井裕、平野嘉代子、及部デザイン研究室/ボラ文化研究所/個人蔵
- *『VISUAL MESSAGE-1』1978年12月15日号/表紙:大西洋介、編集協力:田中一光(エディトリアル・ディレクター)、上條喬久(アート・ディレクター)、西村佳也(コピー・ディレクター)/ごま書房/個人蔵
- *『CALENDAR』1982年11月号/びあ株式会社/個人蔵
- *『MOVIE MAGAZINE』1978年2月号/ムービーマガジン社/個人蔵
- *『ユリイカ』1981年7月臨時増刊「総特集:少女マンガ」/青土社/個人蔵
- *『季刊ブックレビュー』1981年8月16日創刊号/ブック・デザイン:戸田ツトム/エディトリアル・ディレクション:後藤繁雄/エディション・アルシーヴ/個人蔵
- *『POP-SICLE』1977年6月号/表紙:フランゴスタジオ(湯村輝彦、永井博)/編集発行人:木崎義二/ポップシクル/個人蔵
- *『パピエ・コレ』1982年夏/創刊号/編集・デザイン:長澤均/パピエ・コレ・オフィス/個人蔵
- *『季刊まんがゴールドensスーパーデラックス漫金超』1980年春創刊号/表紙:森英二郎/発行:チャンネルゼロ/個人蔵
- *『バラエティ』1982年6月号/角川書店/個人蔵
- *『エビステーマー』1975年7月1日創刊準備号/デザイン:杉浦康平、鈴木一誌/朝日出版社/個人蔵
- *『イオス』1982年創刊0号/アートディレクション:ミルキィ・イソバ/表紙:高橋常政/編集人:今野裕一/パヨトル工房/個人蔵

- * 『コミックジュン』 1978年10月創刊号/表紙イラストレーション:竹宮恵子/サン出版/個人蔵
- * 『月刊 イメージフォーラム』 1980年11月創刊号/表紙イラストレーション:田名網敬一/編集:かわなかのぶひろ/ダゲレオ出版/個人蔵
- * 『奇想天外』 1977年8月号/奇想天外社/個人蔵
- * 『ビッグコミックスピリッツ』 1980年11月15日創刊号/表紙イラストレーション:安部裕行/小学館/個人蔵
- * 『野性時代』 1974年5月創刊号/アートディレクション:石岡瑛子、表紙イラストレーション:チャールズ・E・ホワイトIII世/角川書店/個人蔵
- * 『流行通信』 1978年2月、第168号/流行通信社/個人蔵
- * 『写真装置』 1980年1号/表紙デザイン:山口信博、表紙写真:荒木経惟/写真装置舎/個人蔵
- * 『季刊meme』 1975年春第1号/編集・発行:白倉敬彦/エディション エバーヴ/個人蔵
- * 『広告批評』 1981年29号/表紙:菅野格/編集人:天野祐吉/マドラコミュニケーションズ/個人蔵
- * 『クエスト』 1978年7月号/小学館/個人蔵
- * 『ぼふ』 1979年5月号 「特集:COMの時代」 表紙:真崎・守/清慧社/個人蔵
- * 『プラネタリーブックス18 写真の時間 奈良原一高・松岡正剛』 エディトリアル・デザイン:海野幸裕、等徹彦/1981年/工作舎/個人蔵
- * 沢居曜子《Line-Work C-1》1977年/コンテ、カーボン、ケント紙/63.0×95.6cm/作家蔵/協力:ギャラリーヤマグチ
- * 沢居曜子《Line-Work IV-77-11》1977年/カーボン、ケント紙/76.0×106.0cm/作家蔵/協力:ギャラリーヤマグチ
- * 沢居曜子《Line-Work VI-78-21》1978年/コンテ、ケント紙/55.0×79.0cm/作家蔵/協力:ギャラリーヤマグチ
- * 沢居曜子《Line-Work VII-78-5》1978年/アクリル、鉛筆、ワトソン紙/60.0×90.0cm/作家蔵/協力:ギャラリーヤマグチ
- * 沢居曜子《Line-Work VII-78-15》1978年/アクリル、鉛筆、ワトソン紙/60.0×90.0cm/作家蔵/協力:ギャラリーヤマグチ
- * 沢居曜子《Line-Work V-79-2》1979年/コンテ、ケント紙/60.0×90.0cm/作家蔵/協力:ギャラリーヤマグチ
- * 沢居曜子《Line-Work VI-79-16》1979年/コンテ、ケント紙/60.0×90.0cm/作家蔵/協力:ギャラリーヤマグチ
- * 李禹煥《線より》1980年/顔料、カンヴァス/130.0×162.0cm/埼玉県立近代美術館蔵
- * 諏訪直樹《無題1976 No1-1》1976年/アクリル、紙/103×73cm/東京都現代美術館蔵
- * 諏訪直樹《無題1976 No1-3》1976年/アクリル、紙/103×73cm/東京都現代美術館蔵
- * 諏訪直樹《無題1976 No1-6》1976年/アクリル、紙/103×73cm/東京都現代美術館蔵
- * 諏訪直樹《無題1976 No1-9》1976年/アクリル、紙/103×73cm/東京都現代美術館蔵
- * 菅木志雄《臨状移体》1978年|2006年/映像:DVD/撮影:菅靖彦/編集:宮腰リョウ/発行:小山登美夫ギャラリー/39分/作家蔵/©Kishio Suga/Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- * 装幀・デザイン:浅葉克己『Town 9』企画:西武百貨店、監修:田中一光、編集:奥田昭生/1976年/パルコ出版局/個人蔵
- * 『AV アールヴィヴァン 西武美術館ニュース』 0号(監修:岡田隆彦/編集:小池一子・森口陽/アートディレクション:脇田愛二郎・鬼沢邦/ニューアート西武/1976年)、1・2・3・6・10・11号(デザイン:浅井潔/表紙:李禹煥/1978年)/以上全て、個人蔵
- * 『ART VIVANT アールヴィヴァン』 1980年1号・1981年2号・3号(表紙デザイン:田中一光・坪内祝義)、1982年6号(表紙デザイン:田中一光・石浜寿根)/西武美術館/以上全て、個人蔵
- * 田中一光《西武美術館オープン》イラストレーション:滝野晴夫/1975年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《カンディンスキー展》西武美術館/1975年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《Issey Miyake in Museum 三宅一生。一枚の布》西武美術館/写真:横須賀功光/1977年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《ミュージック・イン・ミュージアム ジャン・J・バルビエ ピアノコンサート》西武美術館/1977年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《月岡芳年の全貌展》西武美術館/1977年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《ジャスパー・ジョーンズ回顧展》西武美術館/1978年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《マッキントッシュのデザイン展》西武美術館/1979年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《マルセル・デュシャン展》西武美術館/1981年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《芸術と革命展》西武美術館/1982年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《Music Today '75》西武劇場 [現・パルコ劇場] /1975年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 田中一光《JAPAN STYLE》ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、国際交流基金/写真:十文字美信、衣装:三宅一生/1980年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 浅葉克己《不思議大好き》西武百貨店/写真:坂田栄一郎/コピーライター:糸井重里/1981年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/財団法人 DNP文化振興財団蔵
- * 浅葉克己《おいしい生活》西武百貨店/写真:坂田栄一郎/コピーライター:糸井重里/1982年/ポスター:オフセット、紙/103.0×145.6cm/富山県立近代美術館蔵
- * 石岡瑛子《鶯は誰にも媚びずホーホケキョ》パルコ/写真:横須賀功光/1976年/ポスター:オフセット、紙/103.0×72.8cm/富山県立近代美術館蔵

-
- * 石岡瑛子《西洋は東洋を着こなせるか》バルコ／写真:操上和美／1979年／ポスター:オフセット、紙／103.0×72.8cm／富山県立近代美術館蔵
- * 『ビックリハウス』 1975年1月30日創刊号(表紙:佐藤憲吉+原田治／編集長:萩原朔美／アートディレクター:榎本了亮)ほか、計136点／バルコ出版／アタマテ・インターナショナル蔵
- * 『ビックリハウスSUPER』 1977年1月創刊号(表紙:佐藤憲吉／編集長:榎本了亮)ほか、計11点／バルコ出版／アタマテ・インターナショナル蔵
- * 『スーパーアート』 1979年5月創刊号、『スーパーアート・ゴクウ』ほか、計21点／バルコ出版／アタマテ・インターナショナル蔵
- * 『ヘンタイよいこ新聞(ビックリハウスより)』 責任編集:糸井重里／芸術監督:横尾忠則／編集:エンジンルーム／1982年／バルコ出版／個人蔵
- * 最上壽之《バツ ドラネコ ミャオー》1979年／木／110.0×190.0×160.0cm／埼玉県立近代美術館蔵
- * 最上壽之《「バツ ドラネコ ミャオー」等のためのドローイング》1979年／コンテ、紙／6点、各38.0×54.0cm／埼玉県立近代美術館蔵
- * 《第1回日本グラフィック展》アートディレクション:浅葉克己／イラストレーション:伊東淳／1980年／ポスター:オフセット、紙／103.0×72.8cm／アタマテ・インターナショナル蔵
- * 《第2回日本グラフィック展》アートディレクション:浅葉克己／イラストレーション:コセキアキヒコ／1981年／ポスター:オフセット、紙／103.0×72.8cm／アタマテ・インターナショナル蔵
- * 《第3回日本グラフィック展》アートディレクション:浅葉克己／イラストレーション:日比野克彦／1982年／ポスター:オフセット、紙／72.8×103.0cm／アタマテ・インターナショナル蔵
- * 北辻良央《WORK-HH》1982年／鉄線、ポリエステル樹脂、コンテ、木炭、紙／204.0×114.0×22.0cm／個人蔵
- * 小清水漸《作業台-硯》1980年／合板、ウレタン塗装、水／70.0×91.0×120.5cm／埼玉県立近代美術館蔵
- * 黒川紀章《クランツ》1977年／椅子:ポリウレタンフォームに皮革張り、スチールにクロムメッキ仕上げ／60.0×84.0×75.0cm／製作:愛知株式会社／埼玉県立近代美術館蔵
- * 黒川紀章《埼玉県立近代美術館スケッチ》1979年頃／写真提供:黒川紀章建築都市設計事務所
- * 《埼玉県立美術館(仮称)立面図、断面図、屋上階平面図》1/200図面／1979年／インク、トレーシングペーパー／埼玉県立近代美術館蔵
- * 田中一光《埼玉県立近代美術館ロゴタイプ》版下／1982年／19.2×19.5cm／埼玉県立近代美術館蔵
- * 田中一光《埼玉県立近代美術館開館》1982年／ポスター:オフセット、紙／B1／埼玉県立近代美術館蔵
- * 黒川紀章《木版画04 境界Boundary》木版、紙／33×44cm／黒川紀章建築都市設計事務所蔵
- * 黒川紀章《埼玉県立近代美術館》シルクスクリーン、紙／102×72cm／黒川紀章建築都市設計事務所蔵
- * 「再現:70年代の学生の部屋」／6帖／協力:竹内デザインランド、A.P.D.J.日本映画・テレビ美術監督協会、島田安彦
-

■丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展 —線の魔術師— Ben Shahn: The Magic of Lines

- 会期：2012年11月17日（土）～2013年1月14日（月）
- 主催：埼玉県立近代美術館、丸沼芸術の森
- 協力：J R 東日本大宮支社、FM NACK 5
- 観覧料：一般900円（720円）、大高生720円（580円）
- 入場者数：9,264人
- 広報印刷物：ちらしA2/デザイン：山下雅士（sleepwalk）
- 担当学芸員：吉岡知子、前山裕司



ちらし

■開催趣旨

1930年代から60年代にかけてアメリカで活躍した画家ベン・シャーン（1898－1969）は、リトアニアのユダヤ人家庭に生まれ、8歳のときにユダヤ人迫害を避けるため、家族とともにニューヨークへ移住した。少年の頃から石版画工房で働きながら美術を学び、生涯にわたって人種差別や迫害、貧困をテーマに制作を続けた。また、ポスターや本の装丁などグラフィック・デザインの分野でも活躍し、日本の美術界、デザイン界に大きな影響を与えている。

ベン・シャーンは描くものに対して、つねに鋭い批判の眼差しと深い愛情を投げかけた。なかでも、その特徴である震えるような線は、哀しみや怒り、やさしさといったシャーンの感情を直接に訴えかけてくる。

本展では、こうしたシャーンの線の魅力に注目しながら、丸沼芸術の森（埼玉県朝霞市）のコレクションから、近年

新たに所蔵となった初公開の絵画・ドローイングを含む292点を紹介した。

■カタログ

規格：24.0×22.5cm、120頁

デザイン：山下雅士（sleepwalk）

印刷：アベイズム株式会社

内容：【章解説と図版】／【壁画の写真と地図】／【テキスト】前山裕司「ベン・シャーン、リトアニア移民としての」、吉岡知子「ベン・シャーンの壁画を訪ねて」、猪越夕香「丸沼芸術の森とベン・シャーンコレクション」／【資料等】出品リスト（前山裕司・吉岡知子編）、年譜・主要文献（藤巻和恵編）

発行：丸沼芸術の森

価格：1,700円

■関連事業

- ・ミュージアム・コンサート「川嶋哲郎～飛翔する響き」／12月2日（日）午後2回／出演：川嶋哲郎（テナー・サクソ他）、ゲスト：夏石番矢（俳句）／センターホール／参加者：計125名。
- ・クリスマスの映画上映会「5つの銅貨」／12月22日（土）／監督：メルヴィル・シェイヴルソン（1959年、アメリカ、117分）／参加者：76名。
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／11月24日（土）、1月12日（土）吉岡知子／参加者：計78名。

■広報記録

<新聞>

- ・「さきたま抄」『埼玉新聞』2012年11月3日
- ・横田麻生子「美博ピックアップ ベン・シャーン展」『朝日新聞』2012年12月5日
- ・「県立近代美術館ベン・シャーン展」『読売新聞』2012年12月12日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展」『新美術新聞』2012年12月11・21日合併号
- ・吉岡知子「ベン・シャーンゆかりの地を訪ねて」『ソカロ』2012年12月-2013年1月号
- ・告知：『ぼど 埼玉中央版』2012年8月31日号／『ぼど 川越エリア』2012年9月14日号／『さいたま朝日』2012年9月23日号／『彩の国だより』2012年10月号／『武州路』2012年11月号／『彩の国だより』2012年11月号／『ぱびるす』2012年11月号／『ソー！』2012年11月号／『たまログ』2012年11月号／『J:COMチャンネル』2012

年11月号／『J:COMクーポン』2012年11月号／『中外日報』2012年11月15日号／『ショッパー』2012年11月22日号／『武州路』2012年12月号／『プチぶんか村』2012年12月・2013年1月号／『ぱど』2012年12月7日号／『ぱど 与野エリア』2012年12月7日号／『美連協ニュース』2013年2月号

<テレビ、ラジオ>

- ・JCN埼玉「DAILY NEWS 川口・戸田」2012年12月4日
- ・NHK FM「日刊!さいたま〜ず」2012年12月19日

■担当後記

◆当館では、2006年に「丸沼芸術の森」が所蔵するベン・シャーン・コレクションの全貌を紹介したが、その後、晩年の代表作『マルテの手記』や、シャーンがニューヨークで撮影した写真などが新たに収集され、コレクションはさらに厚みを増した。今回はほぼ全作品を紹介し、出品点数は約300点にもおよんだ。

◆展覧会の前に、ニューヨークなどを訪れる機会があり、丸沼芸術の森が下絵を所蔵する壁画を実見できたのは大きな収穫だった。かつてシャーンが住んでいたニュージャージー州ルーズヴェルトにいまも在住の、息子のジョナサン・シャーン氏にもお会いでき、ベン・シャーンの作品や人柄についてうかがう大変貴重な機会となった。

◆丸沼芸術の森のコレクションはドローイングを中心に、シャーンの重要なシリーズを網羅し、初期から晩年まで幅広く収集している。社会派のイメージが強いシャーンだが、コレクションには子どものための絵本の挿絵原画や、晩年の宗教的なテーマの作品なども含まれており、シャーンの多彩な活動を紹介することができた。本展では、制作年をゆるやかに追い、シャーンの生涯を辿っていきけるような展示構成とした。

◆会期終了が近づくとつれて来館者が徐々に増え、最終日は大雪にも関わらず300人近くの方に来ていただき、ベン・シャーンの人気の高さがうかがわれた。また、図録は絵本をイメージした、厚紙の表紙で角を丸くしたデザインが大変好評で、最終日前日に完売となった。

◆こうした人気の背景には、1960年代にシャーンが日本で紹介された頃からのファンに加え、直前に別のベン・シャーン展が神奈川県立近代美術館など国内4カ所を巡回し、より若い世代にも魅力が伝わったことがあるだろう。また、東日本大震災を経験した後、シャーンの発するメッセージが一層強く響いたことは、来館者の感想からもひしひしと感じられた。

(吉岡知子)



会場風景



会場風景

■出品リスト

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
1	両足	Feet		鉛筆、紙	20.9×28.9
2	足	Foot		鉛筆、紙	28.9×20.9
3	脚	Legs		鉛筆、紙	28.9×20.8
4	女性の顔	Head of a Woman		コンテ、紙	19.7×20.8
5	男の横顔	Profile of a Man		鉛筆、紙	29.0×21.0
6	男の顔	Head of a Man		鉛筆、紙	28.9×20.8
7	男の顔	Head of a Man		鉛筆、紙	28.9×20.8
8	正面から見た男の顔	Head of a Man		鉛筆、紙	28.9×20.8
9	女の顔と手	Head and Hands of a Woman	1922年頃	鉛筆、紙	30.2×23.7
10	自画像	Self Portrait		鉛筆、紙	20.2×25.2
11	スケッチブック	Sketchbook			20.5×26.5
12	森の風景	Wooded Scene	1924年頃	油彩、カンヴァス	30.0×40.5
13	ふたつの切り株のある風景	Two Stumps		油彩、厚紙	35.5×25.3
14	波止場の船	Docked Ship		水彩・鉛筆、紙	30.0×45.0
15	波止場の船と都市風景	Ship Docked, Cityscape Behind	1924年頃	水彩、紙	45.5×30.3
16	赤褐色のコンテによる裸婦	Sanguine Nude	1926年	カラーコンテ、紙	44.2×27.8
17	2人のダンス	Couple Dancing		グワッシュ、紙	51.5×31.0
18	バル・ネグル: 2人のダンス (A)	Bal Negre: Couple Dancing (A)		インク、紙	46.0×30.0
19	チュニスのカフェ	Cafe Scene in Tunis	1928年	水彩、紙	48.5×34.5
20	腰掛けている女	Seated Woman	1929年	水彩、紙	30.8×22.7
21	果物のある静物	Still Life with Fruit in Bowl	1929年頃	油彩、紙	29.0×43.0
22	裸婦の習作	Study of Nude	1929年頃	水彩、紙	23.0×29.2
23	裸婦の習作	Study of Nude	1929年頃	水彩、紙	29.2×23.0
24	裸婦の習作	Study of Nude	1929年頃	水彩、紙	29.2×22.8
25	裸婦の習作	Study of Nude	1929年頃	水彩、紙	29.2×23.0
26	裸婦の習作	Study of Nude	1929年頃	水彩、紙	29.2×23.0
27	裸婦の習作	Study of Nude	1929年頃	水彩、紙	30.9×19.8
28	裸婦の習作	Study of Nude		水彩、紙	30.0×22.0
29	裸婦	Nude		グワッシュ、紙	49.6×32.3
30	ロックフェラー夫人の馬	Mrs. Rockefeller's Horse	1930年	インク・水彩、紙	36.7×54.5
31	人物像 (海岸で)	Figures (on Beach)	1930年頃	インク、紙	24.1×38.1
32	海岸でくつろぐ女性 (トゥルロ)	Women Resting on Beach (Truro)	1930年	インク、紙	30.2×40.0
33	橋の近くの人々	Group near Bridge	1930年	水彩、紙	38.1×55.9
34	岸辺の人々	Group at Shore	1930年	水彩、紙	39.4×58.4
35	立っている裸婦	Standing Nude	1930-31年	インク、紙	36.8×26.0
36	お前たちより偉大な者を見るがよい!	Behold What Is Greater Than Yourselves!	1931年	水彩、紙	38.4×24.2
37	私は畏怖すべき三姉妹の漠然とした顔たちを見知っていた	And on the Mirrors of Darkness My Eyes Traced...	1931年	水彩、紙	29.7×25.2
38	永遠の沈黙が彼女たちの王国を支配している	Eternal Silence Reigns in Their Kingdoms	1931年	水彩、紙	32.9×28.8
39	ラケル、己が子らを歎き慰めらるるを厭う	Rachel Weeping...	1931年	水彩、紙	38.4×26.8
40	あの夜、ベツレヘムにあったのも、彼女であった	She It was That Stood in Bethlehem...	1931年	水彩、紙	38.3×29.0
41	真昼時、熱帯の太陽をおずおずと非難するの に見上げ...	Every Slave...	1931年	水彩、紙	33.6×23.4

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
42	独り暗闇に坐る女たちすべて…	Every Woman…	1931年	水彩、紙	33.0×24.5
43	狂気の母であり、自殺を教唆するもの	She is the Mother of Lunacies…	1931年	水彩、紙	35.1×25.5
44	蛆虫を崇め、蛆虫が集る墓に祈りを捧げた	And Through Me It Was…	1931年	水彩、紙	38.5×25.2
45	この者の心を苦しめ悩まし、そして遂には精神の能力を開く	To Plague His Heart…	1931年	水彩、紙	22.8×30.4
46	涙を流す私たちの女性、幽霊の侵略者…	Our Lady of Tears Glides, a Ghostly Intruder…	1931年	水彩、紙	36.1×25.2
47	エステラジー	Esterhazy	1931年	グワッシュ、紙	38.8×26.1
48	マサチューセッツ州知事、アルビン・フラー	Governor of Massachusetts, Alvin Fuller	1931年	テンペラ、紙	30.0×25.2
49	トーマス・J・ムーニー	Thomas J. Mooney	1932年	インク、紙	23.4×14.1
50	商工会議所会長フレデリック・J・コスター	Frederick J. Koster, President of the Commerce Committee	1932年	インク、紙	12.4×7.6
51	地方検事チャールズ・フィカート	Charles Fickert, D. A.	1932年	インク、紙	23.6×14.4
52	J・モラ・モス博士とジュニー・K・コンプトン夫人	Dr. J. Mora Moss and Mrs. Jane K. Compton	1932年	インク、紙	12.4×15.4
53	シャーロット・ラ・ポセ夫人とエド・リガル	Mrs. Charlotte La Posee and Edward Rigall	1932年	インク、紙	15.4×13.6
54	既婚婦人たち	Matrons	1932年	インク、紙	17.4×21.4
55	現行犯で逮捕されたエマーソン	J. P. Emerson Who Was Caught Red-Handed	1932年頃	インク、紙	17.2×12.3
56	無題 (ニューヨーク市)	Untitled (New York City)	1932-35年	ゼラチン・シルバー・プリント	14.3×22.2
57	無題	Untitled	1933年頃	ゼラチン・シルバー・プリント	11.2×17.6
58	昼食時の3人のニューヨーカー	Three New Yorkers at Lunchtime	1934年	ゼラチン・シルバー・プリント	11.7×17.6
59	男たちのスケッチ	From a Sketchbook	1936年	インク、紙	39.5×28.7
60	男の顔	Head of a Man		鉛筆、紙	19.8×20.9
61	男の顔	Head of a Man		鉛筆、紙	19.2×21.0
62	2人の立っている男、GMのスローン	Two Standing Men, Sloan of GM		テンペラ、紙	43.4×25.9
63	ジョージ・ワシントン	George Washington		水彩、紙	36.2×27.8
64	ジャージー・ホームステップスの壁面の習作	Study for Jersey Homesteads Mural	1936年	鉛筆・色鉛筆・水彩、紙	36.8×43.7
65	ジャージー・ホームステップスの壁面の習作	Study for Jersey Homesteads Mural	1938年	テンペラ・鉛筆、紙	20.3×66.7
66	連邦社会保障ビル壁面の「エプロンをした少女」の習作	Girl with Apron: Study for Social Security Building Mural	1939年	グワッシュ、紙	36.0×20.5
67	連邦社会保障ビルの壁面の習作	Study for Social Security Building Mural	1940-42年	テンペラ・鉛筆、紙	20.5×52.0
68	連邦社会保障ビル壁面の「大工」の習作	Carpenter: Study for Social Security Building Mural	1941-42年頃	テンペラ、紙	58.6×59.1
69	墜落 (ウィリアム・E・グラディ職業高校の壁面のための習作)	The Fall: Study for William E. Grady Vocational High School Mural	1955-56年	水彩、紙	38.8×50.6
70	雄羊の角笛とメノラ (オハバイ・ショロム礼拝堂のモザイクのための素描)	Ram's Horn and Menorah: Sketch for Congregation Ohabai Sholom Mosaic	1959年頃	鉛筆、紙	17.1×30.5
71	立っている黒人の習作	Study of a Black Man Standing		グワッシュ、紙	29.0×12.5
72	鉱夫の習作	Study of a Miner's Head		グワッシュ、紙	57.8×39.0
73	真珠	Pearl		テンペラ、ボード	14.0×21.0
74	これがナチの残虐だ	This is Nazi Brutality.	1942年	ポスター(オフセット印刷)	97.0×70.8
75	我々フランス労働者は警告する	We French Workers Warn You…	1942年	ポスター(オフセット印刷)	71.0×105.0
76	選挙人登録・・・投票用紙はあなたの手の力だ	Register…The Ballot is a Power in Your Hands.	1944年	ポスター(オフセット印刷)	98.5×72.5

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
77	戦後の完全雇用のために	For Full Employment after the War	1944年	ポスター (リトグラフ)	74.2×98.0
78	反動の魔手を打ち砕け	Break Reaction's Grip	1946年	ポスター (フォトオフセット)	105.5×72.7
79	警告! インフレは不況を意味する	Warning! Inflation Means Depression	1946年	ポスター (フォトオフセット)	104.5×70.5
80	我々は平和を望んでいる	We Want Peace.	1946年	ポスター (リトグラフ)	104.0×66.5
81	炭坑夫たち	Miners	1947年	インク、紙	11.8×10.8
82	考えている男	Thinking Man	1947年	インク、紙	12.4×11.8
83	戦死者名簿	Honor Roll	1947年	インク、紙	11.8×10.8
84	食料雑貨店	Grocery Market	1947年	インク、紙	11.8×10.8
85	警官	Policeman	1947年	インク、紙	14.7×11.8
86	ステッキをもって立つ男	Man with Cane	1947年	インク、紙	14.9×11.8
87	スコップを持つ男	Man with Shovel		インク、紙	16.9×9.7
88	上半身裸の男	Standing Shirtless Man		インク、紙	12.8×10.8
89	バスに乗る男たち	Men Getting on Bus		インク、紙	11.8×10.8
90	溶接工	Welder		インク、紙	14.8×11.7
91	チェッカーをする人たち	Men Playing Checkers		インク、紙	12.5×10.3
92	車を始動させる男	Man Cranking Car		インク、紙	14.4×11.7
93	三軒の家	Three Houses		インク、紙	11.8×10.8
94	6%ビール	6%Beer		インク、紙	9.9×12.3
95	二階建ての家	Two-Story House		インク、紙	11.8×10.8
96	銀行と退役軍人クラブ	Bank and VFW		インク、紙	12.4×10.1
97	家	House		インク、紙	11.8×10.8
98	ミルク缶	Milk Cans		インク、紙	11.8×10.8
99	ピアノ	Piano		インク、紙	12.4×10.1
100	ギターで歌う二人の男	Two Men with Guitar	1947年	インク、紙	10.8×12.7
101	水タンクと鉄道	Water Tank and Rail Way	1946年	インク・水彩、紙	39.5×55.0
102	足を組む神秘的な東洋風の男	Cross-legged Eastern Mystic		インク、紙	18.0×14.5
103	自由の女神	Miss Liberty		インク、紙	27.9×20.3
104	自由の女神の習作	Study for Miss Liberty		水彩、紙	29.6×15.0
105	仰向けに寝る男	Supine Man	1953年	インク、紙	12.7×13.5
106	車と電柱	Car with Telephone Poles	1953年	インク、紙	13.7×18.8
107	踏切	Railroad Crossing	1953年	インク、紙	12.7×18.1
108	思案する男	Brooding Male Figure	1953年	テンペラ、紙	33.3×26.3
109	測量技師	The Surveyor	1955年	鉛筆、紙	44.0×29.0
110	まむし草	Jack in the Pulpit	1956年	インク、紙	14.8×12.4
111	炭坑夫たち	Miners	1956年	インク、紙	12.0×15.0
112	立つフットボール選手	Standing Football Player		インク、紙	23.2×14.0
113	物を投げている人	Man Throwing Something		鉛筆、トレーシングペーパー	16.6×15.2
114	新生児をつかむ手	Hand Holding Newborn Baby		インク、紙	86.5×56.7
115	抱擁	Embrace		インク、紙	22.5×30.0
116	錠剤を持っている手	Hand Holding a Pill	1957年	インク、紙	32.3×24.4
117	バッタ	Grasshopper	1957年	インク、紙	13.0×15.1
118	蜂とバッタ	Bee and Grasshopper	1957年	鉛筆、紙	12.3×9.5
119	神話の生き物	Mythic Creature	1957年	インク、紙	14.0×15.0
120	想像の動物	Imaginary Beast	1957年	インク、紙	22.5×19.4

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
121	ポケットに手を入れて立つ少年	Standing Boy with Hands in Pockets of His Shorts	1957年	インク、紙	22.9×12.7
122	テーブルにふせる男	Man Slumped over the Table	1957年	インク、紙	12.0×15.0
123	左膝を立てて手を組んだ横たわる男	Reclining Man, Left Knee Up, Hands Clasped	1957年	インク、紙	14.0×23.0
124	花柄の部屋着とスリッパで立つ女性	Standing Woman in Flowered Housedress and Scuffies	1957年	インク、紙	24.9×16.0
125	3人の男	Three Men		インク・鉛筆、紙	13.0×16.0
126	帽子をかぶり、手を後にした男	Man in a Hat, Hands behind His Back		インク・鉛筆、紙	18.5×12.2
127	キスをしている恋人達	Lovers Kissing		インク、紙	30.0×20.0
128	封筒を手渡し帽子をかぶった男	Man in a Hat Handing an Envelope to the Other		インク、紙	33.0×28.0
129	ショッピングカート	Shopping Cart		インク、紙	29.0×21.0
130	朝食をとる男女	Man and Woman at Breakfast	1958年	インク、紙	16.2×21.0
131	リー将軍	General Lee	1958年	インク、紙	12.8×19.8
132	出港	Farewell	1957年	インク、紙	11.1×19.5
133	出港	Farewell	1957年	インク、紙	16.0×22.7
134	網元、日本の男	Fleet Owner (Japanese Man)	1957年	インク、紙	14.0×11.4
135	写真家と被写体	Photographer and Subject	1957年	インク、紙	19.3×14.2
136	日本の新聞を読む男	Man with Japanese Paper	1957年	インク、紙	12.3×16.8
137	科学者	The Scientist	1957年	インク、紙	16.7×23.7
138	父と子	Father and Child	1957年	インク、紙	21.8×19.4
139	ニュース報告	News Bulletin	1957年	インク、紙	13.8×17.8
140	彼の妻―久保山夫人	His Widow	1957年	インク、紙	13.9×9.7
141	彼の墓	His Tomb	1957年	インク、紙	11.3×17.3
142	鳩 No.3	One of a Score of White Pigeons #3	1961年	水彩、紙	32.7×24.8
143	鳩 No.5	One of a Score of White Pigeons #5	1961年	水彩、紙	25.6×32.7
144	計器盤	Gauge Board		インク、紙	33.0×47.0
145	シェークスピア	Shakespeare	1964年頃	インク、紙	22.9×17.9
146	ハムレットとガートルード	Hamlet and Gertrude	1959年	インク、紙	13.4×11.2
147	ポロニアス	Polonius	1959年	インク、紙	15.6×10.2
148	ハムレットの父の亡霊	Hamlet's Father's Ghost	1959年	インク、紙	10.3×16.3
149	ハムレットとオフィーリア	Hamlet and Ophelia	1959年	インク、紙	17.6×15.0
150	王冠を奪うルシアーナス	Lucianus Pick up The Crown	1959年	インク、紙	11.1×12.2
151	槍に取り囲まれるハムレット	Hamlet Ringed by Lances	1959年	インク、紙	12.7×14.7
152	レイアーティーズは王の味方となる	Laertes Makes for The King	1959年	インク、紙	16.3×11.9
153	ああ、かわいそうなヨリック	Alas! Poor Yorick	1959年	インク、紙	15.4×24.8
154	ガートルード、オフィーリアの埋葬	Gertrude, Ophelia's Funeral	1959年	インク、紙	17.2×12.8
155	オズリック	Osrik	1959年	インク、紙	14.3×11.3
156	乾杯	The Toast	1959年	インク、紙	14.1×10.8
157	ガートルード	Gertrude	1959年	インク、紙	18.9×12.8
158	最終幕のクロードィアス	Claudius in Last Act	1959年	インク、紙	16.2×13.8
159	ヨリック	Yorick	1959年	インク、紙	18.5×14.5
160	エルシノア城	The Castle	1959年	インク、紙	15.8×12.3
161	腕を上げるハムレット	Hamlet with Raised Arm	1959年	インク、紙	14.3×11.7

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
162	オフィーリア	Ophelia	1959年	インク、紙	18.6×13.2
163	墓掘	Grave Digger	1959年	インク、紙	12.7×13.5
164	道化	The Fool	1959年	インク、紙	13.8×10.8
165	交差した槍	Lances Crossed	1959年	インク、紙	17.6×11.4
166	顔の習作	Study of a Face		インク、紙	33.5×29.5
167	戯れる男女	Playful Man and Woman		インク・水彩、紙	22.6×30.1
168	誰もいなくなった祭りのあと	Deserted Fairground	1948年頃	セリグラフ、紙	30.2×37.2
169	梨の木にとまるヤマウズラ	A Partridge in a Pear Tree	1948年	インク、紙	19.9×22.4
170	3羽のフランスのめんどり	Three French Hens	1948年	インク、紙	19.9×21.9
171	4羽のクロツグミ	Four Collie Birds	1948年	インク、紙	19.8×22.5
172	5つの金の指輪	Five Golden Rings	1948年	インク、紙	19.7×22.1
173	6羽の卵を抱くがちょう	Six Goose Allaying	1948年	インク、紙	19.8×22.5
174	7羽の泳ぐ白鳥	Seven Swans a Swimming	1948年	インク、紙	19.9×21.6
175	8人の乳をしぼるメイドたち	Eight Maids Amilking	1948年	インク、紙	19.8×22.2
176	9人の笛を吹く笛吹き	Nine Pipers Piping	1948年	インク、紙	19.9×21.6
177	10人の太鼓を叩く鼓手	Ten Drummers Drumming	1948年	インク、紙	19.6×21.7
178	12人の踊る女性	Twelve Ladies Dancing	1948年	インク、紙	19.8×21.8
179	あなたの手は、しげる青草のうちに伸び…	Your Hands Lie Open… (Love Sonnets)	1964年	水彩、紙	19.6×31.7
180	もう仕方がないんだ…	Since There's No Help… (Love Sonnets)	1964年	水彩、紙	19.6×31.7
181	人はいつ汝の花を見つけることができるか…	When Men Shall Find Thy Flower… (Love Sonnets)	1964年	水彩、紙	19.6×31.7
182	彼女のところに飛んでいく…	Fly to Her Heart… (Love Sonnets)	1964年	水彩、紙	19.6×31.7
183	握りしめた手	Hands Grasped	1964年頃	インク、紙	12.3×15.7
184	森と一本の折れた木	Forest with One Broken and Fallen	1964年頃	インク、紙	12.3×16.3
185	年若い大統領	Young President	1964年頃	インク、紙	12.5×16.0
186	死の馬	Death's Horse	1964年頃	水彩、紙	12.7×16.3
187	眠っている子供たち	Sleeping Children	1964年頃	インク、紙	11.8×15.4
188	死を悼む男	Mourner	1964年頃	インク、紙	12.2×16.2
189	追悼する人たち	Mourners	1964年頃	水彩、紙	12.7×16.3
190	摘まれる花	Picked Flower	1964年頃	インク、紙	12.9×16.2
191	ここ、そこ、どこでも	Here, There, Everywhere	1964年頃	インク、紙	12.7×16.4
192	被収容者	Inmate	1949年	インク、紙	20.8×14.5
193	鉄格子をつかむ手	Hands Holding Bars		鉛筆、紙	6.4×13.5
194	棒を握る手	Hand Holding a Rod		鉛筆、紙	31.9×36.8
195	斜めから見た、額にしわを寄せた男	Man with Wrinkled Brow, View	3/4 1958年	インク、紙	17.5×10.0
196	A. B. C. の習作	Study for "A. B. C."	1953年	色鉛筆、紙	14.5×35.0
197	青いスーツの男	Man in a Blue Suit		グワッシュ、紙	48.0×32.0
198	手を差し出す男	Male Figure with Outstretched Hands		水彩・インク、紙	31.7×49.0
199	赤ら顔の男、ハリー・トルーマン	Man with Red Face, Harry S. Truman		インク、紙	27.3×20.2
200	アインシュタイン	Albert Einstein	1950年	インク、紙	25.0×18.0
201	フィリップ・マーレーの肖像	Portrait of Philip Murray		インク、紙	22.5×17.5
202	異議あり!	Point of Order!		インク、紙	51.0×36.0

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
203	アブラハム・リンカーン	Abraham Lincoln		水彩、紙	29.5×23.5
204	ゴールドウォーターの肖像	Portrait of Barry Goldwater	1964年	インク、紙	48.8×35.3
205	ガンディー (顔の習作)	Ghandi (Face Study)	1964年	鉛筆、紙	22.6×22.4
206	ガンディーと『不思議な少年』	Gandhi and "The Mysterious Stranger"	1965年	コロタイプ、紙	96.6×63.5
207	レーニン	Lenin	1964年	インク、紙	22.4×16.7
208	毛沢東	Study of Mao Tse-tung		インク、紙	66.8×51.6
209	サルトル	Study for Head of Sartre	1965年	鉛筆、紙	32.5×24.7
210	マーティン・ルーサー・キング牧師	Martin Luther King	1965年頃	鉛筆、紙	27.2×21.2
211	チェロを弾くカザルス	Casals with Cello		インク、紙	21.1×14.9
212	鏡に映る自画像	Self Portrait with Mirror	1956年	インク、紙	46.3×30.2
213	手を口に付けた男の顔	Head of a Man with Hand to Mouth	1963年	インク・水彩、紙	31.0×26.6
214	ほんとうに偉大な人たちをわたしは忘れない	I Think Continually of Those Who were Truly Great	1965年	水彩・セリグラフ、紙	65.4×50.7
215	フルブライト上院議員	Senator Fulbright	1966年	グワッシュ、紙	64.0×49.5
216	クローバーの葉	Cloverleaf	1957年	グワッシュ、紙	67.3×146.0
217	クローバーの葉	Cloverleaf	1961年	水彩、紙	50.0×64.7
218	「スポレート (二つの世界) 音楽祭1965」のポスターの原画	SPOLETO 1965	1965年	水彩、紙	67.2×51.3
219	傘のあるテニスの審判の椅子	Tennis Umpire Stand with Umbrella	1965年	鉛筆・水彩、紙	19.4×14.1
220	赤い家	Red House		水彩・インク、紙	19.0×29.0
221	ゴイエスカス II	Goyescas II	1967年	グワッシュ・テンペラ・木炭、紙	148.0×106.9
222	炎を吐く怪物	Study for "Allegory"	1948年頃	インク、紙	18.7×21.0
223	劇「J. B.」のための仮面習作 (神)	Study for "J. B.'s God"	1958年頃	鉛筆、紙	11.5×17.7
224	信条	Credo	1960年	セリグラフ、紙	36.3×51.6
225	仮面	Mask	1963年	リトグラフ、紙	66.0×49.0
226	盲目の植物学者	Blind Botanist	1963年	リトグラフ、紙	67.5×51.5
227	水の枝あるいは欲望	Branches of Water or Desire	1965年	セリグラフ、紙	66.0×50.5
228	文化	Culture	1968年	セリグラフ、紙	66.0×50.0
229	花のブラシ	Flowering Brushes	1968年	リトグラフ、紙	100.7×67.6
230	麦の穂	Epis	1969年	リトグラフ、紙	67.0×102.0
231	フェニックスの習作	Study for "Phoenix"	1944年頃	水彩、紙	67.0×48.0
232	リンカーン・センター「フィルハーモニック・ホール」開館	Lincoln Center for the Performing Arts	1962年	ポスター (オフセット、セリグラフ)	114.0×74.5
233	フィラデルフィア美術館のポスター	Poster for The Philadelphia Museum of Art	1967年	ポスター (フォトオフセット)	113.1×75.3
234	パリ・レビュー	Paris Review	1968年	ポスター (リトグラフ)	96.0×65.0
235	東南アジアの女性の顔	Head of a Southeast Asian Woman		水彩・インク、紙	29.0×23.8
236	レヴァナ	Levana	1964年頃	インク、紙	12.6×15.9
237	男の顔	Head of a Man		インク、紙	20.0×15.5
238	詩篇第133篇	Psalms 133	1963年	リトグラフ、紙	52.1×67.9
239	ハガダー	Haggadah	1966年	リトグラフ、紙	38.0×59.0
240	伝道の手紙	Ecclesiastes	1966年	セリグラフ、紙	58.4×45.7
241	『ハガダー』	Haggadah	1965年	書籍	31.0×22.6
242	『伝道の手紙』	Ecclesiastes	1967年	書籍	34.5×27.0
243	ハレルヤ	Hallelujah Suite	1968年頃	水彩・インク、紙	20.8×24.0

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
244	オルガンを弾く男／ハレルヤ	Man Playing Organ/Hallelujah	1968年頃	水彩・インク、紙	18.8×45.1
245	プサルテリウム／神をほめたたえよ	Psaltery/Praise God	1968年頃	水彩・インク、紙	18.8×44.7
246	シストラムを奏でる若い男／神の聖所で	Young Man Playing Sistrum/In His Sanctuary	1968年頃	水彩・インク、紙	19.0×44.0
247	ダブルフルートを吹く若い男／神をほめたたえよ	Young Man Playing Double Flute/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	18.9×44.8
248	角笛を吹く男／御力の大空で	Man Sounding Shofar/In the Firmament of His Power	1968年頃	水彩・インク、紙	19.1×44.7
249	ケタラーを奏でる男／神をほめたたえよ	Man Playing Ketharah/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	18.9×44.5
250	キタラを奏でる男／その大能のみわざのゆえに	Man Playing Cithara/For His Mighty Acts	1968年頃	水彩・インク、紙	19.0×45.1
251	バイオリンを弾く若者／神をほめたたえよ	Youth Playing Violin/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	18.8×45.0
252	クロースを奏でる老人／そのすぐれた偉大さのゆえに	Old Man Playing Crowth/According to His Abundant Greatness	1968年頃	水彩・インク、紙	18.9×45.0
253	トランペットを吹く若者／神をほめたたえよ	Youth Sounding Trumpet/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	19.0×45.1
254	ツインリードを吹く若者／角笛を吹き鳴らして	Youth Playing Twin Reeds/With the Blast of the Horn	1968年頃	水彩・インク、紙	18.7×44.4
255	リュート／神をほめたたえよ	Lute/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	18.7×44.7
256	リラを持つ若者／十弦の琴と立琴をかなでて	Youth With Lyre/With the Psaltery and Harp	1968年頃	水彩・インク、紙	18.8×45.2
257	チャイムベルを鳴らす男／神をほめたたえよ	Man Striking Chime-Bells/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	18.5×44.8
258	踊る娘／タンバリンと踊りをもって	Dancing Virgin/With the Timbrel and Dance	1968年頃	水彩・インク、紙	18.6×44.7
259	リラを奏でる若い男／神をほめたたえよ	Young Man Playing Lyre/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	18.9×44.7
260	管楽器／緒琴と笛とで	Wind Instruments/With Stringed Instruments and the Pipe	1968年頃	水彩・インク、紙	18.9×44.7
261	祝福のトランペットを吹く男／神をほめたたえよ	Man Sounding Jubilee Trumpet/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	19.1×45.1
262	大きな音のシンバルを持つ乙女／音の高いシンバルで	Maiden with Loud-Sounding Cymbals/With the Loud-Sounding Cymbals	1968年頃	水彩・インク、紙	18.2×44.2
263	バイオリンを弾く少年／神をほめたたえよ	Small Boy Playing "VIOLIN"/Praise Him	1968年頃	水彩・インク、紙	19.1×45.1
264	鳴り響くシンバル／鳴り響くシンバルで	Clanging Cymbals/With the Clanging Cymbals	1968年頃	水彩・インク、紙	18.6×44.7
265	ダブルオーボエを吹く若い男／息のあるものはみな	Young Man Playing Double Oboe/Let Everything That Hath Breath	1968年頃	水彩・インク、紙	18.9×45.0
266	タンバリンをたたく男／主をほめたたえよ	Man Playing Tambourine/Praise the Lord	1968年頃	水彩・インク、紙	19.1×44.9
267	キタラを奏でる若者／ハレルヤ	Youth Playing Cithara/Hallelujah	1968年頃	水彩・インク、紙	19.2×44.6
268	手	Hand		インク、紙	29.0×21.3
269	扉 I	Frontispiece	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
270	扉 II	Headpiece	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
271	多くの都市を	Many Cities	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
272	多くの人々を	Many Men	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
273	多くの事物を	Many Things	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
274	禽獣を知らねばならぬ	One Must Know the Animals	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
275	飛ぶ鳥の姿	How the Birds Fly	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1

出品番号	作品名	Title	制作年	技法	サイズ (cm)
276	小さな草花のたたずまい	The Gestures of the Little Flowers	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
277	まだ知らぬ国々の道を	To Roads in Unknown Regions	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
278	思いがけぬ邂逅	Unexpected Meetings	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
279	遠くから近づいて来るのが見える別離	Partings Long Seen Coming	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
280	少年の日の思い出を	To Days of Childhood	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
281	心を悲しませてしまった両親を	To Parents One Had to Hurt	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
282	少年時代の病気を	To Childhood Illnesses	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
283	静かなしんとした部屋で	In Rooms Withdrawn and Quiet	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
284	海辺の朝	Mornings by the Sea	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
285	海そのものの姿	The Sea Itself	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
286	星ぐずとともに消え去った旅寝の夜々	Nights of Travel that Flew with the Stars	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
287	愛にみちた多くの夜の回想	Memories of Many Nights of Love	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
288	産婦の叫び	Screams of Women in Labor	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
289	白衣の中に眠りおちて恢復を待つ産後の女	Of Light, White Sleeping Women in Childbed	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
290	死んでゆく人の枕もと	Beside the Dying	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
291	死者の傍で	Beside the Dead	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1
292	一篇の詩の最初の言葉	The First Word of Verse Arises	1968年	リトグラフ、紙	57.4×45.1

参考出品

ベン・シャーン『梨の木にとまるヤマウズラ』	Ben Shahn, <i>A Partridge in a Pear Tree</i>	1949年	書籍
『フォーチューン』誌、1955年8月号	<i>Fortune</i> , August 1955	1955年	雑誌
エドワード・ダールバーグ『プリアプスの悲しみ』	Edward Dahlberg, <i>The Sorrows of Priapus</i>	1957年	書籍
『ハムレット—テレビ脚本』	<i>Hamlet: Television Script</i>	1959年	書籍
ウェンデル・ベリー『1963年11月26日』	Wendell Berry, <i>November Twenty Six Nineteen Hundred Sixty Three</i>	1964年	書籍
リチャード・ハドソン『久保山とラッキードラゴンの伝説』	Richard Hudson, <i>Kuboyama and the Saga of the Lucky Dragon</i>	1965年	書籍

■ ポール・デルヴォー展 夢をめぐる旅

- 会期：2013年1月22日（火）～3月24日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 後援：ベルギー大使館
- 協力：エールフランス航空、KLMオランダ航空、JR東日本大宮支社、FM NACK 5
- 特別協力：ポール・デルヴォー美術館
- 企画協力：株式会社ブレントラスト
- 観覧料：一般1,100円（880円）、大高生880円（710円）
- 入場者数：14,740人
- 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4／デザイン：山下雅士（sleepwalk）
- 担当学芸員：平野 到、大久保静雄



B2ポスター

■開催趣旨

白昼夢のような情景、古代風の建築が並ぶ街、走り抜けていく鉄道、そして静かに佇む女性。ベルギーの画家ポール・デルヴォー（1897-1994）が描く世界は、夢と現実がひと続きになった甘美な幻想に満ちている。

デルヴォーは、印象派風の風景画やベルギーの表現派に影響を受けた人物画を描いていたが、1930年代にシュルレアリスムに触れ、独自の作風に向かった。自らの体験と深く結び付いた、思い入れのあるモチーフが重要な役割を担い、鉄道や駅舎、女性像、骸骨などが繰り返し登場し、デルヴォー独特の神秘的な世界が描かれた。

この展覧会では、作者の愛蔵していた鉄道模型やオイルランプなども展示し、絵画に表れるモチーフの起源をひ

もときながら、デルヴォーが生涯にわたって試みた夢の探究を紹介した。出品作品の約半数は、日本で初公開のものとなった。

■カタログ

規格：29.0×22.5cm、120頁

執筆：ジュリー・ヴァン・デューン（ポール・デルヴォー美術館）、村松和明（岡崎市美術博物館）、音ゆみ子（府中市美術館）

編集協力：鹿児島市立美術館、下関市立美術館、埼玉県立近代美術館、秋田市立千秋美術館

編集：株式会社ブレントラスト

発行：「ポール・デルヴォー展-夢をめぐる旅-」実行委員会

制作：印象社

内容：【各章解説と図版】「写実主義と印象主義の影響」「表現主義の影響」「シュルレアリスムの影響」「ポール・デルヴォーの世界」「旅の終わり」（章解説：ジュリー・ヴァン・デューン）【テキスト】シャルル・ヴァン・デューン「メッセージ」、ポール・デルヴォーの言葉「作品が生まれるまで」、ジュリー・ヴァン・デューン「〈ポール・デルヴォー展-夢をめぐる旅-〉序文」、村松和明「デルヴォー、夢のオデッセイ 沈黙と不在の果ての理想」、音ゆみ子「〈ベルギー〉の画家、ポール・デルヴォー」／【資料等】関連地図、年譜（渡邊祐子編）、出品リスト、ポール・デルヴォー美術館紹介

価格：2,100円

■関連事業

- ・講演会「ポール・デルヴォーを探偵する」／3月10日（日）／講師：新保博久（ミステリー評論家）／参加者：85名。
- ・上映会「ベルギーの現代演劇：モス＝ボンテ特集」／上映作品：「シェルシ・スイート」（1990年）、「悪天使」（1997年）／3月17日（日）午後2回／参加者：計131名。
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／1月26日（土）平野到、2月23日（土）大久保静雄／参加者：計90名。

■広報記録

<新聞>

- ・立山優二「〈夢〉描いた画家の世界」『埼玉新聞』2013年1月23日
- ・「ポール・デルヴォー展始まる」『産経新聞』2013年1月23日
- ・黒沢綾子「封じ込められた欲望の幻影」『産経新聞』201

3年2月10日

- ・「ポール・デルヴォー展 夢として現実を描く 埼玉県立近代美術館」『長崎新聞』2013年2月17日
- ・小山内伸「現実と夢つなぐ絵画世界」『朝日新聞』2013年2月18日
- ・「ポール・デルヴォー展 現実を〈夢〉として描く」『秋田さきがけ』2013年2月18日
- ・「20世紀の〈電車オタク〉」『読売新聞』2013年2月21日
- ・「埼玉でポール・デルヴォー展 現実を〈夢〉として描く」『東奥日報』2013年2月21日
- ・「ポール・デルヴォー展 夢として現実を描く」『日本海新聞』2013年2月23日
- ・「ポール・デルヴォー展 埼玉県立近代美術館 少年時代の〈夢〉構築」『新潟日報』2013年2月23日
- ・「夢をめぐる画家の生涯 埼玉でポール・デルヴォー展」『愛媛新聞』2013年2月24日
- ・「ポール・デルヴォー展 現実を夢のように」『岐阜新聞』2013年2月27日
- ・「ポール・デルヴォー展 〈夢〉として現実を描く」『山陰中央新報』2013年2月27日
- ・「ポール・デルヴォー展 現実を夢として描いた世界」『熊本日日新聞』2013年3月1日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・安永めぐみ「独自の幻想的な画風に行き着くまでの変遷を辿る」『美術の窓』2012年2月号
- ・平野到「ポール・デルヴォー《夜の使者》」『サラダハウス』2013年2月号
- ・平野到「デルヴォーは何を夢見る？」『ソカロ』2013年2-3月号
- ・相馬俊樹「ポール・デルヴォー 夢の中の理想郷に憩う女たち」『トーキングヘッズ叢書 理想郷と地獄の空想学』2013年2月4日53号
- ・森村泰昌「少年としてのデルヴォーが夢見た〈ドリームランド〉の秘密」『クロワッサンプレミアム』2013年4月号
- ・告知：『中外日報』2012年12月15日号／『しろがね』2013年1月号／『定年時代』2013年1月号／『ソー！』2013年1月号／『たまログ』2013年1月号／『ぼど 与野エリア』2013年1月11日号／『ショッパー』2013年1月17日号／『ビバ！アミーゴ』2013年1月25日号／『アコレ おおみや』2013年1-2月号／『足利漫我人』2013年1-2月号／『至高の美術展 2013』2013年1月24日発行／『月刊美術』2013年2月号／『一枚の絵』2013年2月号／『ヘアモード』2013年2月号／『武州路』2013年2月号／『美連協ニュース』2013年2月号／『いけ花龍生』2013

年2月号／『ばびるす』2013年2月号／『つくりびと』2013年2月号／『J:COMクーポン』2013年2月号／『J:COMチャンネル番組ガイド』2013年2月号／『タウンジャーナル』2013年2月号／『ぼど 川越・坂戸・鶴ヶ島エリア』2013年2月8日号／『東京ノウティスボード』2013年2月8日号／『サライ』2013年3月号／『ストーリィ』2013年3月号／『ミセス』2013年3月号／『家庭画報』2013年3月号／『彩の国だより』2013年3月号／『リビングさいたま』2013年3月2日号

<テレビ、ラジオ>

- ・JCN埼玉「デイリーニュース 川口・戸田」2013年2月20日

■担当後記

◆この展覧会は、ポール・デルヴォー美術館の全面的な協力のもとで開催され、展覧会の企画は同美術館のジュリー・ヴァン・デューン氏が行った。当館が所蔵する《森》を除き、すべての出品作品をベルギーから借用しており、デルヴォーの最後の油彩画や最晩年の水彩画など、日本ではほとんど見る機会のない作品を展示することができた。また、展示した習作やドローイングは日本で初公開のものが多く、油彩画の制作のプロセスなどを知る上でも、貴重な作品であったといえる。

◆この展覧会のもうひとつの特徴は、モチーフごとに焦点を充て、デルヴォーの世界を読み解いていった点である。鉄道模型、姿見、手鏡、碇子、オイルランプなど、デルヴォー自身が制作のために収集していた愛蔵品も紹介し、それらが絵画のモチーフとしてどのように描かれたかを直接的に確かめることができる展示となった。特に、当館が所蔵する《森》に登場する列車と同じタイプの鉄道模型を展示できたことは、貴重な機会であった。

◆特別出品を予定していた油彩画《バルコニー》(1948年)は、個人所蔵家の健康上の理由により、出品がかなわなかった。この作品は当館が所蔵する《森》と同年に描かれた作品であり、両者を比較して見ることは、1940年代後半のデルヴォーの制作を考える上でも興味深い。《バルコニー》が展示できなかったことは、たいへん残念である。

◆展覧会のオープニングには、デルヴォーの親族でポール・デルヴォー美術館を運営するヴァン・デューン家の方々に加え、ベルギー大使のリュック・リーバウト氏も出席された。当館を代表する収蔵作家であるデルヴォーを核にして、今後もベルギーの美術や文化を紹介する機会を設け、ベルギーとの持続的な交流をはかっていきたい。(平野 到)



会場風景



オープニング・レセプション

■ 出品リスト

番号	作品名	制作年 (cは頃)	寸法 (縦×横) cm	技法・材質	所蔵先
第1章 写実主義と印象主義の影響					
1	窓辺の若い娘	1920	27.3×19	油彩・板	ポール・デルヴォー財団
2	グラン・マラドの水門(南側の眺望)	1921	79×100	油彩・カンヴァス	個人蔵
3	アンジのムーズ川	1923	60×71	油彩・板	ポール・デルヴォー財団
4a	ショキエ城(アンジ)の眺望	c. 1920	12.7×15.5	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
4b	コルファリー(ユイ)の眺望	c. 1920	15.5×23.7	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
4c	アンジの眺望	c. 1920	13.5×16	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
4d	コルファリー(ユイ)の眺望	c. 1920	14.5×25.5	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
4e	赤い山(アンティのコルファリー)	c. 1920	14.5×26	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
5	クノック=ル・ズートのオーベルジュ・ムウダー	1921	66×83	油彩・カンヴァス	個人蔵
6	河岸の帆船	1923	43×55	油彩・板	ポール・デルヴォー財団
7	北海の景色	1924	32×39.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
8	森の小径	1921	120×100	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
9	リュクサンブール駅(未完)	1922	68×79.5	鉛筆、油彩・紙	ポール・デルヴォー財団
10	サント=クロワ広場	1923	40×60	油彩・板(トリプレックス/三層板)	ポール・デルヴォー財団
11	《リュクサンブール駅》(1922年)のための人物の習作	1920	25.5×36	鉛筆、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
12	《森の小径》(1921年)のための習作	1921	26.7×36	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
第2章 表現主義の影響					
13	カエルのいる沼	1923	60×75	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
14	森の中の裸体群	1927-28	100×120	油彩・カンヴァス	個人蔵
15	バラ色のブラウスの若い女性	1932	115×89	油彩・カンヴァス	個人蔵
16	若い娘のトルソ	1933	128×80	油彩・カンヴァス	個人蔵
17	バラ色の婦人	1934	100×120	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
18	ルージュ=クロワトル	1923	27×36.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
19	ボワフォールの風景	1925	36.7×45.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
20	裸婦	c. 1929	26×17	鉛筆・紙	個人蔵
21	母子像	c. 1929	24.5×17	鉛筆、木炭・紙	個人蔵
22	女友だち(ダンス)	1930	64×48	墨、水彩・紙	個人蔵
第3章 シュルレアリスムの影響					
23	訪問IV	1944	65×100	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
24	夜明け	1944	80×100	油彩・カンヴァス	個人蔵
25	《鏡の前のヴィーナス》(1946年)のための習作	1942	26×35	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団

番号	作品名	制作年 (cは頃)	寸法 (縦×横) cm	技法・材質	所蔵先
26	《レースの行列》(1936年)に基づく舞台背景の習作	1960	55×73	墨、淡彩・紙	ポール・デルヴォー財団
27	《眠れる街》(1938年)に基づく舞台背景の習作	1960	55×73	墨、淡彩・紙	ポール・デルヴォー財団
28	《ビュグマリオン》(1939年)に基づく舞台背景の習作	1960	55×73.5	墨、淡彩・紙	ポール・デルヴォー財団
29	《純潔な乙女たち》(1972年)のための習作	c. 1972	29.5×41.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団

第4章 ポール・デルヴォーの世界

◆自動車、トラム、駅

30	トンネル	1978	150×250	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
特	森	1948	127.5×152.8	油彩・板	埼玉県立近代美術館
31a	ブリュッセル・トラムの運転車両1182号 [1910-34年]		13×17.8	墨・紙 (クロッキー帳)	ポール・デルヴォー財団
31b	チョコレート色のトラム	1933	13×17.8	墨・紙 (クロッキー帳)	ポール・デルヴォー財団
31c	ブリュッセル・トラムの付随車629号		10.3×17.8	墨・紙 (クロッキー帳)	ポール・デルヴォー財団
32	無題	c. 1939	9.5×9.5	墨・厚紙 (ビールのコースター)	ポール・デルヴォー財団
33	モダーヴ駅を出発する列車	1939	直径 10.7	墨・厚紙 (ビールのコースター)	ポール・デルヴォー財団
34	《聖夜》(1956年)に基づく習作	1957	22×32	墨、淡彩・紙	ポール・デルヴォー財団
35	《タバの平和》(1960年)のための習作	1960	25×49.3	墨、淡彩・紙	ポール・デルヴォー財団
36	地方鉄道の車内	1973	27×29.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
37	《伝説の旅》(1974年)のための習作	1974	70×103	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
38	《トンネル》(1978年)のための習作	1977	55×41	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
39	デッキII (《トンネル》(1978年)のための習作)	1977	67×101	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団

◆建築的要素

40	エペソスの集いII	1973	150×240	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
41	夜の使者	1980	150×150	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
42	無題	1937	24×33	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
43	《古代都市》(1941年)のための習作	1941	16.6×20	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
44	廃院の人物と天使の習作	1942	23×32	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
45	ペーネロペイア	1949	32×44	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
46	オリンピアのゼウス神殿	1950	39×50	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
47	バエストゥム	1956	47×66	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
48	《エペソスの集い》(1967年)のための習作	1967	52×52	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
49	《アテネの気まぐれ娘たち》(1968年)のための習作	1968	75×105	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
50	夜の訪問者 (《夜の使者》(1980年)のための習作)	1980	69.5×100	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団

◆生命の象徴としての骸骨

51	会話	1944	50×61	油彩・厚紙	サイモン・コレクション (パトリック・デロム・ギャラリー)
52	骸骨の習作	1949	37.5×33.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
53	《キリストの埋葬》(1951年)のための骸骨の習作	1951	36×71.5	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
54	《磔刑II》(1953年)のための習作	1953	55.5×73.5	油彩、墨、水彩・紙	個人蔵

◆欲望の象徴としての女性

55	行列	1963	122×244	油彩・板	ポール・デルヴォー財団
56	ローの婦人	1969	58×62.4	油彩・板	ポール・デルヴォー財団
57	タムの肖像	1929	36×26	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
58	タムの肖像	1930	35×27	鉛筆・紙	個人蔵
59	ダンス	1930	19.5×25.5	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
60	ニールスタールからユクル・カルヴートへの線路を歩くタムとポール	1930	9.5×14	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
61	タムへの手紙	1948	21×32	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団

番号	作品名	制作年 (cは頃)	寸法 (縦×横) cm	技法・材質	所蔵先
62	タムの肖像	1949	24×21	鉛筆・紙	個人蔵
63	タムとポール (再会から20周年記念の素描)	1968	24×17.2	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
64	ダニエルの習作	1969	57×79	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
65	無題 (ポーズの習作)	1973	36×25.5	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
66	高貴なバラ	1973	68×102	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
67	キャロルの習作	1974	70×52	墨、淡彩・紙	ポール・デルヴォー財団
◆男性の居場所					
68	リーデンブロック教授の習作	1958	54.5×43	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
◆ルーツとしての過去のオブジェ					
69	アンティの台所	1960	78×97	油彩・紙	ポール・デルヴォー財団
70	私の生まれた家	1967	43×58	油彩、墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
71	私の生まれた家 (アンティ)	1968	70×100	墨、水彩・紙	ワズ市
72	グリーティング・カード	1958	13.8×39.2	墨・透写紙	ポール・デルヴォー財団
73	グリーティング・カード	1958	28×39	墨・透写紙	ポール・デルヴォー財団
74	グリーティング・カード	c. 1958	17×28	墨・透写紙	ポール・デルヴォー財団
75	グリーティング・カード	c. 1958	14×41.8	墨・透写紙	ポール・デルヴォー財団
76	グリーティング・カード	c. 1958	15.5×38.8	墨・透写紙	ポール・デルヴォー財団
77	グリーティング・カード	c. 1958	14.1×38.8	墨・透写紙	ポール・デルヴォー財団
◆フレスコ					
78	リエージュ大学動物学研究所のフレスコ《創世記》(1960年)のための下絵	1960	95×180	油彩・板 (トリプレックス/三層ポール・デルヴォー財団板)	ポール・デルヴォー財団
79a	リエージュ大学動物学研究所のフレスコ《創世記》(1960年)のための習作	1958	27×36	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
79b	無題	1958	13×18	鉛筆・紙	ポール・デルヴォー財団
80a	無題	1958	12×16.5	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
80b	無題	1958	12×16.5	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
80c	無題	1958	12×16.5	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
80d	無題	1958	12×16.5	墨・紙	ポール・デルヴォー財団
81	リエージュ大学動物学研究所のフレスコ《創世記》(1960年)のための下絵	1958	42×52.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
第5章 旅の終わり					
82	カリュプソー	1986	120×90	油彩・カンヴァス	ポール・デルヴォー財団
83	無題	1988	105.5×74.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
84	無題	1989	105.5×73.5	墨、水彩・紙	ポール・デルヴォー財団
デルヴォーのアトリエから					
No	資料名	寸法 (幅×奥行×高) cm		所蔵先	
OB1	レースのブラウス	45×37		ポール・デルヴォー財団	
OB2	パレット	58.5×45×13		ポール・デルヴォー財団	
OB3	筆			ポール・デルヴォー財団	
OB4	碁子 (がいし)	65×32×6		ポール・デルヴォー財団	
OB5	手鏡	23×1×8.5		ポール・デルヴォー財団	
OB6	姿見	74×5×125		ポール・デルヴォー財団	
OB7	オイル・ランプ	直径14、高36		ポール・デルヴォー財団	
OB8	オイル・ランプ	20×14.5×45		ポール・デルヴォー財団	
OB9	オイル・ランプ	20×17×17.5		ポール・デルヴォー財団	
OB10,11	列車模型	23×7.5×11、23×8×9		ポール・デルヴォー財団	
OB12	列車模型	38×12.5×22.5		ポール・デルヴォー財団	
OB13	『地底旅行』 ジュール・ヴェルヌ著、エドゥアール・リウー絵	19×3.5×25		ポール・デルヴォー財団	

■MOMASコレクション

MOMASコレクション(埼玉県立近代美術館常設展)では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の優れた作品を、さまざまな角度から紹介している。

年間を4つの会期に分け、各回さらにいくつかのコーナーを設けて、ジャンルやテーマ、作家の小特集、名品選など、さまざまな切り口で多様な作品を紹介できるような構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示して企画性を高めている。

また新たな特集展示枠として、「アーティスト・プロジェクト」(平成15年度～)、「キュレーターの視点」、「ミューズ・フォーラム」、「リサーチ・プログラム」(以上3本は平成16年度～)、「美術館物語」(平成17年度～)をスタートさせ、従来の常設展の枠にとらわれない斬新で企画性に富んだ展示を心がけている。

このような姿勢を明確に提示するため、平成19年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMASコレクション」という名称を用いることとした(ただし展示室の名称は従来通り「常設展示室」としている)。

開館30周年に当たる平成24年度は、「草間彌生」展にあわせた所蔵作品による草間の特集展示やアーティスト・プロジェクト「ゴトウ・シュウ」にはじまり、コレクションの厚みのある部分を構成する埼玉の美術家の特集展示、来館者の人気投票「みんなで選ぶMOMASコレクションベスト10」をふまえた「コレクション名作選」や「コレクターの眼」、新収蔵作品を中心に現代美術に焦点を当てて構成した「色彩・ゆらぎ・気配」、「自我のかけら」など、記念の年に相応しいヴァリエティに富んだ展示を展開した。

■MOMASコレクション [I]

■会期：2012年4月19日(木)～7月8日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：J R東日本大宮支社

■入場者数：27,204人

■広報印刷物：ポスター B1・B2/デザイン：マキコージ

■担当学芸員：梅津 元、中村 誠、渋谷 拓、平山 都



B1・B2ポスター

■常設展示室

《草間彌生 -works 1951-1975》

1950年代のドローイングから、1960年代の油彩・彫刻、1970年代のコラージュまで、当館が所蔵する草間彌生の作品をすべて展示した。

作者名	作品名	制作年
草間彌生	集積	1951
草間彌生	THE WOMAN	1953
草間彌生	T2	1953
草間彌生	Flower	1953
草間彌生	R.B.4	1954
草間彌生	Flower	1954
草間彌生	A.Q. INFINITY NETS	1960
草間彌生	スーツケース	1966
草間彌生	脚立	1966
草間彌生	青蛇の目をもつ花瓶	1975
草間彌生	生きものの巢	1975
草間彌生	魂たちが安息する穴	1975
草間彌生	ドッツ・オブセッション、	2009
	水玉で幸福いっぱい	
草間彌生	宇宙へ行くときのハンドバッグ	2009
草間彌生	私の犬のリンリン	2009
草間彌生	資料展示	写真パネルなど(作家蔵)

《アーティスト・プロジェクト：ゴトウ・シュウ コズミックな織物ー磁場・波動そして生命の色彩》

グラフィック・デザインから絵画に転身し、緻密な画面にスプラッシュによる偶然性を取り入れて独自の重層的な表現を展開してきたゴトウ・シュウの絵画世界を紹介した。

作者名	作品名	制作年
ゴトウ・シュウ	Sparkle Series No.3	1977
ゴトウ・シュウ	UN. No.25	1978
ゴトウ・シュウ	UN FORM WORK 8001-k	1980
ゴトウ・シュウ	形象シリーズ 803-5-07-Z	1983-1987
ゴトウ・シュウ	形象シリーズ 803-05-N	1985
ゴトウ・シュウ	8001-B-807A	1987
ゴトウ・シュウ	表層シリーズ 809-01-B	1989
ゴトウ・シュウ	900-00B	1990
ゴトウ・シュウ	沈黙の森シリーズII KARMA Y-099-F	1999
ゴトウ・シュウ	大地シリーズ	2006
ゴトウ・シュウ	生の形状(表層シリーズ) 706-85-7XW	2006-2007
ゴトウ・シュウ	スプラッシング・オブジェ(イス)	不詳
ゴトウ・シュウ	スプラッシング・オブジェ(重箱)	不詳

■担当後記

◆染色家に師事した後、1960年代後半からグラフィック・デザイナーへと転身したゴトウは、後藤秀として若くして頭角を現し、沖縄海洋博のポスターや、POLA、EPSON、WOWOWなどのカレンダーを手掛け、数々の賞を受賞、デザイナーとして輝かしい業績を遺した。

70年代半ばからデザインの仕事と並行して版画を制作、流水紋の探求に打ち込む。紙幣などの地紋に使われる彩紋彫刻機の複雑な曲線模様を組み合わせ、息をのむ精緻な手仕事によって、流水紋をオプティカルな効果と不思議な詩情を湛えた作品へと昇華させたゴトウの版画は高い評価を得る。しかし表面・表層にとどまらない構造や深さ、精神の活性化を求め絵画を志向した彼は、1984年ゴトウ・シュウと改名、タブローの制作を開始する。

画家としての離陸を模索した埼玉県飯能市での10年間は、食欲で旺盛な実験が繰り返された時代だ。銅版に刻みを入れバーナーで焼くといった自らの版の仕事を否定し、のりこえる作業にはじまり、自身の過去の象徴でもある流水紋を消し去る独特のスプラッシングの作品へと展開していく。

パネルにキャンバスを貼り、地塗りを施し、その上に和紙や韓紙を貼り、滲みを抑えるために多めに礬砂ほんさをひいて作られた下地に、ボンドやジェッソで丹念に流水紋を描き顔料を固着する。その後ワイヤーブラシで紙を毛羽立たせ、スプラッシングという独特の技法で、幾度も幾度も色点を「打ち込んで」いく。15本から20本くらいの手製の柄の長い細筆を束ねて、アクリル絵の具や膠で溶いた日本画の顔

料に浸し、それを1.5mほどの距離から画面に向かって繰り返し振り下ろして、顔料の飛沫を飛び散らせていく。銀河に浮かぶ星々のようなゴトウの特徴的な絵画空間は、丹念に作られた下地の流水紋をワイヤーブラシで引っ掻き、スプラッシングのスピード感と偶然性を伴った飛沫で覆い尽くしていくという、弁証法的な工程を経て制作されている。

95年にはデザイナーとしての成功や約束された未来ときっぱりと決別して絵画に専心する道を選び、静岡県伊東市に転居。翌年には日本橋・高島屋や京都・大雅堂で個展を開き、画家としても高い評価を獲得する。2005年には、「最後のドット打ち」と称して、郷里の岩手県安代町(現八幡平市)に戻り、廃校に自ら手を加えてアート・ステーション・ギャラリーを立ち上げ、若手美術家の切磋琢磨の場所として提供するなど、新たな活動を行った。

このような画家としての軌跡やそれぞれの風土との対話が、重層的に織り成されてきたゴトウの絵画空間にいつもの深さや透明感を与え、ある種の気を立ち上らせているように感じられる。それは時間という激流を潜り抜けてきた画家の「生の形状」に他ならない。

今回の特集展示では、デザインの仕事はすべて割愛し、平成23年に一括寄贈された作品をベースに近作の連作ドローイング《大地》など、特別出品の作品をまじえて構成した。またオープニングに合わせ4月19日にアーティストトークを開催した。(中村 誠)

《モダン・タイムスー近代の絵画》

ドラクロワ、モネなどのフランス近代絵画に、明治時代以降の日本の油彩画作品などを交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え 起こす弟子たち ※登録美術品(丸沼芸術の森蔵)	1860
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
モーリス・ドニ	トレトリニエルの岩場	1920
和田英作	鈴木勝五郎肖像	1908
和田英作	鈴木やす肖像	1908
斎藤藤作	フランス風景 I	1910頃
パブロ・ピカソ	静物	1944
森田恒友	少女(2)	1914
森田恒友	ブルターニュ4	1915
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルの サクレ＝クール寺院	1919
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944
林 俊衛	画家K氏の肖像	1922
佐伯祐三	門と広告	1925

《版の表現—その多様な世界》

版の表現の新たな可能性を求めて独自の技法の開発に取り組み、個性あふれる世界を紹介した。

作者名	作品名	制作年
浜口陽三	9つの貝殻	1980
菅井 波	日蝕	1965
駒井哲郎	夢の推移	1950
元永定正	ふゆうするふたつ	1981
吉田穂高	水辺の神話	1971
秋山 静	BLUE WAVES '94-B-1	1994
加納光於	Illumination-1986 PF-6	1986
黒崎 彰	赤い闇 6	1970
立石大河亜(タイガー立石)	Cubic Worlds	1973



「アーティスト・プロジェクト：ゴトウ・シュウ」の展示

■ 1階ギャラリー（県展期間中は展示されていません）

作者名	作品名	制作年
白井昭子	月の光のトルソ	1965
ジョージ・シーガル	赤いシャツを着た三つの人体	1975
清塚紀子	空路1988-B	1988
柳澤紀子	地の根	1986
柳澤紀子	分水嶺 1	1993
柳澤紀子	翼を外して I	1994
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 I	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 II	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 III	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 IV	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 V	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 VI	1992
辰野登恵子	Nov-23-1993	1993
山本容子	Blue Song (CHANT SONG)	1985
山本容子	Oh Girl Fille (CHANT SONG)	1985
山本容子	Reve Dream (CHANT SONG)	1985
山本容子	Thank You Mer Sea (CHANT SONG)	1985
山本容子	Oh Flower Girl (CHANT SONG)	1985
山本容子	Time Temps (CHANT SONG)	1985

■ 広報記録

<新聞>

・『埼玉新聞』2012年4月14日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・中村誠「銀河宇宙と隠された流水紋—ゴトウ・シュウの
絵画空間」『ソカロ』2012年4-5月号
- ・大久保静雄「ジュール・パスキン《眠る裸女》」『サラ
ダハウス』2012年5月号
- ・中村誠「ゴトウ・シュウ《生の形状 706-85-7XW》」
『サラダハウス』2012年6月号
- ・告知：『ぱびるす』2012年4月号／『彩の国だより』201
2年4月号／『彩の国だより』2012年6月号／『武州路』2
012年5月号

■MOMASコレクション [Ⅱ] 開館30周年記念特別展示①

■会期：2012年7月14日（土）～10月14日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：J R東日本大宮支社

■入場者数：19,534人

■広報印刷物：ポスター B1・B2/デザイン：マキコージ

■担当学芸員：中村 誠、梅津 元、平山 都



B1・B2ポスター

■常設展示室

◀西洋の近代美術▶

モネ、ピサロら印象派、エコール・ド・パリ、ピカソやデルヴォーなどといった近代絵画の名品に、近代の彫刻作品を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景 ※寄託作品（丸沼芸術の森蔵）	1854-1857
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン =ピエールの頭像	1884-1886頃
クロード・モネ	ルエルの眺め ※登録美術品（丸沼芸術の森蔵）	1858
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みむら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
アリストイド・マイヨール	イル・ド・フランス	1925
エミール=アントワーン・ブルデル	チリーの女	1921
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925

ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925頃
シャルル・デスピオ	ピアンキーニ嬢	1929
アンドレ・ドラン	浴女	1925
パブロ・ピカソ	静物	1944
キスリング	リタ・ヴェン・リアの肖像	1927
ポール・デルヴォー	森	1948

◀埼玉の美術家たち▶

日本の近代美術史に大きな足跡を印した埼玉ゆかりの美術家たちの作品を、洋画、日本画、工芸、版画の各分野に分け、それぞれの代表的作品で紹介した。

作者名	作品名	制作年
◀洋画・彫刻▶		
斎藤豊作	フランス風景 II	1910頃
森田恒友	会津風景	1916
倉田白羊	山ふところ	1933
斎藤与里	朝	1915
田中 保	裸婦	1924
寺内萬治郎	裸婦	1954
奥瀬英三	庭	1925
林 俊衛	別所沼風景	1941-1944
中野四郎	永遠	1968
須田剋太	作品 1964e	1964
古川 弘	写真機のある静物	1943
瑛 九	雲	1959
高田 誠	野尻湖と妙高	1940
渡邊武夫	堀割のある風景	1972
斎藤三郎	敗戦の自画像	1948
相原求一朗	初雪ふる	1976
田中 実	遥	1984
木村直道	シンバルを叩く男 バックミラー楽団	1965-1968
川村親光	四月の土手	1985
寺井力三郎	赤いソファー	1984
小川 游	千倉の海	1989
塗師祥一郎	雪の大宮公園	1974
◀日本画・工芸▶		
(前期：7/14~8/26)		
橋本雅邦	長江晴楼図	1895頃
橋本雅邦	月下群雁図	1899頃
奥原晴湖	仙境群鶴	1905
小村雪岱	見立寒山拾得	不詳
小村雪岱	青柳	1924頃
小村雪岱	落葉	1924頃
小村雪岱	雪の朝	1924頃
小茂田青樹	樹上猿	1929
小茂田青樹	鳴鶏	1930
丸木位里	紅梅	1967
四方田草炎	霧積山中黒滝	1950
加藤勝重	響	1986
今野忠一	北睡	1972
大野百樹	八海山	1985
(後期：8/28~10/14)		
橋本雅邦	花鳥図	不詳
奥原晴湖	秋景山水図	1878
江森天寿	裾野の秋	1915
小村雪岱	蚊帳釣草に桔梗図着物	1933頃
小村雪岱	美人立姿	1934頃

小村雪岱	柳に梅花図帯	1935頃
小茂田青樹	秋叢	1925-1926頃
小茂田青樹	春の夜	1930
関口正男	清浄光	1984
池田憲二	塔影	1969
関根将雄	佳き日	1967
伊藤 彬	秋思	1982
(全期間展示)		
内藤四郎	銅六角長手筥	1978
増田三男	金彩銅壺 山茶黄と鸞	1971
<版画・写真>		
瑛 九	希望	1951
瑛 九	オペラグラス	1953
瑛 九	ピエロ	1957
秋山 静	BLUE HORIZON '82-A-5	1982
中林忠良	転位 '92-地-1	1992
東谷武美	日蝕 F	1983
小山愛人	My Landscape Q	1982
山本容子	Love Lash (ROMANCE)	1984
塩崎由美子	シリーズ (恢復) より	2011

■ 1階ギャラリー

(7/14~9/2)

みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10 投票コーナー

(9/4~10/14)

作者名	作品名	制作年
アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	『ラ・ルビュ・ブランシュ』誌 ポスター	1895
国吉康雄	乳しぼり	1922
国吉康雄	ブランコの女	1936
北川民次	タスコの裸婦	1941
北川民次	メキシコの浴み	1941頃
ルフィーノ・タマヨ	すわっている人	1976
ルフィーノ・タマヨ	無題 B	1983
泉 茂	流浪の旅	1955
泉 茂	インディアン	1956
泉 茂	夜の蛾	1957
アントニ・タビエス	横向きの椅子	1984
アントニ・タビエス	籐の座	1984
吉原英雄	火の鳥	1956
吉原英雄	赤い実	1957
池田満寿夫	洞くつの歌	1956
池田満寿夫	原始の太陽	1956
ジム・ダイン	植物、扇風機になる I	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる II	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる III	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる IV	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる V	1974
フランシスコ・トレド	馬の主人	1974
フランシスコ・トレド	コヨーテとこおろぎのたわむれ	1985

■ 広報記録

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・平山都「加藤勝重《響》」『サラダハウス』2012年8月号
- ・梅津元「ウジェーヌ・ブーダン《ノルマンディーの風景

》」『サラダハウス』2012年9月号

- ・告知：『ばびるす』2012年8月号、『しろがね』2012年秋号



「埼玉の美術家たち」の展示



「埼玉の美術家たち」の展示

■MOMASコレクション [Ⅲ] 開館30周年記念特別展示②

- 会期：2012年10月20日（土）～2013年1月20日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：J R 東日本大宮支社
- 入場者数：12,547人
- 広報印刷物：ポスター B1・B2／デザイン：マキコージ
- 担当学芸員：渋谷 拓、中村 誠、平山 都、梅津 元



B1・B2ポスター

■常設展示室

◀コレクション名作選▶

人気投票「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」の集計結果をふまえて、収蔵作品を幅広く紹介した。

作者名	作品名	制作年
〈現代美術〉		
エティエンヌ=ジュール・マレ	飛ぶ鳥	1885頃 (プリントは1988)
ジャン・アルブ	バラを食べるもの	1963
マン・レイ	レイヨグラフ	1921頃 (プリントは1963)
ラスロ・モホリ=ナジ	フォトグラム	1922 (プリントは1929)
斎藤義重	ブラック・ボックス4	1991
瑛 九	花	1956
八木一夫	いつもうしろ側には	1977
元永定正	聖火	1964

ヘス・ラファエル・ソト	黒のT	1990
白髪一雄	青波	1979
金 昌烈	水滴 J.T.83002	1983
上田 薫	ジュリーにスプーン C	1990
細江英公	おとこと女 作品#10	1960
細江英公	おとこと女 作品#20	1960
細江英公	おとこと女 作品#23	1960
上村次敏	サン・マルコ広場	1985
中西夏之	arc・green-I	1980
野村 仁	太陽 7月(2点組)	1985-1992
山崎 博	海をまねる太陽 1	1978
山崎 博	海をまねる太陽 2	1978
山崎 博	海をまねる太陽 3	1978
山崎 博	海をまねる太陽 4	1978
山崎 博	海をまねる太陽 5	1978
深井 隆	逃れゆく思念-一時の曳航-	1998
森村泰昌	だぶらかし (ポートレートD)	1988
〈近代美術 (油彩)〉		
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え 起こす弟子たち	1860
カミーユ・ピサロ	※登録美術品 (丸沼芸術の森蔵) エラニーの牛を追う娘	1884
クロード・モネ	ルエルの眺め	1858
クロード・モネ	※登録美術品 (丸沼芸術の森蔵) ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
モーリス・ドニ	トレトリニエルの岩場	1920
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925頃
アンドレ・ドラン	浴女	1925
パブロ・ピカソ	静物	1944
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルの サクレ=クール寺院	1919
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
マルク・シャガール	二つの花束	1925
キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944
岸田劉生	路傍初夏	1920
古賀春江	コンポジション	1930頃
ポール・デルヴォー	森	1948
佐伯祐三	門と広告	1925
〈近代美術 (日本画・工芸)〉		
(前期：10/20～12/2)		
川合玉堂	山村春色	1913頃
吉川霊華	羅浮僊女	1928
松林桂月	春宵花影	1955
今村紫紅	龍虎	1913
小茂田青樹	麦踏	1919
伊東深水	宵	1933
(後期：12/4～1/20)		
橋本雅邦	長江晴楼図	1895頃
菱田春草	湖上釣舟	1900
小村雪岱	青柳	1924頃
土田麦僊	甜瓜図	1931
小茂田青樹	春の夜	1930
速水御舟	夏の丹波路	1915
(全期間展示)		
内藤四郎	銅六角長手筥	1978
増田三男	金彩銅壺 山茶黄と鸞	1971

《コレクターの眼》

横山大観を含む近代日本画47点をご寄贈いただいた大熊家コレクション、駒井哲郎を100点余ご寄贈いただいた武田光司氏など、コレクターからの寄贈作品をその人となりとともに紹介した。

作者名	作品名	制作年
〈大熊家コレクション〉		
(前期：10/20～12/2)		
横山大観	日本心神	1944頃
川合玉堂	蓬萊暎色図	1918
富田溪仙	糺の森	不詳
橋本閑雪	訪隠図	不詳
堂本印象	鳥言長者草	1922
(後期：12/4～1/20)		
横山大観	春雨 秋雨	1923頃
横山大観	朧夜	1924頃
横山大観	漁村曙	1940
下村観山	巖に鳥	1915-1916頃
奥村土牛	鴛鴦	1935
〈鈴木金三郎コレクション〉		
熊谷守一	大島	1935
熊谷守一	高原	1939頃
熊谷守一	裸	1943
熊谷守一	ケシ	1956
熊谷守一	柴たく男	1960
熊谷守一	百日草	1960
熊谷守一	夏の月	1961
〈武田光司コレクション〉		
駒井哲郎	閉じた扉	不詳
駒井哲郎	夢の始まり	1949
駒井哲郎	R夫人肖像	1950頃
駒井哲郎	夢の推移	1950
駒井哲郎	束の間の幻影	1951
駒井哲郎	海底の祭	1951
駒井哲郎	記号の静物	1951
駒井哲郎	夢の終わり	1951
駒井哲郎	時間の迷路	1952
駒井哲郎	教会の横	1955
駒井哲郎	食卓II	1959
駒井哲郎	果実の受胎	1959
駒井哲郎	葉	1960
駒井哲郎	星座	1969

《1階ギャラリー》

作者名	作品名	制作年
長谷川潔	二つのアネモネ	1934
ロベルト・マッタ	妄想を選ぶ	1983
ロベルト・マッタ	四角い炉	1983
ロベルト・マッタ	入口は出口にあり	1983
ロイ・リキテンスタイン	積みわら 7	1969
ジョージ・シーガル	赤いシャツを着た三つの人体	1975
襲 嘔	角力	1984
加納光於	illumination-1986 PF-3	1986
加納光於	illumination-1986 PF-5	1986
加納光於	illumination-1986 PF-7	1986
加納光於	illumination-1986 PF-8	1986

黒崎 彰	暗号の森 7	1973
黒崎 彰	夜のアラベスク	1980
中林忠良	転位 '82-地-VI (夏)	1982
中林忠良	転位 '83-地-VIII	1983
野田哲也	日記；1973年10月2日	1973
野田哲也	日記；1980年7月11日、成田へ	1980
立石大河亜(タイガー立石)	Milano-Torino Superway	1974
池田良二	Light crossing border (越境する光)	1991
池田良二	Diffused Whereabouts (拡散する所在)	1992
柄澤 齊	肖像I クラウディオ・モンテヴェルディ	1981
柄澤 齊	肖像XVI マティアス・グリューネヴァルト	1983

■広報記録

＜新聞＞

- ・三宅芳樹「県立近代美術館で収蔵品人気投票」『埼玉新聞』2012年10月20日
 - ・前田朋子「県立近代美術館で人気ベスト10展」『東京新聞』2012年10月26日
 - ・「小村雪岱〈青柳〉」『東京新聞』2012年12月16日
- ### ＜雑誌、ミニコミ誌等＞
- ・渋谷拓「西野康造《風の中で》」『サラダハウス』2012年11月号
 - ・吉岡知子「下村観山《巖に鳥》」『サラダハウス』2012年12月号
 - ・平山都「コレクターと美術館」『ソカロ』2012年12月-2013年1月号



「コレクション名作選」現代美術コーナーの展示風景



「コレクターの眼」の展示風景

■ MOMAS コレクション [IV]

■会期：2013年1月26日（土）～3月31日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：J R 東日本大宮支社

■入場者数：9,429人

■広報印刷物：ポスター B1・B2/デザイン：マキコージ

■担当学芸員：中村 誠、梅津 元、渋谷 拓、伊豆井 秀一



B1・B2ポスター

■常設展示室

《旅への誘い - 魅惑の絵画から》

美しい水辺の光、都市の喧噪、異国の香り、田園の詩情など、私たちの想像力を刺激し、さまざまな旅へと誘うテーマの作品を中心に展示を構成した。

作者名	作品名	制作年
ジャン=バティスト=カミーユ・コロー	イタリアの想い出	1866
ジャン=バティスト=カミーユ・コロー	砂丘にて - ハーグの森の想い出	1869
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
クロード・モネ	ルエルの眺め	1858
	※登録美術品（丸沼芸術の森蔵）	
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
モーリス・ドニ	トレトリニエルの岩場	1920
森田恒友	イル・ブレア	1915
倉田白羊	小笠原島	1914
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ=クール寺院	1919

マルク・シャガール	二つの花束	1925
林 俊衛	西洋風景	1921頃
イヴ・タンギー	無題	1947
瑛 九	森のつどい	1951
瑛 九	子供のプロフィール	1957
瑛 九	宇宙	1959
渡邊武夫	カマレー	1990
五月女幸雄	Vision Fugitive	1989

《色彩・ゆらぎ・気配》

新収蔵作品を中心に、「色彩」「ゆらぎ」「気配」というテーマをふまえてコレクションから選ばれた作品を組み合わせ、現代の美術を紹介した。

作者名	作品名	制作年
加納光於	Peninsular !	1967
加納光於	親和力II	1984
加納光於	《色身—未だ視ぬ波頭よ》I	1992
加納光於	《色身—未だ視ぬ波頭よ》od.2	1992
狗巻賢二	青い形質	1998
菅 木志雄	四囲分集	1994
	※寄託作品（双ギャラリー蔵）	
那須弘一	作品 No.1 (Werk No.1)	1973-1978
那須弘一	作品 No.2 (Werk No.2)	1973-1978
那須弘一	作品 No.3 (Werk No.3)	1973-1978
那須弘一	作品 No.4 (Werk No.4)	1973-1978
那須弘一	作品 No.5 (Werk No.5)	1973-1978
那須弘一	作品 No.6 (Werk No.6)	1973-1978
安原竹夫	ほどける風景シリーズ 『みんないっしょ—前兆』	1997
筆塚稔尚	Untitled-2 "I'm juggling now"	1987

《自画のかけら - 美術家たちのセルフ・イメージ》

自画像など、美術家が自らについて持つイメージを主題とした作品をコレクションから選び、検証した。

作者名	作品名	制作年
奥瀬英三	自画像	1916
ヘンリー・ムーア	作家の手 I ~ V (5点組)	1979
三尾公三	自画像1977	1977
重村三雄	1975年の私	1975
岡本信治郎	エノケンの自画像	1974
郭 徳俊	フォードと郭	1974
郭 徳俊	フォードと郭	1974
郭 徳俊	カーターと郭	1977
郭 徳俊	レーガンと郭	1981
郭 徳俊	レーガンIIと郭	1985
郭 徳俊	ブッシュと郭	1989
郭 徳俊	クリントンと郭	1993
郭 徳俊	クリントンIIと郭	1997
郭 徳俊	ブッシュ2001と郭	2001
郭 徳俊	ブッシュ2001IIと郭	2005
郭 徳俊	オバマと郭	2009
四宮金一	自作前の自画像	1984
佐藤時啓	Breath-graph I	1990

《闇を刻む－日和崎尊夫》

木口木版画家・日和崎尊夫の濃密な作品世界を紹介した。

作者名	作品名	制作年
日和崎尊夫	心臓の樹木	1966
日和崎尊夫	KALPA-68-B	1968
日和崎尊夫	樹木	1969
日和崎尊夫	詩画集『卵』 (特別出品 シロタ画廊蔵)	1970
日和崎尊夫	対話	1972
日和崎尊夫	海薔薇	1972
日和崎尊夫	寓話	1974
日和崎尊夫	原子花	1976
日和崎尊夫	旅	1978
日和崎尊夫	魚のカーニヴァル	1982
日和崎尊夫	ピエロ	1983
日和崎尊夫	擬人	1983
日和崎尊夫	永劫回帰	1988
日和崎尊夫	未来都市-T	1989
日和崎尊夫	蔵書票 TAKECHI SHINZO 日和崎尊夫関連資料	

■ 1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
《「色彩・ゆらぎ・気配」関連展示》		
ヘルベルト・バイヤー	色層の円盤	1970
大沢昌助	無題	1984
アラン・グリーン	赤に向かう白のアングル	1992
菅 木志雄	作品	1985
原口典之	無題	1985
鎌谷伸一	Pinetree No.31-B	1979
筆塚稔尚	転位 '86-II	1986
筆塚稔尚	午後の死角-3	1990
筆塚稔尚	風暦	1992
筆塚稔尚	風-5	1993
《「闇を刻む－日和崎尊夫」関連展示》		
小林敬生	蘇生の刻 S62-9	1987
柄澤 齊	肖像IX フランツ・カフカ	1983
柄澤 齊	肖像XV シャルル・メリヨン	1983
柄澤 齊	肖像XIII エドガー・アラン・ポー	1983
柄澤 齊	肖像XXI ハンス・メムリンク	1984
柄澤 齊	肖像XXVII オディロン・ルドン	1985
《平成23年度新収蔵品》		
田中 保	シアトル風景 (I)	1912-1915
田中 保	シアトル風景 (II)	1912-1915
田中 保	シアトル風景 (III)	1912-1915

■ 広報記録

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・大越久子「ミース・ファン・デル・ローエ《パルセロナ・チェア》」『サラダハウス』2013年1月号
- ・伊豆井秀一「日和崎尊夫《KALPA-68-B》」『サラダハウス』2013年3月号
- ・伊豆井秀一「日和崎尊夫の闇」『ソカロ』2013年2-3月

号

- ・告知：『しろがね』2013年1月号、『ぼど』2013年1月25日号、『武州路』2013年2月号

■ 担当後記

◆「色彩・ゆらぎ・気配」のコーナーでは、平成23年度に新たに寄贈された、加納光於、安原竹夫、狗巻賢二の作品に、「色彩」「ゆらぎ」「気配」というテーマをふまえてコレクションから選ばれた作品を組み合わせで紹介した。

◆最初の対比は、加納光於と那須弘一。幅6メートルを越す加納の大作は、今回の展示の目玉である。骨格となる中央の斜線の反復と、両翼をなす流動する大きな面が、その豊穡で流麗な「色彩」によって有機的に結び付けられている。一方、色彩が抑制された那須の6点は、地図や航空写真から得られたモチーフを抽象化することで成立している。複雑で有機的な世界と、単純で幾何学的な世界が、緩やかな推移によって交流しているように感じられた。

◆次の対比は、安原竹夫と筆塚稔尚。どちらの画面からも感じられる「ゆらぎ」は、エネルギーのみなざる躍動感と、崩壊を予感させる緊張感を漂わせている。発展と崩壊が表裏一体となってしまった現代の社会状況が反映しているのだろうか。

◆最後の対比は、狗巻賢二と菅木志雄（寄託作品）。狗巻の画面には、細長い矩形が何層も塗り重ねられ、その重なりが新たな形の連鎖を生んでいる。菅の立体では、4つの木枠の形状が微妙に異なっており、石と木枠の関係も考慮されている。絵画と立体という表現手法の違いを越えて、どちらも、基本となる矩形の連鎖が、リズムカルな「気配」を生んでいる。

◆出来あがった展示を見ると、上記の対比に加えて、青、矩形、螺旋状の線など、いくつかの作品に共通する様々な発見があった。具体的なテーマやメッセージを直接読み取ることができなくても、魅力的な視覚経験は、私たちを芸術鑑賞の深みへと誘ってくれることが体感できた。

◆新たな作品がコレクションに加わると、既存のコレクションを新たな視点から紹介することが可能になる。貴重な作品をご寄贈いただきました方々のご厚意におこたえするためにも、これからも魅力的な展示を心がけていきたい。

(梅津 元)



「色彩・ゆらぎ・気配」の展示風景

■サンデー・トーク

毎月1回、日曜日の15時から常設展示室で開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMASコレクション」から1点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら30分程度のトークを行うもの。平成24年度は以下の内容で実施した。参加者：計236名。

- 4月8日 小茂田青樹《麦踏》
担当学芸員：平山都／参加者：18名。
- 5月13日 和田英作《鈴木勝五郎肖像・鈴木やす肖像》
担当学芸員：吉岡知子／参加者：28名。
- 6月10日 ゴトウ・シュウ《809-01-B》
担当学芸員：中村誠／参加者：19名。
- 7月22日 クロード・モネ《ルエルの眺め》
担当学芸員：大久保静雄／参加者：20名。
- 8月12日 ウジェーヌ・ブーダン《ノルマンディーの風景》
担当学芸員：渋谷拓／参加者：22名。
- 9月2日 塩崎由美子《シリーズ〈恢復〉より》
担当学芸員：大越久子／参加者：12名。
- 10月7日 瑛九《希望》
担当学芸員：梅津元／参加者：23名。
- 11月11日 橋本関雪《訪隠図》
担当学芸員：平山都／参加者：14名。
- 12月9日 エティエンヌ＝ジュール・マレ《飛ぶ鳥》
担当学芸員：前山裕司／参加者：11名。
- 1月13日 ポール・デルヴォー《森》
担当学芸員：平野到／参加者：38名。
- 2月10日 安原竹夫《ほどける風景シリーズ『みんないっしょー前兆』》
担当学芸員：渋谷拓／参加者：24名。
- 3月17日 日和崎尊夫《KALPA-68-B》
担当学芸員：伊豆井秀一／参加者：7名。

■収集事業

平成13年度以降、厳しい財政状況により年次の作品購入ができない状況が続いているが、平成24年度も下表のように8件16点の寄贈と1件4点の保管転換により、収蔵作品のいっそうの充実を図ることができた。寄贈者および関係者のみなさまに、心から感謝申し上げたい。

日本画では小村雪岱による二曲一双の屏風、油彩画等では、貴重な初期作品を含む泉茂の作品を5点、版画では、柏原えつとむの書籍形態の作品と県内作家ヨシズミ トシオの版画2点、彫刻では、吉野辰海のブロンズ作品などが新たにコレクションに加わった。

これらの新収蔵作品は、平成25年度以降のMOMASコレクションで順次紹介していきたい。(敬称略)

■平成24年度収集作品数と収蔵作品総数

平成25年3月31日現在

区 分	平成24年度収集点数			収蔵作品総数
	購 入	寄 贈	保管転換	
日本画	0	1	1	433
油彩画ほか	0	5	3	593
ドローイング	0	0	0	477
版画	0	4	0	1,010
写真	0	0	0	173
平面その他	0	0	0	13
彫刻	0	1	0	184
立体その他	0	0	0	10
工芸	0	0	0	49
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	3	0	108
資料Ⅱ	0	2	0	18
合 計	0	16	4	3,099

■新収蔵作品一覧

1

小村雪岱 1887(明治20)―1940(昭和15)

Settai KOMURA

武者絵貼り交ぜ屏風

Screens with Samurai's Images

大正15年頃 彩色、絹(二曲一双)

c.1926 Color on silk (a pair of screens)

各90.5×96.5cm

平成24年度楠山三香男氏寄贈

J-432



2

関根将雄 1919 (大正8) ―2013 (平成25)

Masao SEKINE

あじさい

Hydrangeas

平成7年頃 彩色、紙

c.1995 Color on paper

88.0×113.5cm 右下に白文方印「ま」

保管転換

J-433



3

泉 茂 1922 (大正11) ―1995 (平成7)

Shigeru IZUMI

題名不詳

Title Unknown

昭和28年 油彩、カンヴァス

1953 Oil on canvas

45.0×38.0cm 左下に署名 S.Izumi

平成24年度泉照子氏寄贈

O-586



4

泉 茂 1922 (大正11) ―1995 (平成7)

Shigeru IZUMI

折る円

Folded Circle

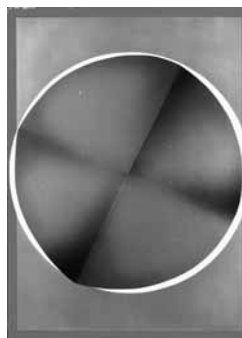
昭和56年頃 油彩、カンヴァス

c.1981 Oil on canvas

99.7×73.0cm

平成24年度泉照子氏寄贈

O-587



5

泉 茂 1922 (大正11) —1995 (平成7)

Shigeru IZUMI

折る三角

Folded Triangle

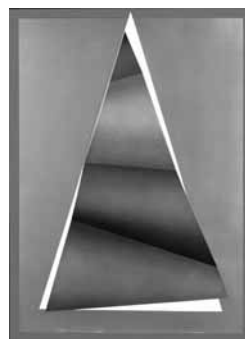
昭和56年頃 油彩、カンヴァス

c.1981 Oil on canvas

99.7×73.0cm

平成24年度泉照子氏寄贈

O-588



6

泉 茂 1922 (大正11) —1995 (平成7)

Shigeru IZUMI

折る四角

Folded Square

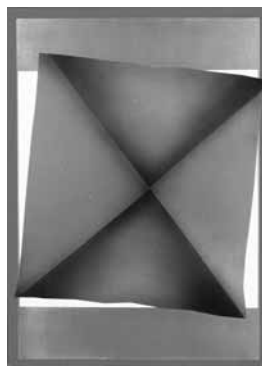
昭和56年頃 油彩、カンヴァス

c.1981 Oil on canvas

99.7×73.0cm

平成24年度泉照子氏寄贈

O-589



7

泉 茂 1922 (大正11) —1995 (平成7)

Shigeru IZUMI

スクエアーダンス

Square Dance

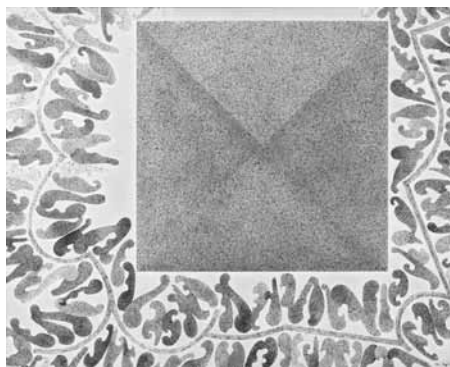
昭和62年 アクリル、カンヴァス

1987 Acrylic on canvas

130.5×162.0cm 右下に署名と年記 '87 Izumi

平成24年度泉照子氏寄贈

O-590



8

川村親光 1928 (昭和3) —

Chikamitsu KAWAMURA

奥武蔵 鎌北湖早春

Okumusashi—Lake Kamakita in Early Spring

平成7年頃 油彩、カンヴァス

c.1995 Oil on canvas

59.5×71.3cm 右下に署名 C.KAWAMURA、裏板に朱文方印「親」
保管転換

O-591



9

寺井力三郎 1930 (昭和5) —

Rikisaburo TERAJ

武甲山四月

Mt. Buko in April

平成7年頃 油彩、カンヴァス

c.1995 Oil on canvas

61.0×73.0cm 右下に署名 R.Terai

保管転換

O-592



10

渡邊武夫 1916 (大正5) —2003 (平成15)

Takeo WATANABE

南仏カアニュ=シュル=メール

The Midi, Cagnes-sur-Mer

平成4年頃 油彩、カンヴァス

c.1992 Oil on canvas

71.3×51.8cm 右下に署名 T.Watanabe T.S.

保管転換

O-593



11

柏原えつとむ 1941 (昭和16) —

Etsutomu KASHIHARA

これは本である

THIS IS A BOOK

昭和45年 セリグラフ、紙

1970 Serigraph on paper

19.0×13.6×2.0cm 巻末に署名 E.Kashihara

平成24年度寄贈

P-1007



12

平塚運一 1895 (明治28) —1997 (平成9)

Un'ichi HIRATSUKA

菩提樹の実

Linden Berries

昭和38年 木版、紙

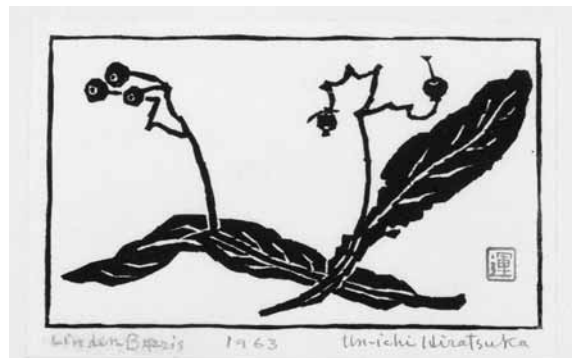
1963 Woodcut on paper

11×16.8cm 画面右下に署名 Un-ichi Hiratsuka、中央下に年記 1963、

左下にLinden Berris

平成24年度真保亨氏寄贈

P-1008



13

ヨシズミ トシオ 1952 (昭和27) —

Toshio YOSHIZUMI

Visage F (Fulcrum) I

平成6年 ドライポイント、エッチング、アクアチント、紙
1994 Drypoint, etching and aquatint on paper
59.0×88.8cm 左下に6/75 Visage F (Fulcrum) I、右下に署名 T.yoshizumi
平成24年度寄贈

P-1009



14

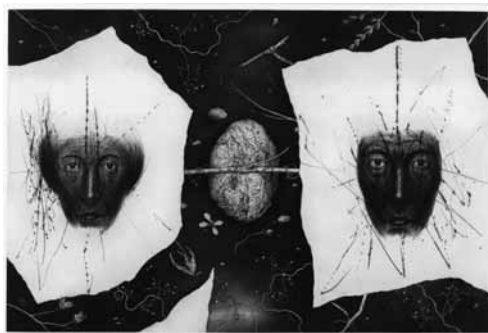
ヨシズミ トシオ 1952 (昭和27) —

Toshio YOSHIZUMI

Visage F (Fulcrum) II

平成6年 ドライポイント、エッチング、アクアチント、紙
1994 Drypoint, etching and aquatint on paper
59.0×88.8cm 左下に6/75 Visage F (Fulcrum) II、右下に署名 T. yoshizumi
平成24年度寄贈

P-1010



15

吉野辰海 1940 (昭和15) —

Tatsumi YOSHINO

水犬

Aqua Dog

昭和63年 ブロンズ
1988 Bronze
72.0×29.0×20.0cm 地山前面にaqua dog、地山背面に署名 T. yoshino、
胴部背面に年記88
平成24年度村松画廊寄贈

S-184



16

荻 太郎 1915 (大正4) —2009 (平成21)

Taro OGI

題名不詳

Title Unknown

昭和47年頃 エッチング、紙
c.1972 Etching on paper
13.1×9.6cm 画面右下に署名 Ogui、左下に188/250
平成24年度真保亨氏寄贈

R I -106



17

柏原えつとむ 1941 (昭和16) —

Etsutomu KASHIHARA

これは本である

THIS IS A BOOK

昭和48年 オフセット印刷、紙

1973 Offset on paper

19.0×13.6×2.6cm 巻頭に署名 E.Kashihara

平成24年度村松画廊寄贈

RI-107



18

草間彌生 1929 (昭和4) —

Yayoi KUSAMA

Mushroom Stool

平成17年 FRP、クッション

2005 FRP, cushion

φ46.0cm 側面に署名と年記 YAYOI KUSAMA 2005

平成24年度株式会社草間スタジオ寄贈

RI-108



19

瑛九 1911 (明治44) —1960 (昭和35)

EI-KYU

瑛九関連資料 (山田光春著『瑛九油絵作品集』)

Materials on EI-KYU: Photo Albums of Oil Paintings

昭和52年 写真 (アルバム3冊組)

1977 Three photographic albums

各38.0×29.8×4.2cm

平成24年度谷口都氏寄贈

RII-17



20

瑛九 1911 (明治44) —1960 (昭和35)

EI-KYU

瑛九関連資料 (「西洋版画展」ポスター)

Materials on EI-KYU: Exhibition Poster

昭和29年 印刷、紙

1954 Print on paper

76.5×53.0cm 右下に群馬県掲載認印

平成24年度谷口都氏寄贈

RII-18



■美術資料貸出等一覧

■美術作品の館外貸出

館外貸出点数：20件（展覧会） 66点（点数）

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期（備考）
鬮嘸	秘密	鬮嘸－ふたたび虹のかなたに	東京都現代美術館	2/4-5/6
鬮嘸	けもの	鬮嘸－ふたたび虹のかなたに	東京都現代美術館	2/4-5/6
鬮嘸	雲と太陽	鬮嘸－ふたたび虹のかなたに	東京都現代美術館	2/4-5/6
鬮嘸	鉄骨	鬮嘸－ふたたび虹のかなたに	東京都現代美術館	2/4-5/6
鬮嘸	鉄骨・ウィンチ・2人	鬮嘸－ふたたび虹のかなたに	東京都現代美術館	2/4-5/6
鬮嘸	黒の中の白・黄・赤の形	鬮嘸－ふたたび虹のかなたに	東京都現代美術館	2/4-5/6
熊谷守一	大島	小さな画面に無限の世界－熊谷守一展	瀬戸内市立美術館	2/29～4/10
熊谷守一	ケシ	小さな画面に無限の世界－熊谷守一展	瀬戸内市立美術館	2/29～4/10
熊谷守一	百日草	小さな画面に無限の世界－熊谷守一展	瀬戸内市立美術館	2/29～4/10
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	カミーユ・ピサロと印象派	宇都宮美術館	3/24-5/27
マルク・シャガール	二つの花束	シャガール展2012－愛の物語	高知県立美術館	4/8-6/3
熊谷守一	大島	小さな画面に無限の世界－熊谷守一展	伊丹市立美術館	4/14～5/27
熊谷守一	ケシ	小さな画面に無限の世界－熊谷守一展	伊丹市立美術館	4/14～5/27
熊谷守一	百日草	小さな画面に無限の世界－熊谷守一展	伊丹市立美術館	4/14～5/27
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	画家にして版画家	町田市立国際版画美術館	4/14-6/17(展示期間5/29-6/17)
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	フラワースケープ	DIC川村記念美術館	4/28-7/22(展示期間4/28-6/10)
吉川霊華	羅浮僊女	吉川霊華展	東京国立近代美術館	6/12-7/29
マルク・シャガール	二つの花束	マルク・シャガール－愛をめぐる追想	岐阜県美術館	9/5-10/28(展示期間9/5-10/8)
横山大観	春雨・秋雨	開館15周年記念－横山大観展	宇都宮美術館	9/16-10/14
横山大観	朧夜	開館15周年記念－横山大観展	宇都宮美術館	9/16-10/14
横山大観	漁村曙	開館15周年記念－横山大観展	宇都宮美術館	9/16-10/14
須田剋太	作品1972黒	美の系譜－国画会と山形	米沢市上杉博物館	10/6-11/25
須田剋太	私の曼荼羅a	美の系譜－国画会と山形	米沢市上杉博物館	10/6-11/25
小村雪岱	一本刀土俵入	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
小村雪岱	一本刀土俵入	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
小村雪岱	一本刀土俵入	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
小村雪岱	一本刀土俵入	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
小村雪岱	老松若松	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
小村雪岱	小指	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
小村雪岱	紅梅図着物	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
小村雪岱	紅梅図帯	大正・昭和のグラフィック・デザイナー－小村雪岱展	ニューオータニ美術館	10/6-11/25
渡邊武夫	老図書館長Tさんの像	南薫造と教え子たち	呉市立美術館	10/6-11/25
渡邊武夫	水辺初夏	南薫造と教え子たち	呉市立美術館	10/6-11/25
渡邊武夫	レ・ザンドリィの眺め	南薫造と教え子たち	呉市立美術館	10/6-11/25
渡邊武夫	プロヴァンの散歩道	南薫造と教え子たち	呉市立美術館	10/6-11/25
野見山曉治	冷たい夏	南薫造と教え子たち	呉市立美術館	10/6-11/25
里見明正	D氏像	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25
里見明正	八丈の子供たち	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25
里見明正	キリストの降下	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期 (備考)
里見明正	呼吸絶えたキリスト	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25
里見明正	エジプトへ行く聖家族	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25
里見明正	夕涼長瀨	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25
里見明正	聖骸布	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25
里見明正	蔵にて	生誕100年記念－里見明正展	熊谷市立図書館	10/20-11/25
瑛九	作品 (I)	ドローイング・シュルレアリスム	ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム	10/21-2013. 1/6 (展示期間10/21-12/5)
瑛九	作品 (7)	ドローイング・シュルレアリスム	ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム	10/21-2013. 1/6 (展示期間10/21-12/5)
瑛九	作品 (41)	ドローイング・シュルレアリスム	ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム	10/21-2013. 1/6 (展示期間10/21-12/5)
瑛九	作品 (IV)	ドローイング・シュルレアリスム	ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム	10/21-2013. 1/6 (展示期間12/6-1/6)
瑛九	作品72)	ドローイング・シュルレアリスム	ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム	10/21-2013. 1/6 (展示期間12/6-1/6)
鎌木清方	慶長風俗	清方に見る江戸の女性	鎌倉市鎌木清方記念美術館	11/3-12/9
鎌木清方	葡萄	清方に見る江戸の女性	鎌倉市鎌木清方記念美術館	11/3-12/9
鎌木清方	梅月相思	清方に見る江戸の女性	鎌倉市鎌木清方記念美術館	11/3-12/9
鷺嘯	秘密	鷺嘯－ふたたび虹のかなたに	広島市現代美術館	11/3-2013. 1/14
瑛九	作品 (26)	日本・オブジェ－1920-1970年代－断章	うらわ美術館	11/14-2013. 2/1
瑛九	作品 (40)	日本・オブジェ－1920-1970年代－断章	うらわ美術館	11/14-2013. 2/1
瑛九	作品 (42)	日本・オブジェ－1920-1970年代－断章	うらわ美術館	11/14-2013. 2/1
瑛九	作品 (47)	日本・オブジェ－1920-1970年代－断章	うらわ美術館	11/14-2013. 2/1
瑛九	作品 (II)	日本・オブジェ－1920-1970年代－断章	うらわ美術館	11/14-2013. 2/1
関根伸夫	位相－大地 1	日本・オブジェ－1920-1970年代－断章	うらわ美術館	11/14-2013. 2/1
瑛九	作品 (III)	ドローイング・シュルレアリスム	モーガン・ライブラリー&ミュージアム	2013. 1/25-4/21 (展示期間1/25-3/10)
瑛九	作品 (6)	ドローイング・シュルレアリスム	モーガン・ライブラリー&ミュージアム	2013. 1/25-4/21 (展示期間1/25-3/10)
瑛九	作品 (76)	ドローイング・シュルレアリスム	モーガン・ライブラリー&ミュージアム	2013. 1/25-4/21 (展示期間1/25-3/10)
瑛九	作品 (V)	ドローイング・シュルレアリスム	モーガン・ライブラリー&ミュージアム	2013. 1/25-4/21 (展示期間3/11-4/21)
瑛九	作品 (2) ドローイング・シュルレアリスム	モーガン・ライブラリー&ミュージアム	モーガン・ライブラリー&ミュージアム	2013. 1/25-4/21 (展示期間3/11-4/21)
瑛九	作品 (74)	ドローイング・シュルレアリスム	モーガン・ライブラリー&ミュージアム	2013. 1/25-4/21 (展示期間3/11-4/21)
荒川修作	VOICE DRINKER/THE ARTIFICIAL GIVEN	Re:Quest-1970年代以降の日本の現代美術	ソウル大学校美術館	3/5-4/14

■特別利用

写真原板貸出：28件56点 作品熟覧：1件1点 作品撮影：0件 作品模写：0件

■収蔵作品の紹介

作者名	作品名	発行元等	媒体
小村雪岱	星祭り	文化出版局	『ミセス』 2012年7月号
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	デイビス	『そよ風サロン』 2012年夏号
菱田春草	湖上釣舟	デイビス	『そよ風サロン』 2012年夏号
橋本雅邦	長江晴楼図	デイビス	『そよ風サロン』 2012年夏号
マルセル・ブロイヤール	ヴァシリー	日本文教出版	『造形教育の教材と授業づくり』

作者名	作品名	発行元等	媒体
小村雪岱	星祭り	静岡市美術館	「七夕の美術－日本近世・近代の美術工芸にみる」図録
熊谷守一	夏の月	求龍堂	熊谷守一カレンダー2013年版（商品制作）
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	イメージング・ワークス	『日本の美術館ベスト240完全案内』
草間彌生	スーツケース	イメージング・ワークス	『日本の美術館ベスト240完全案内』
瑛九	雲	イメージング・ワークス	『日本の美術館ベスト240完全案内』
小茂田青樹	春の夜	イメージング・ワークス	『日本の美術館ベスト240完全案内』
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	講談社	『逆引き美術館ガイド』
下村観山	巖に鳥	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
橋本閑雪	訪隠図	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
横山大観	日本心神	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
横山大観	春雨 秋雨	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
横山大観	朧夜	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
横山大観	漁村曙	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
野口小嶺	僊人観瀑図	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
川合玉堂	蓬萊暁色図	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
菊池芳文	山桜小禽類	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
猪飼嘯谷	養老の滝	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
池上秀敏	鷺	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
田中頼璋	松下高士図	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
寺崎廣業	山家の雪	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
小室翠雲	楼閣山水ノ図	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
富田溪仙	糺の森	クオリアート	『日本藝術の創跡 vol.17 美の再発見－日本－』
橋本雅邦	長江晴楼図	生活の友社	『アートコレクター』2012年10月号
小村雪岱	雪の朝	便利堂	絵はがき（商品制作）
木村忠太	ル・クロ＝サン＝ピエールの庭	日本文教出版	平成25年度版高等学校美術教科書『Art & You』
小村雪岱	星祭り	ニューオータニ美術館	「大正・昭和のグラフィックデザイン 小村雪岱展」図録
寺内萬治郎	裸婦	求龍堂	『美味しい美術館－美術館の雑学ノート』
高田誠	秋の静物	求龍堂	『美味しい美術館－美術館の雑学ノート』
斎藤与里	暁の金剛山	求龍堂	『美味しい美術館－美術館の雑学ノート』
山本容子	Tea Party Song	求龍堂	『美味しい美術館－美術館の雑学ノート』
チャールズ・レニー・マッキントッシュ	ヒルハウス I	求龍堂	『美味しい美術館－美術館の雑学ノート』
小村雪岱	青柳	ブラネットライツ	『男の隠れ家』2012年12月号
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	ブラネットライツ	『男の隠れ家』2012年12月号
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	ブラネットライツ	『男の隠れ家』2012年12月号
鎌木清方	慶長風俗	鎌倉市鎌木清方記念美術館	『鎌倉市鎌木清方記念美術館 開館15周年記念図録』
鎌木清方	葡萄	鎌倉市鎌木清方記念美術館	『鎌倉市鎌木清方記念美術館 開館15周年記念図録』
鎌木清方	梅月相思	鎌倉市鎌木清方記念美術館	『鎌倉市鎌木清方記念美術館 開館15周年記念図録』
小村雪岱	一本刀土俵入り（舞台装置原画）	木杵社	「股旅任侠演歌集」CD10枚組付属冊子（商品制作）
瑛九	ヴァイオリン	Enzo Press	Communicating Vessels: The Surrealist Movement in Japan, 1923-70
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	NHKラジオセンター	NHKラジオ第一「つながるラジオ木曜ワイド」番組HP
上田薫	ジェリーにスプーンC	オフィスエリア51	『教科書に出てくる日本の画家 第三巻 近代の洋画家』
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	講談社	『画家の食卓』
伊東深水	宵	青人社	『日本の美女』

作者名	作品名	発行元等	媒体
今村紫紅	龍虎	小学館	『日本美術全集 第13巻 江戸時代Ⅱ 宗達・光琳と桂離宮』
野見山暁治	冷たい夏	美術出版社	『日本近代美術の傑作150』
駒井哲郎	岩礁 (日本の四季 夏)	日本経済新聞社	『日本経済新聞』2012年2月18日
小茂田青樹	春の夜	イメージング・ワークス	『日本の美術館ベスト150完全案内』
瑛九	雲	イメージング・ワークス	『日本の美術館ベスト150完全案内』
瑛九	花	開隆堂出版	小学校教科書『図画工作』
渡邊武夫	堀割のある風景	光アート	『光風会史-100回記念-』
高田誠	山湖	求龍堂	『あなたに会えて本当によかった-夫・高田誠の思い出』

■作品熟覧

作家名	作品名	申請者
狩野芳崖	楼閣山水図	下関市立美術館

■教育・普及事業

■美術館講座

■現代美術入門・パブリックアートについて考えよう

■開催趣旨

GTS(芸大・台東・墨田)観光アートプロジェクトは共催で区内のさまざまな場所や施設で、アート活動など多彩なプログラムを展開し地域連携事業として活動を推進していくものであるが、今回の講座では、そのうちのパブリックアートの設置に関わる事業に着目した。東京スカイツリーは多くの観光客を呼んでいるが、これらの作品はその塔を眺められるというポイントを選定しながら設置されている。

平成22年度から24年度までの3年間でアートベンチ・アートサインの5件の他、12点の作品が設置されるのだが、その23年度設置までのものを見学しその検証を行おうというのが趣旨であった。

■日程

講義：2012年6月30日(土) /参加者：16名。

13時30分～15時 / 「GTS観光アートプロジェクトについて」 / 講師：保科豊巳(東京芸術大学教授)

15時15分～17時 / 「東京スカイツリー周辺のパブリックアートについて」 / 講師：ヨコミゾマコト(東京芸術大学准教授)

見学会：2012年7月7日(土) 13時30分～16時30分 / 講師：当館学芸員 / 参加者：13名。

■担当後記

◆東京芸術大学(G)、台東区(T)、墨田区(S)の3者の合同事業であるGTS観光プロジェクト。このプロジェクトのもとに行われたパブリックアートの設置事業。推進の過程での設置箇所の選定、周辺住民との交渉など、オフレコの裏話も飛び出し、改めて大変な事業だったと推察された。

◆講師の保科豊巳氏は現代彫刻展出品作家の常連だったが、あれから幾星霜、久しぶりの対面だった。現在芸大の美術学部長として管理的立場になり、このGTSプロジェクトのパブリックアートの設置事業統括責任者に。もうひとりの講師は建築界の売れっ子で建築雑誌を飾るヨコミゾマコト氏。講義は共に自作の紹介もまじえプロジェクトに関連した興味深いものだった。

◆このパブリックアート設置事業はアーティスト個人の作業でなく芸大の美術学部を横断する複数の学部の共同プロ

ジェクトとして行われた。統括していくのは大変だったろうとは思いますが、多面的な要素を含むパブリックアートであるがゆえに、区との協働そして学部横断ということは、有効に作用したのではと思う。

◆見学会当日前半は大雨。足下は水が流れるようであったが、参加者は熱心に真剣に耳を傾けていた。

◆東京スカイツリー周辺は歴史的な文化財の多くあるところで、これに参加型の要素の多い現代のパブリックアートが加わることで楽しみは倍加されたのではないか。プロジェクトの目的は達成されたと見るべきだろう。

(伊豆井秀一)



見学会風景

■近現代建築探検ツアー

■開催趣旨

鑑賞の対象を建築領域にまで広げ、建築家と作品をよりよく知ろうとする講座である。

建築鑑賞の面白さは、現地を実際に訪れ、その場所を知り、建物を見て、その機能を確認しながら建物の内部に入って、空間を体感することにある。この講座では、初回に講義で作家や作品の時代背景や鑑賞する上でのヒントを得、建築の見方の基本を学び、2回目には実際に建築を現地に訪ね、作家のコンセプトを中心にその表現や方法を探ることとしている。鑑賞だけにとどまらず、建築をめぐるさまざまな問題にも眼を向けていきたいと考えている。

■県内版

見学会：本庄市内 / 2013年11月10日(土) / 講師：戸谷正夫(本庄まちNET代表)、増田一裕(前本庄市立歴史民俗資料館館長) / 見学箇所：①柴崎家、②本庄市立歴史民俗資

料館、③諸井家住宅、④本庄仲町郵便局、⑤旧ロイヤル洋菓子店、⑥中澤医院、⑦赤煉瓦ホール / 参加者：20名。

■都内版

講義「現象する『和』の系図」 / 2013年3月9日(土) / 講師：米山勇(建築史家) / 参加者：24名。

見学会 / 2013年3月16日(土) / 講師：米山勇(建築史家) / 見学箇所：①旧東方学院、②銅御殿、③文京スポーツセンター / 参加者：22名。

■広報記録

・告知：『さいたま朝日』2012年9月23日号、『武州路』2012年10月号、『タウン・ジャーナル』2012年10月号

■担当後記

< 県内版 >

◆宿場町として発展した本庄。ここには明治、大正、昭和初期の建物が旧中山道沿いに残っている。街ではこれらを生かしたまちづくりが有志の力ですすめられている。これらをたどることはまちの歴史をたどること。建築と郷土史に詳しい二人の地元の講師の話は詳細にわたり、歴史をつまびらかに知ることとなった。

◆本庄郵便局、諸井家住宅は隣接しているが、郵便局長、それに諸井家住宅の管理に当たられている方のご好意で諸井家住宅内部を隈無く拝見させていただいた。清掃も行き届き整頓された一階、それに二階の屋根裏からは建物の構造が具に見られ、明治期の建築とその構造を通し、時の流れを知った。

◆本庄市立歴史民俗資料館はもと警察署で関東大震災後朝鮮人虐殺事件のあったところ。ルネッサンス風の建物は何事もなかったかのように美しく建っていた。

◆最後の訪問箇所本庄煉瓦ホールは酒蔵をうまく生かしてイベント会場やカフェに改装している。この周辺整備計画を中心になって進めているのが講師の戸谷氏。メディアでも頻繁に取り上げられており、まちづくりの核として着実にまちに根づきはじめている。

< 都内版 >

◆今年度から講師を建築史家の米山勇氏にお願いした。初代の馬場璋造、中谷正人、倉方俊輔氏と数え4代目になる。それぞれ講師の特徴があるが、米山氏は話術も達者で硬軟織り交ぜ、個人的な意見もユニークで好評だった。

◆茗溪会館で参加者全員が一緒に昼食をとって好評だった。こうした時間がとれれば参加者の友好がはかれるのは承知なのだが、多くの席を必要とする見学箇所に隣接した場所

を確保するのは都内の場合特に難しいのである。

◆景観問題で話題を呼んだ銅御殿。無料にさせていただいた上に、所有者である大谷美術館理事長とお嬢さんのお話は住んでいらっしゃる立場からの生のお話、維持していく上での苦労話など面白くないわけではない。

◆見学会当日は天候に恵まれ、最後には講師提案の特別プログラム「けんちく体操」が公園で行われた。建築のイメージを人体を駆使してその形をつくろうとするもの。参加者ははじめ尻込みしていたが、講師とチームスタッフの熱心な指導のもとにいくつかのグループにわかれ次第に積極的に体を動かし楽しく行うようになっていった。アンケートも面白かったとの評が多く導入してよかったと思う。

(伊豆井秀一)



本庄市立歴史民俗資料館



見学会(都内版)の様子

■子どものためのプログラム

■MOMASの扉

0. 「MOMASの扉」とは

2010年4月から新しくスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が一緒になって美術館での体験を共有することにより、ひとり一人の新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は毎週土曜日。美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営し、平成24年度は8種類の内容を行った。参加者の年齢層は幼児（4才）からお年寄りまで幅広い。

今年度は、今までのプログラムを見直し、参加者のニーズに応じて全てのプログラムに制作活動を入れて計画した。

1. MOMASコレクション みる+つくる

MOMASコレクションや美術館の建物などを小グループでまわり、参加者同士の対話を楽しんで作品の鑑賞を行う。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生。

- ・「このイスなあに？」4月14日／参加者：17名。
- ・「体の音を色や形に」6月2日／参加者：22名。
- ・「四角deアート」7月7日／参加者：17名。
- ・「わたしの好きあなたの好き」10月27日／参加者：25名。
- ・「30周年特別企画」11月3日／講師：尾引浩志（ホーメイ／口琴奏者）／参加者：24名。
- ・「わたしの好きあなたの好き」12月22日／参加者：13名。
- ・「大統領と郭」2月2日／参加者：15名。

2. MOMASコレクション 親子クルーズ

MOMASコレクションや美術館の建物などを小グループでまわり、親子で鑑賞をする。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生+親。

- ・「ゴトウ・シュウ」4月28日／参加者：16名。
- ・「ゴトウ・シュウ」6月9日／参加者：23名。
- ・「不思議美術館をつくろう」11月10日／参加者：18名。
- ・「カメラを使わずにものを写しとる」1月12日／参加者：24名。
- ・「GOODな線を見つけよう！」3月16日／参加者：32名。

3. 企画展物語 みる+つくる

企画展会場で、展示会の魅力や楽しむためのヒントをわ

かりやすく紹介し、鑑賞の後に簡単な制作を行うプログラムを実施した。対象枠：小・中学生。

- ・「草間彌生展」4月21日／参加者：23名。
- ・「ウルトラマン・アート！」7月14日／参加者：19名。
- ・「日本の70年代」10月13日／参加者：11名。
- ・「ベン・シャーン展」12月1日／参加者：12名。
- ・「ポール・デルヴォー展」2月9日／参加者：22名。

4. 企画展物語 親子クルーズ

企画展を親子で楽しむプログラム。作品の魅力を紹介し、親子で鑑賞した後、簡単な制作を行った。対象枠：小・中学生+親。

- ・「草間彌生展」5月19日／参加者：21名。
- ・「ウルトラマン・アート！」7月21日／参加者：13名。
- ・「日本の70年代」9月22日／参加者：15名。
- ・「ベン・シャーン展」12月8日／参加者：13名。
- ・「ポール・デルヴォー展」2月23日／参加者：30名。

5. み〜つけ！

美術館のできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施した。対象枠：幼児（4才〜6才）とその親

- ・「でたっ！」5月12日／参加者：32名。
- ・「ピカッ！」10月6日／参加者：31名。
- ・「ビニール袋に描く」3月9日／参加者：34名。

6. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。じっくり制作に取り組んだりみんなで一緒に活動したりして、ワークショップを展開した。対象枠：小学生〜一般。

- ・「光 くるくる」5月26日／参加者：22名。
- ・「ストーン・ペインティング」6月16日／参加者：28名。
- ・「洗濯ばさみアート」9月8日／参加者：42名。
- ・「色の実験室」9月15日／参加者：86名。
- ・「とびだせ美術館」11月24日／参加者：26名。
- ・「夜の美術館」1月19日／参加者：26名。
- ・「リトグラフ」3月2日／参加者：26名
- ・「ふしぎ屏風」3月23日／参加者：25名

6. アート★ビンゴ

9つのクイズを解きながら、美術館を気軽に楽しむ鑑賞プログラム。参加者は1階ロビーでビンゴ・シートを受け取り、館内外を巡りながらクイズを解く。最後にスタッフと一緒に答えを確認し、正解が多ければスタンプがもらえる。リピーターも多く、子どもたちや家族に人気のプログ

ラムである。対象枠：どなたでも。／4月7日、5月5日、6月23日、7月28日、9月1日、10月20日、11月17日、12月15日、1月26日、2月16日／参加者：計604名。

8. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。参加者が美術館での活動に参加することによって美術の価値を見出す機会を提供する、スペシャル・プログラムである。

- ・「怪獣をつくっちゃおう！」8月4日／参加者：204名。
- ・「からだでビジュツ感」8月11日／講師：新井英夫（体奏家）／参加者：36名。
- ・「ドローイング2012 YOUGO!-融合-」8月18日／講師：小澤基弘（画家・埼玉大学教授）／参加者：34名。
- ・「鉛筆の庭」8月25日／講師：関根直子（美術家）／参加者：125名。



企画展物語 親子クルーズ。「ウルトラマン・アート！」に関連してオリジナル怪獣のお面を作成。

■夏休みの特別プログラム

1. 夏休みMOMASステーション

夏休みに美術館を訪れる子どもたちの美術館体験が豊かなものになるようサポートするコーナーを設置した。相談員は教育普及サポート・スタッフが交代で行い、美術館の案内や資料の配布、美術館見学の宿題の相談に応じた。教育普及と研究員が美術館の楽しみ方を紹介するジュニア・ガイドを作成したり、教員によるレポート例の特別掲示版を作成したりして、子どものサポートを充実させた。7月21日（土）～8月31日（金）の毎日／エントランス／対応数：計3,660名。

2. 鑑賞ツアー

夏休み期間中に3日間限定で30分のミニ・ツアーを行った。館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシ

リテーターとなり、ツアーの運営にあたった。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することができた。／7月27日、8月3日、8月10日の3回／対応数：計124名。



教育普及サポート・スタッフによる鑑賞ツアー

■広報記録

- ・「アートに興味があるちびっこは〈MOMASの扉〉を叩いてみよう」『家族でおでかけ夏休み』
- ・告知：『あんふあん』2012年4月号／『ぼど 川越・坂戸・鶴ヶ島』2012年4月27日号／『武州路』2012年5月号／『彩の国だより』2012年5月号／『ぼど 与野エリア』2012年11月23日号／『ぼど』2012年12月21日号／『ぼど 与野』2013年2月8日号／『ぼど 川越・坂戸・鶴ヶ島』2013年2月8日号

■担当後記

◆「MOMASの扉」の実施3年目を迎え、各プログラムの内容が参加者に定着してきたと言える。また、参加者のニーズに合わせ、プログラムの中に制作を入れたことと親子で参加するプログラムを増やしたことで参加希望者は増えたといえる。しかし、キャンセルや当日欠席が多く、定員割れることもあったので、今後は定員以上の申し込みを受け付けて対応したいと考えている。

◆今年度は参加者総数のうち約3分の1が新規参加者であった。とくに幼児の新規者が多く、次年度は幼児向けのプログラム「み〜つけ！」を増やしていきたい。継続して参加を申し込むリピーターも大事にしながら、新規者も多く受け入れることで「MOMASの扉」を広めていきたいと考えている。
(田中耕次)

■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が共同で子どものための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASの扉」を運営している。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生は現場での実践力を身につけることができる。また美術館にとっては、こうした事業を通じて子どもの目線に立った作品鑑賞を充実させることができるとともに、新たな切り口の鑑賞プログラムを開発できるメリットがある。

■担当後記

◆平成24年度の学生の登録は8名。学生が主となり運営したプログラムは「MOMASコレクション みる+つくる」3回と、制作を組み込んだ「工房」1回である。美術館・大学・学生が三位一体となって、連携を密にとりながらの協働が実現できた1年であった。

◆「ミュージアム・コラボレーション」の授業を継続受講する学生が多く、新入生をうまくリードしながら学生グループ内の運営も順調に進んだ。また、演習を重ねることによって、計画の立て方や運営の仕方も徐々に身についてきた。今後は、美術館側からの提案をより早めに伝えることによって、学生が内容を検討する時間や事前に作品を分析する機会を多く与えて、より質の高いプログラムを目指していきたい。
(田中耕次)



埼玉大学の学生による「MOMASコレクション みる+つくる」の運営

■企画展ワークシートの作成

企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場で無償配布するほか、学校団体や子どものためのプログラムなどでも幅広く活用している。県内全ての小・中学校、また必要に応じて高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。

平成24年度は次の3種を作成した。

- ①「もっと知りたいウルトラマン！/このヒーローはだれだ！」（ウルトラマン・アート！）/作成：田中耕次
- ②「Ben Shahn『線の魔術師』」（ベン・シャーン展）/作成：田中耕次
- ③「ポール・デルヴォーってどんな人？/デルヴォー作品のモチーフを紹介！」（ポール・デルヴォー展）/作成：山水明

■学校との連携

■先生のための鑑賞会

学校教員を対象に、企画展の鑑賞と解説を通して美術館の利用促進と鑑賞教育への関心を高めてもらうことを目的に、各企画展で1回ずつ実施した。

プログラムは、①学校で美術館を利用するための利用方法などの紹介、②企画展担当学芸員による展覧会解説と鑑賞、③企画展関連情報提供、という流れで行った。

- ・「草間彌生 永遠の永遠の永遠」／4月27日（金）
／参加者：26名。
- ・「ウルトラマン・アート！」／7月12日（木）
／参加者：19名。
- ・「日本の70年代 1968-1982」／11月2日（金）
／参加者：10名。
- ・「ベン・シャーン展」／11月22日（木）
／参加者：12名。
- ・「ポール・デルヴォー展」／2月15日（金）
／参加者：11名。



「草間彌生 永遠の永遠の永遠」の鑑賞会

■美術館利用研究会

学校における美術館の利用を率先して考える研究会として教員10名を委嘱し、年間12回の研究活動を行った。

委嘱研究員：飯田成子（朝霞市立朝霞第八小学校教諭）、安田敦子（志木市立宗岡中学校）、鈴木裕美（三芳町立三芳小学校）、後藤安紀（小平市立小平第十小学校）、佐藤直子（さいたま市立大宮南小学校教諭）、宮本優子（川口市立本町小学校教諭）、浅沼夏菜（戸田市立喜沢中学校教諭）、長峯絵里子（桶川市立桶川東中学校）、宮地和加菜（さいたま桜高等学校）、下釜悦子（川口市立芝小学校）。

研究活動：今年度は「埼玉アート・カード」の活用促進を図るため、プログラム冊子の作成をまず行った。基本となるプログラムを考案し提供するほか、利用にあたっての

効果がわかりやすくまとめられたものとなった。この冊子は、当館ホームページからダウンロードできるほか、「埼玉アート・カード」と合わせて貸し出す予定である。

また、鑑賞学習の基本を短時間で学べるキットの考案とその作成を進めてきた。これについては、次年度も継続して研究を進め、完成させる予定である。

■担当後記

◆今年度も研究員が各学校でプログラムのシミュレーションをしつつ研究を進めた。その甲斐あって、説得力のある内容にまとめることができた。今後も、継続していきたいと考えている。

◆昨年度開発した岸田劉生《路傍初夏》の複製画活用プログラムについては、県総合教育センターの研修会で紹介することができた。今後の利用の拡大につながればと考えている。

◆今年度も、話し合いで進んだ内容を資料にまとめ、各学校へ郵送することで共有化を図った。メール等による情報提供よりも確実であった。（山水 明）



美術館利用研究会の活動の様子

■教員美術講座

「ワークショップ・レクチャー 感性のトレーニング／私を磨くことからはじめよう」／8月8日（水）／講師：榎本寿紀（美術家、ワークショップ・エドューケーター）／参加者：42名。



教員美術講座 活動の様子

■担当後記

◆美術館におけるワークショップの黎明期から目黒区美術館を拠点に活動を続けてきた榎本寿紀氏を講師に迎え、体験を中心とした講座を開催した。表現と鑑賞、この二つを美術館という場所を使って未就学児から大人まで年齢を問わず行った美術プログラムの数々を、参加者に実際に体験してもらいながら、そこにある美術教育に活かせるヒントとレシピを紹介してもらった。普段気付かずにいる視点に出会ったり、新しい考え方ができることなどを体験し、参加者も有意義な時間を過ごすことができた。

◆これまで、下半期に開催してきた2回目の教員美術講座の開催を見送った。年々、この時期に出張で学校をあげにくくなっている先生方の状況を見ての判断である。そうした状況を受け、次年度は6月頃の土曜日に第1回目を開催する計画である。

◆参加者の感想(抜粋)：「大変楽しく、私自身の創作意欲が刺激されました。いきなり美術の専門的なことをやるのではなく、遊びの中から色や形との関わり方や、作品の見方を学んでいく方が、子どもにとって実感として何かが残るんだなと思いました。今後の自分の授業への絡め方をよく考え研究したいです。」(中学校教諭)

「“音と美術”に驚きました。美術はどんなジャンルともつながっていると感じました。沢山のヒントが詰まったワークショップでした。」(中学校教諭)

「全身を使ってアートの世界を体験できたと感じました。自分が童心に戻ったように夢中になりました。ビニール袋や布、棒など身近にあるものを、使い方次第で造形遊びにもなり得ることがわかりました。」(小学校教諭)

「盛りだくさん！私にとってはすべてが新鮮でした。次々に出てきて夢中で参加できました。特にビニールや布を使ったワークショップは、すぐにも授業に取り入れたいと思いました。」(特別支援学校教諭) (山水 明)

■その他の学校連携事業

① 学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

・学校団体への対応

美術作品の鑑賞を目的として来館した学校等の園児・児童・生徒・学生を対象に、対話による鑑賞をしながら展示室や館内を案内した。初めて美術館に来館したり、本物の作品にふれたりする子どももいて、美術への関心を高めることができた。利用団体に行ったアンケートの結果も良好である。／学校団体対応数：93校 4,524人。

・授業協力

依頼を受けた学校に赴き、収蔵作品の複製画や鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。授業を通して、美術館や作品、作家への興味をもたせるきっかけとなった。／授業協力数：県内小・中学校28校。

・複製画等の貸し出し

教師が授業で活用できるよう、美術館にある複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。／貸出数：32件。

・職場体験の受け入れ／対応数：7校。

② 県立いずみ高校生徒が北浦和公園入口のプランターの植栽を実習した(10月23日)。



中学校 団体利用の様子



小学校 授業協力の様子

■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要項」に基づき、下記の17大学22名の実習生を受け入れ、全7日間の日程で実施した(桜美林大学、学習院大学、京都造形大学、埼玉大学、実践女子大学、女子美術大学、清泉女子大学、大東文化大学、多摩美術大学、筑波大学、都留文科大学、東京純心女子大学、東京造形大学、日本女子大学、武蔵大学、武蔵野美術大学、明星大学)。

学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を4日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を3日間行った。

■合同実習

講義、実技、講話などを中心に職員、学芸員が講師として指導した。

- ・7月24日(火) 開講式、オリエンテーション、館内外施設見学、学芸の仕事、管理の仕事、美術資料の収集と保存について、MOMASコレクションについて、彫刻メンテナンスについて。
- ・7月25日(水) 彫刻の取り扱い(洗浄)、図書の取り扱い、SMFについて。
- ・7月26日(木) 油彩画の取り扱い、広報と刊行物について、美術館サポーターと教育普及サポートスタッフ・学校連携について、MOMASの扉・大学連携について、日本画の取り扱い。
- ・7月27日(金) これからの美術館について、企画展の概要・実務について、版画の取り扱い。

■個別実習

例年通り、各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が1~2名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は担当学芸員と実習生の相談により決定し、展示作業、発送、資料整理、ワークショップ運営、ワークシート作成などに実際に参加してもらった。原則として8月中に3日間の実習を行った。

■美術館ボランティア

■美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、毎日14時から30分程度、常設展示室で解説ガイドを行っている（展示替え後は除く）。その活動は美術館を代表するひとつの顔となっており、各方面からの取材や関心も高く、来館者もリピーターが増え、美術館を身近なものにしてくれている。平成24年度の登録人数：34名（男性7名、女性27名）。

■研修日程

- 4月21日（土）クロストークシリーズ1「草間彌生展」：オブザーバー 梅津学芸員
- 5月26日（土）館外研修：ヤオコー美術館、川越美術館
- 6月23日（土）館外研修：国立近代美術館「吉川霊華展」
- 7月28日（土）クロストークシリーズ2「30周年特別展に向けて」：オブザーバー 吉岡学芸員
- 8月25日（土）学芸員と語るシリーズ：大久保学芸員
- 9月22日（土）館外研修：画廊まわり
- 10月27日（土）クロストークシリーズ2「大熊コレクション」：オブザーバー 平山学芸員
- 11月24日（土）講話：宮島達男氏
- 12月22日（土）実技研修：木口木版
- 1月26日（土）講話：「日和崎尊夫」 伊豆井学芸員
- 2月23日（土）講話：深井 隆氏
- 3月23日（土）年間総括

■担当後記

◆今年度から第6期生の新しいメンバーが活動を開始した。
◆開館30周年を記念して、2012年7月17日～2013年1月20日の間、解説ガイドに2回以上参加した方へのプレゼント・キャンペーンを実施した。期間中、120人以上の方が対象となり、リピーターの増加につながった。解説ガイドの楽しさを広く伝える機会にもなった。（山水 明）



月例会実技研修「木口木版」の様子

■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、平成24年度の登録人数は100名。

■研修日程

- ・第1回「美術館の概要と子どもの鑑賞活動について」／6月15日（金）、6月17日（日）。
- ・第2回「美術館の目的と収蔵作品、平成24年度の活動内容と運営計画について」／6月22日（金）、6月24日（日）。
- ・ガイドスタッフ特別研修「ガイドスタッフの役割と対話型鑑賞について」／6月29日（金）、7月1日（日）。

■担当後記

◆一昨年度からスタートさせた夏休みの鑑賞ツアーは、昨年度の反省を生かして早めの広報を行うことで多くの参加者を募り、ガイドをするサポート・スタッフの活躍できる場を設定することができた。ガイドにかかわるサポート・スタッフの人数も増え、中学校の美術部を中心に多くの参加者があった。来年度も継続していきたい。

◆埼玉大学や東京家政大学、埼玉学園大学の年度当初のガイダンスに参加し広報を行うことによって、来年度はさらにスタッフ数を確保し、各大学との連携も深めていきたい。

（田中耕次）



サポート・スタッフの研修

■ MOMAS 彫刻ボランティア

埼玉県立近代美術館 (MOMAS) 彫刻ボランティアは、発足から9年目を迎えた。春から秋にかけて北浦和公園内に設置された当館所蔵の彫刻作品の洗浄・ワックスがけを行い、冬期には研修会を開催して、彫刻を通じて芸術に関するさまざまな啓発・発信活動を自立的に行う人材の育成を目指している。

例年どおり、活動は野外彫刻の洗浄を中心とし、恒例の親子対象の洗浄ワークショップ「彫刻あらいぐま参上！」も開催した。本年度は、「彩の国だより」に新規ボランティアの募集を掲載したところ、6名の第7期生を迎えることができた（その後さらに1名を追加で採用）。登録者数：20名。

■活動概要

- ・7月25日(水)／彫刻ボランティア有志による彫刻洗浄の指導／対象：博物館実習生。
- ・8月26日(日)／特別研修会「藝大・台東区・墨田区 GTS観光アートプロジェクトを歩く」／訪問先：東京スカイツリー周辺のパブリックアート。
- ・10月21日(日)／ワークショップ「彫刻あらいぐま、またまたまた×2参上！」／企画・運営：MOMAS彫刻ボランティア。
- ・1月20日(日)／特別研修会「日本における野外彫刻の歴史」／講師：木下直之（東京大学大学院人文社会系研究科教授）。

■担当後記

◆本年度も屋外彫刻の洗浄・ワックスがけのメンテナンスを順調に行った。毎月第3日曜日の活動日は、雨でやむなく洗浄を中止ということがここ数年なく、これはボランティアの皆さんの熱意が、近づく雨雲を吹き飛ばしているからだ、と考えている。

◆恒例の親子参加のワークショップ「彫刻あらいぐま、またまたまた×2参上！」も実施した。近隣にお住まいの親子8組の参加者は、野外彫刻クルーズのクイズから始めて恒例のボテロ《横たわる人物》と橋本真之の《果実の中の木もれ陽》の洗浄とワックスがけを行った。洗浄作業後は講座室に移動して記念写真、修了証をプレゼントした。開催後、毎年洗浄ワークショップに参加くださっていた方がボランティアとして活動して下さることが決定。参加経験者の意見を、今後の活動に有効に活かしていければと思う。

◆夏の研修会では、話題の東京スカイツリーの周辺に設置されたパブリックアートを訪ねた。これらの作品は、東京藝術大学・台東区・墨田区による作品設置の共同プロジェ

クト (GTS観光アートプロジェクト) によって設置されたもので、酷暑のなか、事前に入手したマップを片手に、意見を交わしながら見学して回った。見学終了後は浅草の名店・神谷バーにて「電気ブラン」で暑気払いとなった。

◆1月の研修会では、東京大学大学院の木下直之先生をお招きして日本における屋外彫刻の歴史についてご講義いただいた。屋外に設置された彫刻の男性像についての雑誌連載をまとめた書籍『股間若衆』を上梓されている先生のお話は、屋外彫刻に関係するジェンダーの問題について考える上で大変示唆的で、彫刻ボランティア、当館解説サポーターらが熱心に聞いた。木下先生をお迎えしての研修会からしばらくして、島根県奥出雲町で公園に設置されたミケランジェロのダヴィデ像を巡る騒動が報道され、タイムリーな研修内容となった。(渋谷 拓)



特別研修会「藝大・台東区・墨田区 GTS観光アートプロジェクトを歩く」。台東区花川戸公園内に設置された《石の舟》を見学する。

■ 広聴・広報・刊行物

■ 広聴

1. アンケート調査

企画展、MOMASコレクションともに、毎回会場出口でアンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。

- ・企画展調査：「草間彌生 永遠の永遠の永遠」4月22・29日の2日間。回答数：198／「ウルトラマン・アート！」8月3日から11日間。回答数：302／「日本の70年代 1968-1982」11月1日から10日間。回答数：197／「ベン・シャーン展」12月20日から14日間。回答数：270／「ポール・デルヴォー展」3月12日から12日間。回答数：237。
- ・MOMASコレクション調査：「Ⅰ」6月26日から12日間。回答数：145／「Ⅱ」7月14日から17日間。回答数：285／「Ⅲ」12月4日から14日間。回答数：289／「Ⅳ」1月26日から11日間。回答数：274。
- ・「美術館にひとこえを！」と名づけたアンケート用紙を1階ロビーに常備し、来館者の声を聴いた。質問や要望の内容によっては回答をさしあげている。また、美術館講座やMOMASの扉、ミュージアム・コンサートなどでもアンケートを実施した。

2. その他

- ・当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答をさしあげている。
- ・近隣町内会や商店会の代表者の方たちと地域連絡会議を行い、催しの情報交換をするほか、美術館に対する要望をうかがったり広報協力をお願いする機会としている。

■ 広報

1. 印刷物の配布

- ・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMASコレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社のご協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内にも設置している。その他、美術館講座や学校向けの利用案内などは手づくりのちらしを作成した。
- ・以上の印刷物や美術館広報誌『ソカロ』、『ミュージアム・カレンダー』を、関連機関、協力ポイント、県内の情報拠点やすべての小、中、高、特別支援学校、全国美術館等に配布した。また、新聞、雑誌、テレビ等各種の媒体を活用し、広報に努めた。

2. ホームページ

埼玉県立近代美術館ホームページを7月にリニューアルした。特にトップページはシンプルに企画展・MOMASコレクションを前面に出した特徴のあるレイアウトとなり、情報がわかりやすくなったと好評である。

- ・アドレス：<http://momas.jp/>
- ・情報項目：お知らせ（ニュース、ボランティア、ソカロ）、利用案内（利用案内／交通案内、フロアガイド、美術館概要、一般展示室／講堂）、展覧会（企画展、MOMASコレクション、年間スケジュール、一般展示室）、イベント（企画展関連イベント、MOMASコレクション関連イベント、MOMASの扉、イベントカレンダー、その他のイベント）、教育普及事業（MOMASの扉、学校と美術館、彫刻あらいぐま、現代美術入門、近・現代建築ツアー）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、図書室、北浦和公園・野外彫刻、お得な情報、ファミス、ミュージアムショップ、レストラン・ペペロネ）、今日座れる椅子、子どものプログラム、利用案内／交通案内、ミュージアムショップ、リンク、サイトマップ、お問合せ、English

3. ツイッター

昨年7月よりツイッターを開始し、企画展の情報を中心に1日1回程度、美術館の情報をつぶやいている。また、情報収集の手段として、リスト機能を利用して他館のツイートを、検索機能を利用して当館や企画展、北浦和公園に関する一般の方のツイートを見るために利用している。

- ・アドレス：http://twitter.com/#!/momas_kouhou
- ・ツイート：497、フォロー：3,002、フォロワー：3,078（平成25年3月末日現在）。

4. その他

- ・30周年記念展「日本の70年代 1968-1982」で有料新聞広告を掲出した。また、この広告や「ウルトラマン・アート！」を掲載したフリーペーパーの記事を持参すると入場料が割引となるサービスを行った。
- ・県展開催期間限定で、MOMASコレクション観覧料を半額にする割引サービスを実施した。
- ・「草間彌生」、「ウルトラマン・アート!」、「ポール・デルヴォー展」では、セブンイレブンの店内にあるマルチコピー機で前売券および当日券を購入できるようにした。
- ・美術館周辺の飲食店の協力を得て、企画展半券の持参による特別サービスを実施した。
- ・与野本町ショッピングセンターや県内イオンのデジタルサイネージに、企画展や椅子の情報を提供した。

■担当後記

◆いずれの事業のアンケートでも、内容や雰囲気、職員の対応について96パーセント以上の方が「たいへん良かった」「良かった」と答えてくださり、満足度の高い数字が得られた。(大越久子)

◆ホームページがリニューアルされ、見やすく、使いやすいものとなり良かった。また、ツイッターのフォロワー数が順調に増え、見てくれる人の反応にやりがいを感じている。これからもツイッターを通じて、美術館の親しみやすさをアピールしていきたい。(植村孝一)

■広報記録

- ・館紹介『東京アート&カルチャーさんぽ』2012年4月30日発行
- ・館紹介『美術手帖』2012年5月号
- ・館紹介『おさんぽアートブック2012-2013』2012年5月25日発行
- ・館紹介『さいたまグラフ』2012年7月号
- ・「世界の有名チェアを体感」『大宮浦和walker』2012年7月20日号
- ・館紹介『びあMOOK 日本の美術館240完全案内』2012年8月30日発行
- ・館紹介『モテコ』2012年9月号
- ・『本の美術館240完全案内』2012年9月30日発行
- ・「近現代の優れたアートに出会う埼玉県立近代美術館」『さいたま本』2012年10月10日発行
- ・「県立近代美術館だより」『ぱびるす』2012年11月号
- ・「豊かな緑に囲まれた美術館で芸術に親しむ 埼玉県立近代美術館」『マキアライフ』2012年11月号
- ・埼玉県民の日告知『三郷地域新聞』2012年11月2日号
- ・館紹介『散歩の達人 超・埼玉』2012年11月15日発行
- ・「さきたま抄」(カプセル紹介)『埼玉新聞』2012年11月21日
- ・「ブラたま散歩」『さいたま朝日』2012年11月25日号
- ・「県立近代美術館だより」『ぱびるす』2012年12月号
- ・「海外の巨匠から日本の現代作家までの作品がずらり」『埼玉Ribbon』2012年冬号
- ・「館長インタビュー 蓄積と伝統」『新美術新聞』2013年1月1・11日号
- ・「特集 さいたま市」『ゆうふおりあ』2013年3月5日号
- ・木村健二「県文化財新たに4件」『埼玉新聞』2013年3月6日
- ・砂生敏一「入館者70万人目は所沢の入山さん」『埼玉新聞』2013年3月22日

■刊行物

『たまもの 埼玉県立近代美術館のコレクションより』、平成23年度版年報、平成24年度版要覧、平成24年度版ミュージアム・カレンダー、館広報紙『ソカロ』を刊行した。年報と要覧はホームページでも閲覧できる。

■ソカロ

館広報紙『ソカロ』(A3版2面、カラー印刷)を、2か月毎(年6回、各15,000部)に編集・発行・配布した。

■2012年6-7月号(#60 5月20日発行)

- ・デザイン画から映像へへ怪獣に「アウラ」を吹き込む創造のプロセス 企画展「ウルトラマン・アート!時代と創造-ウルトラマン&ウルトラセブン」(渋谷拓)
- ・シールを貼って参加しよう!みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10(渋谷拓)
- ・開館30周年・歴史と思い出のカケラ①(伊豆井秀一、平山都、聞き手:吉岡知子)
- ・みんなでつくるNew MOMAS(小野寺茜)
- ・ミュージアムショップからのおすすめ商品「グラスマーカー」(濱田幸代)
- ・MUSEUM NEWS 6-7



■2012年8-9月号(#61 7月20日発行)

- ・70年代はこんなにも面白い 開館30周年記念展「日本の70年代 1968-1982」(前山裕司)
- ・開館30周年・歴史と思い出のカケラ②(大久保静雄、中村誠、聞き手:吉岡知子)
- ・美術館図書室のご紹介(菱村宏子)
- ・ミュージアムショップからのおすすめ商品「コマ」(大西あづさ)
- ・MUSEUM NEWS 8-9



■2012年10-11月号 (#62 9月20日発行)

- ・埼玉県立近代美術館の軌跡 1982-2012
- ・「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」結果発表です！（渋谷拓）
- ・美術展のデザインはおもしろい（大溝裕、聞き手：大越久子）
- ・ミュージアムショップからのおすすめ商品「クレヨン」（宮前いづみ）
- ・MUSEUM NEWS 10-11



■2012年12-2013年1月号 (#63 11月20日発行)

- ・丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展一線の魔術師ーベン・シャーンゆかりの地を訪ねて（吉岡知子）
- ・コレクターと美術館（平山都）
- ・開館30周年・歴史と思い出のカケラ③（前山裕司、聞き手：吉岡知子）
- ・音で奏でる美術館（田中耕次）
- ・ミュージアムショップからのおすすめ商品「クリア・フェイル」（吉田冴子）
- ・MUSEUM NEWS 12-1



■2013年2-3月号 (#64 1月20日発行)

- ・デルヴォーは何を夢見る？ 企画展「ポール・デルヴォー 夢をめぐる旅」（平野到）
- ・日和崎尊夫の闇（伊豆井秀一）
- ・開館30周年・歴史と思い出のカケラ④（大越久子、松永康、聞き手：吉岡知子）
- ・アトリエを飛び出して、つなぐ（今井伸治）
- ・ミュージアムショップからのおすすめ商品「刺繍」（加藤真澄）
- ・MUSEUM NEWS 2-3



■2013年4-5月号 (#65 3月20日発行)

- ・企画展「たまもの 埼玉県立近代美術館大コレクション展」（建畠哲、聞き手：大越久子）
- ・「たまもの」展の歩き方
- ・「デザイン」は複雑な欲望（加藤賢策、聞き手：梅津元）
- ・ミュージアムショップからのおすすめ商品「草木染め」（外山晶子）
- ・MUSEUM NEWS 4-5



■図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で、必要な基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

■蔵書冊数一覧

- ・一般書

	分類	平成23年度まで	平成24年度	計
購入	A 美術総記	2,351	9	2,360
	B 日本美術	2,456	25	2,481
	C 西洋美術	3,068	10	3,078
	D 東洋 その他の美術	183	0	183
	E 図録	820	3	823
	F 埼玉資料	237	0	237
	G 関係諸学	762	2	764
	小計	9,877	49	9,926
受贈 (一般図書・他館図録)	27,684	763	28,447	
合計	37,561	812	38,373	

- ・美術雑誌(バックナンバーを除く)
購入 25タイトル(うち洋雑誌4タイトル)
受贈 11タイトル
計 36タイトル

- ・開室日数 301日

- ・利用者数 3,915人

- ・レファレンス受付件数 144件

■椅子の美術館

約60種類所蔵している内外のグッド・デザインの椅子やアートな椅子を、入館者に自由に座って楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、常時20～30脚程度を館内各所に配置しており、ホームページの「今日座れる椅子」で紹介している。

■ハイビジョン・コーナー

1階エントランス・ホールの休憩コーナーでは、65インチの大画面により、19世紀以降の優れた美術作品等を、高精細な映像と音声で紹介した。

■トピックス

■トピック [1]

みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10

開館30周年を記念して、1階ギャラリーに収蔵品約120点の写真パネルを掲示し、シールによる作品の人気投票を行った。1階総合受付で投票希望者に投票用のシールを1人あたり5枚配布、自由配分で投票とした。集計は「小中学生以下」、「大高生・一般」、「職員」の3カテゴリーで行い、各カテゴリーの順位と総合順位についてMOMASコレクション第3期で発表した。関連事業としては、(1) 上位作品に想を得た創作ダンスのイベント、(2) 総合順位第1位となった作品の作家による記念トーク、を実施した。

なお、投票用写真パネルの設置と関連事業(1)については、文化庁「平成24年度 地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業(ミュージアム活性化支援事業)」の助成を受けて実施した。

■総合順位と得票数(上位25位まで)

順位	作者名	作品名	ジャンル	票数
1	西野康造	風の中で	彫刻	1167
2	深井 隆	逃れゆく思念-時の曳航-	彫刻	1005
3	宮島達男	Number of Time in Coin-Locker	彫刻他	983
4	上田 薫	ジェリーにスプーン C	油彩	801
5	C.ピサロ	エラニーの牛を追う娘	油彩	752
6	小茂田青樹	春の夜	日本画	724
7	P.ピカソ	静物	油彩	575
8	今村紫紅	龍虎	日本画	573
9	C.モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	油彩	564
10	重村三雄	階段	彫刻	498
11	上村次敏	サン・マルコ広場	水彩	472
12	渡邊武夫	堀割のある風景	油彩	441
13	黒川紀章	中銀カプセルタワービル住宅カプセル	建築	415
14	野村 仁	太陽 7月	写真	308
15	M.ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルの サクレクール寺院	油彩	283
16	土田麦僊	甜瓜図	日本画	274
16	M.シャガール	二つの花束	油彩	274
18	森村泰昌	だぶらかし(ポートレートD)	写真	267
19	G.マンズー	枢機卿	彫刻	264
20	田中米吉	ドッキング(表面) No.86-1985	彫刻	246
21	橋本真之	果実の中の木もれ陽	彫刻	238
22	F.ボテロ	横たわる人物	彫刻	219
23	木村直道	シンバルを叩く男 バックミラー楽団	彫刻	217
24	キスリング	赤いテーブルの上の果実	油彩	212
25	E.グレコ	ゆあみ(大) No.7	彫刻	210

※得票数はシールの枚数+コメント用紙での作品タイトル記入数の合計。

■関連事業

- ・(1) コレオグラファーの目・スペシャル! vol.10 「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」を踊る／主催：Saitama Art Platform形成準備事業実行委員会／企画協力：埼玉県舞踊協会「コレオグラファーの目」実行委員会／11月10日(土)15時~16時／美術館・北浦和公園内の各所／無料(但し展示室内での見学には要観覧料)／参加者：206名。
- ・(2) みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10記念アーティスト・トーク「西野康造《風の中で》を語る」／講師：西野康造(彫刻家)／11月24日(土)13時~14時／美術館3階講座室および音楽噴水前／無料／参加者：25名。



第1位 西野康造《風の中で》



第2位 深井隆《逃れゆく思念-時の曳航-》



第3位 宮島達男《Number of Time in Coin-Locker》



『コレオグラファーの目「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」を踊る』より、北浦和公園でのフィナーレ



自作の前で話す西野康造氏（記念アーティスト・トーク）

■担当後記

◆今年度は、東京国立近代美術館などが収蔵品に関して同様の人気投票を行っていたが、当館の特色はウェブ投票を行わず、掲示された作品写真を前にシールを貼るといったものだった。カラフルなシール5枚を自由配分で貼るといった投票方法は、各作品の得票状況が感覚的に伝わってくるため臨場感があり、大変好評だった。投票期間が夏休みと重なったこともあり、友人や家族連れで楽しみながら投票する姿が見られた。

◆いわゆる「泰西名画」が上位を占めるという予想もあったが、集計したところ、屋外彫刻や館内無料ゾーンに恒久的に展示されている作品が高い人気を得ることとなった。第1位は、北浦和公園の音楽噴水内という絶好のロケーションに設置された、親しみやすいモチーフの作品である、西野康造氏の《風の中で》となった。

◆埼玉県舞踊協会の企画協力を受けて開催した『コレオグラファーの目「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」を踊る』では、常設展示室内・エントランス周辺・地階センターホール・音楽噴水周辺などで、7名のコレオグラファー（振付師）による創作ダンスが披露された。ダ

ンスはベスト10上位の作品にインスパイアされたもので、見学者は造形作品と舞踊による「競演」に熱心に見入っていた。館内外数ヶ所でのダンスパフォーマンスを効率よく見てもらうため、2つのモデルコースを設定し引率も行った。リハーサル時には風が強く、《風の中で》をモチーフにした屋外でのダンスは天候などが懸念されたが、イベント当日は風も収まり、ダンスは大成功となりギャラリーから大きな拍手が送られた。

◆総合第1位となった《風の中で》の作者・彫刻家の西野康造氏をお招きして、記念アーティスト・トークを行った。《風の中で》の制作経緯やキャリアのなかでの位置づけ、制作プロセスなどといった興味深い話をお聞きしたほか、上海ビエンナーレへの招待出品など、近年の制作活動などについてもうかがった。講座室での講義の後、噴水内の作品の前に移動、サプライズとして美術館サポーターによるサクソフォンとエレキギターのデュオ「ボナペティ」によるジャズの生演奏が行われた。晩秋の高い空に「Fly me to the moon」が響き渡り、「ベスト10」関連のイベントを締めくくった。（渋谷 拓）

■トピック [2] 『たまもの 埼玉県立近代美術館のコレクションより』

開館30周年を記念し、『たまもの 埼玉県立近代美術館のコレクションより』を刊行した。

規格：29.8×22.5×3.0cm

編集：埼玉県立近代美術館（担当：梅津元、大久保静雄、大越久子、平山都）

翻訳：小川紀久子

デザイン：加藤賢策（株式会社 東京ピストル）

発行：埼玉県立近代美術館

内容：【テキスト】建畠哲「序 美術館とコレクション」、中村誠「埼玉県立近代美術館のコレクションの概要について」 【図版・解説】「I 西洋の近代美術」、「II 戦後の美術（海外）」、「III 埼玉と日本の近代美術」、「IV 戦後の美術（日本）」、「V 公園と美術館」 【コラム】COLUMN01「モネ《積みわら》をめぐって」（中村誠）、COLUMN02「エコール・ド・パリ―芸術の都〈パリ〉に集まった画家たち」（渋谷拓）、COLUMN03「大熊家コレクション―話題を呼んだ日本画の寄贈」（平山都）、COLUMN04「ヴェヌヴェルの古城と斎藤豊作」（大越久子）、COLUMN05「倉田白羊と弟次郎」（吉岡知子）、COLUMN06「セザンヌから浴衣がけの絵画へ」（平山都）、COLUMN07「瑛九詣で」（大久保静雄）、COLUMN08「コレクター武田光司氏の英断」（平山都）、COLUMN09「須田剋太と〈具体〉」（伊豆井秀一）、COLUMN10「もの派」（平野到）、COLUMN11「フォトグラム―光と時間の織りなす世界」（梅津元）、COLUMN12「埼玉県立近代美術館と建築家・黒川紀章」（前山裕司） 【索引】

価格：2,500円

■担当後記

◆『埼玉県立近代美術館コレクション選100』を制作して15年が経過し、新たな収蔵品も増えたことから、開館30周年を契機に充実した内容を期した。タイトルは常識的なものとなることを避け、「たまもの」としたが、賜物とさいたまものを掛けた命名でおもしろい、と好評だった。

◆構成にあたっては、各ジャンルから代表的な作品を網羅して掲載するべく、5つの章を設け、120点の作品を厳選して掲載した。各作品には簡潔な作家略歴と作品解説を和文・英文で付し、12本のコラムも収録した。

◆作家解説・作品解説は、平成14年度から常設展示室で配布している「解説カード」の原稿をベースに編集した。す

でに当館に在籍していらっしゃらない旧学芸スタッフの手による原稿も含め、このコレクション・カタログは、日常的な学芸業務の「たまもの」でもある。

◆ページレイアウトにあたっては、作品図版を集中して見ることができるように同一ページに作品図版と解説文字が並列しない案とした。デザイナーの加藤賢策氏は、この意をくんで、別紙による解説ページを図版と図版の間に差し込むという斬新なデザインを提案された。

◆加藤氏のデザイン案はこれまでに例を見ない画期的なものであったが、製本にあたって手間がかかること、解説ページと本文の紙の寸法が異なるため段差ができることなど、印刷製本上難しい点があり、開館30周年を迎える11月3日刊行の予定が、大幅に遅れてしまった。

◆作品図版を集中して見られるという今回の編集のコンセプトを活かすべく、作品図版の刷り上がりの精度に一番気を遣い出張校正も行ったが、油彩画と日本画作品はなかなか難しかった。
（平山都／梅津元）



表紙

■トピック [3]

Saitama Art Platform 形成準備事業 平成24年度 文化庁 地域の文化遺産を 活かした観光振興・地域活性化事業(ミュージアム活性化支援事業)

※事業の詳細は、同事業記録集『ひろがる』(A4判24P)
およびホームページ<http://www.artplatform.jp>を参照。

文化庁のモデル事業・支援事業として開催してきたこの事業も、今年で5年目となった。事業名や枠組みは少しずつ変わってきたが、各回とも、入間市博物館、うらわ美術館、川口市立アートギャラリー、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館という県内の公立ミュージアム5館がゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁の支援を得て実施してきた。

この事業は、各ミュージアム館内での展示やワークショップ、シンポジウムなどにとどまらず、館庭や公園、街路や商店街など、暮らしに身近な場所でさまざまなアートプログラムを展開し、ミュージアムと地域を結ぶ役割を果たしてきた。ミュージアムを起点にこうしたアートのアウトリーチ活動を、地域の人材を活用して展開してきたことが特色のひとつといえよう。

この事業の多彩なアートプログラムの企画・運営を担ってきたのはSMF(Saitama Muse Forum)の方々だ。埼玉県立近代美術館のミッションに共鳴し、美術、音楽、舞踊、建築、文学など、さまざまな分野で活動する方々が集い、「身近な場所でアートを享受し、支援し、再創造するプラットフォームをめざします」を旗印に、各ミュージアムのスタッフとともにこの事業を支えてくださっている。これまでの事業を通してたくさんの出会いと交流が生まれ、ミュージアムをキーステーションとしながらミュージアムに限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えたコラボレーションがSMFを母胎として生まれてきている。

継続的にご支援いただき貴重な機会を提供して下さった文化庁をはじめ、惜しみないご協力をいただいた各ミュージアム、大学、団体各位、多くのみなさま方に、心から感謝申し上げます、敬意を表したい。

文化庁のモデル事業、補助事業として5年間継続してきたこの事業も一つの節目を迎え、来年度から、以下のような趣意書に基づきメンバーシップ制の会として再出発することとなった。

SMFは、既成のジャンルにとらわれない自由な視点からさまざまなアートプログラムを企画して、アートをめぐつ

て多くの人がつながっていくためのプラットフォームです。SMFは、埼玉県立近代美術館に事務局を置き、埼玉県内各地のミュージアムをキーステーションとし、美術、建築、音楽、文学、ダンス、パフォーマンス、地域活動など、さまざまな領域のメンバーが活動します。

SMFは、さまざまな生き方をしてきた人が集い、触発しあいながら、まだ見たことも聴いたことも経験したこともないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになること、これまでとモノゴトが違ってみえるようになり、生きることが豊かになることを目指します。

ミュージアムと地域の協働のモデルとなるような開かれたプラットフォームの形成に向けて、引き続きあたたかいご理解、ご支援をお願いしたい。

■事業名： Saitama Art Platform 形成準備事業

■主催：同上実行委員会

■事業期間：2012年7月1日～2013年3月31日

■Saitama Art Platform 形成準備事業 委員名簿

- ・実行委員会 委員長：建畠哲(埼玉県立近代美術館館長)
- ・実行委員：今宮照久(テレビ埼玉ミュージック社長)、黒澤一雄(入間市博物館ALIT 館長)、桑代百合子(NHKさいたま放送局放送部長)、佐藤達夫(東京電機大学理工学部教授・学部長)、佐藤達哉(埼玉新聞社文化くらし部部長)、清水隆(埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課長)、高橋幸次(日本大学芸術学部教授)、鶴谷真治(NHKさいたま放送局放送部長)、林秀平(埼玉県県民生活部文化振興課長)、藤間文隆(うらわ美術館館長)、本田貴侶(埼玉大学教育学部名誉教授)、柳沢操(川越市立美術館館長)、山下浩文(川口市立アートギャラリーATLIA 館長)
- ・運営委員：青山恭之(建築家/うらわ建築塾代表)、石上城行(埼玉大学教育学部美術教育講座准教授)、大越久子(埼玉県立近代美術館学芸主幹)、川崎久美(川口市立アートギャラリーATLIA美術専門補助員)、工藤宏(入間市博物館ALIT学芸担当副参事)、柴山拓郎(作曲家/東京電機大学理工学部講師)、高橋博夫(文芸誌『孤帆』『梓』『第3次同時代』 同人)、高浜均(埼玉県立大宮光陵高等学校教諭)、田島均(うらわ美術館指導主事)、田中晃(川越市立美術館主査)、登芳久(埼玉文芸家集団監事、日本文芸家協会、日本現代詩人会)、藤井香(埼玉県舞踊協会理事)、三浦清史(日本建築家協会埼玉地域会代表)、山尾聖子(杉野服飾大学フランス語講師)、渡辺恭伸(須田刻太研究会理事)

- ・協力委員：赤木恵理（埼玉県立近代美術館サポーター）、浅見俊哉（アーティスト/KAPL代表）、江積志織（舞踊家/彩の国創作舞踊団、ダンスユニット転々）、奥野由利（画家/CAF.N協会 事務局）、小野寺茜（アートコーディネーター）、小野寺優元（国際野外の表現展オーガナイザー）、小原恵利子（ART FANS 代表/有限会社アイ工房）、金子良治（Kawaguchi Art Factory代表）、木村昭司（デザイナー/デザイン工房きら代表）、佐々木治子（舞踊家/彩の国創作舞踊団、ダンスユニット転々）、草野律子（建築家/アルテクト事務所/東洋大学ライブデザイン学部講師）、齋藤はるか（大学生）、佐藤英里子（映像作家/大学講師）、佐野哲史（建築家/ヒアシンズハウスの会事務局）、鈴木真里子（まちアートプロジェクト代表/美術家/美術教師）、近田明奈（美術講師）、中村元（写真家）、中村隆（デザイナー/有限会社アームズ代表）、中村隆行（コンピューター音楽家）、野本翔平（bug-depaysé/パフォーマンズ）、増井真理子（masui.R.D.R.主宰）、松元日奈子（舞踊家/彩の国創作舞踊団、ダンスユニット転々）
- ・アドバイザー：佐藤時啓（東京芸術大学准教授/美術家）、根岸和弘（美術家）、松本秋則（不思議美術家）、三友周太（Ray Projects/美術家）
- ・事務局（埼玉県立近代美術館内）：事務局長 小林貞雄（埼玉県立近代美術館副館長）、事務局員：町田智、中村誠、小野圭弘、佐藤嘉章、小野寺茜

■事業の概要

1. 「SMFアート楽座」事業

- ①入間では、暑さを吹き飛ばす「夜のアリット 光のフェスタ」(8月1日～3日)が行われた。地元ゆかりの若い美術家や音楽家、ダンサーを講師に招き、隣接する東野高等学校の美術部の協力を得ながら、子どもたちとアートなお化け屋敷をつくって楽しむ、ワークショップ&フェスティバルだ。夜のミュージアムに予想を超えた子どもたちの創造パワーが炸裂する一夜となった(参加者：計500名)。
- ②浦和では、継続してきた多世代交流ワークショップの第4弾「におい色パズル」(9月9日。参加者：計43名)。今回はおいから発想される色やかたちをパズルのようにつないで立体的な展開を楽しんだ。また夏休み終盤に開かれた「ひとのかたちカラフル人形をつくろう」(8月25日・26日。参加者：計27名)は、「アートフェスティバルうらわ2012」とリンクし、参加者が制作した人形とともにまちをパレードしフェスタのステージに登場するなど、商店街や街との交流を深める契機となった。

③川口では、アトリアの名物展となってきた「川口の匠 vol.2」にあわせて、盆栽名人の指導によるミニ盆栽づくりのワークショップ(10月13日。参加者：12名)や「アート作品から見る盆栽の魅力」と題した鑑賞講座(10月21日。参加者：14名)、禅寺の森に分け入り自然を感じながら樹木をフロッタージュする「ドロイング散歩」(10月7日。参加者：13名)を行った。川口の昔を感じさせる銭湯を訪ね歩き昭和文化を振り返る「銭湯のある街歩き」の続編も開催され好評だった(11月3・17日。参加者：計52名)。

④川越では、手づくりのアートフラッグでストリートを彩る「川越ミュージアムロード」プロジェクトを昨年に続いて展開し、市立美術館と旧川越織物市場を結ぶ展示を行った(11月3日～30日)。フラッグの制作・展示を通してさまざまな方々の交流・協力が生まれてきた。また織物市場でのクラフト市は好天にも恵まれ大勢の来場者でにぎわった(11月24・25日。来場者：計約2,000名)。この歴史的建造物の活用への一石となることが期待される。

⑤北浦和では、埼玉県立近代美術館の開館30周年と連動し、多彩なプログラムが組まれた。2回にわたって開かれた「MOMASの扉スペシャル」(8月11日・11月3日。参加者：計60名)では、空間を体で感じたり、自由な発想で音と美術作品をつないだりして、新たな鑑賞を試みた。「コレオグラファーの目・スペシャル！」(11月10日。来場者：206名)では、夏に来場者の人気投票で選ばれた作品を中心に、創作ダンスの新作がつけられ、展示室や館内外の各所を回りながら、美術とダンスとの新鮮な出会いを楽しんだ。「SMF ああっと！ファクトリー 共鳴する空間 - 詩・美術・建築・音楽・ダンス -」(10月31日～11月4日。来場者：計735名)は、さまざまなジャンルの人材が集うプラットフォームとしてのSMFの性格をうまく反映したプログラムとなった。ヒアシンズハウスの会による詩人・立原道造のパステル画や建築模型の展示、グルグルハウスの美術家9名が立原の詩に挑んだ美術作品を展示したコーナー、多彩なSMFのメンバーが「部屋を着る/音を灯す/おどりを編む」と題して、事前の打ち合わせやワークショップを積み上げて、子どもたちと創造した段ボールの都市・音の時空・ダンス。フィナーレの「かいじゅう・街に現れる！」では子どもたちの笑顔が弾けた。

北浦和西口銀座商店街との連携プログラムでは、昨年の回遊美術館Ⅱで生まれた商店街のマスコットキャラクター「きたうらワン」の商店街デビューと今後の成長・活躍を祈って、「きたうらワンと探そう！街のス

テキ」(10月28日。参加者：6名)、「きたうらワンとアートパレード」(11月18日。参加者：16名)の二つのワークショップを開催した。

こうしたプログラムは、単にミュージアムの地域へのアウトリーチ活動にとどまらず、アートの視点から地域の再発見を促したり、各地域の意欲的な人材や面白スポットを発掘し、つながる場を提供したりと、さまざまな効果が認められる。またプログラムを通じて知り合った同士が、交流を深め新たにコラボレーションをはじめするなど、ひろがりを見せている。

2. 「SMFアートバンク」事業

- ①SMFでは、さまざまなアート関係者の出会いや交流、人材や場所などの情報の蓄積を促すプログラムを「アートバンク」と題して行ってきた。「アート散歩」や「アートマップ」作成もその一つ。今年度は、行田、鴻巣で「アート散歩」を実施し(5月19日・10月20日。参加者計：48名)、県北地域でアートに関わる活動を行っている方や今後の活性化を試行する方々と出会う機会とした。
- ②「アート寺子屋」は今年度から新たに始まったプログラム。専門家を招いてじっくりと話を聴いたり、刺激を与えあったりする、カジュアルながら大切な相互学習の場をめざし、「寺小屋」と名付けられた。幕開けは「アートプラットフォーム形成のためのメタデザイン」と題し、現代音楽、建築、アートプロジェクトなど、各分野の一线で活躍する方々を招き「逸脱する芸術表現」、「仮設の知恵」、「創造性と社会性」の3回シリーズで開催され、熱心な受講者も交えて貴重な場となった(9月29日・11月25日・1月12日。参加者：計137名)。
- ③埼玉県内を中心にユニークで意欲的なアート活動を展開している個人・団体が集い活動紹介や率直な意見交換を行い、新たな協働の契機とする「ラウンドテーブル」(12月15日。参加者：26名)も4回目を迎えた。アトリエでの制作にとどまらず、都市空間や自然の中での展開を図り、社会に対してアートの可能性を開示する試みを行っている美術家を中心に6組の活動発表と意見交換を行った。またラウンドテーブル参加者を含めてこれまでSMFの活動に関わっていただいた方々に、それぞれのアートの初夢を発表していただく「さんなすび展」を新春の美術館で開催(1月8日～13日。来場者：計498名)、提案されたプランを共有・展開し、実現の可能性を探る「アートプロジェクトができるまで」を「アート寺子屋」として実施し(1月13・27日。参加者：計33名)、出展者・参加者のさまざまな接点を生み出すことで、協働に向けての課題を探った。

④「アートバンク」事業では、広報・発信や情報蓄積・整備の役割も重要だ。今年度もニュース紙「SMF PRESS」を、号外を含めて計6回発行した。ホームページも一新し、いっそうの充実を図った。2009～11年の活動紹介の動画もインデックスを付して40本以上、見やすく整理した。「SMFでつながる」のページもしだいに充実がはかられてきた。Face Bookやtwitterのページとのリンクも貼られ、SMFへの関心もじわじわと広がってきた。

■広報・報道記事

- ・小野寺茜「みんなで作るNew MOMAS - 〈あなたにとってミュージアムとは〉の回答から」『ソカロ』2012年6-7月号
- ・渋谷拓「シールを貼って参加しよう！みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10」『ソカロ』2012年6-7月号
- ・渋谷拓「みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10 結果発表です！」『ソカロ』2012年10-11月号
- ・三宅芳樹「1位は彫刻〈風の中で〉 県立近代美術館で収蔵品人気投票 開館30周年きょうから常設展」『埼玉新聞』2012年10月20日
- ・米山士郎「地域の文化を再発見 鴻巣でアート散歩」『埼玉新聞』2012年10月24日
- ・前田朋子「1位彫刻〈風の中で〉 立体作品人気集める 県立近代美術館でベスト10展」『東京新聞』2012年10月26日
- ・加藤種男「多彩なアート発信で地域再発見そして再創造へ」『SAITAMAアートGUIDE 100 x α』2012年10月、埼玉県県民生活部文化振興課
- ・「SMFああとファクトリー～共鳴する空間～」『日本経済新聞』2012年11月1日
- ・「Saitama Art Platform 形成準備事業〈ひろがる〉SMF2012」『地域創造レター』2012年12月号
- ・田中耕次「音で奏でる美術館」『ソカロ』2012年12月-2013年1月号
- ・今井伸治「アトリエを飛び出して、つなぐ」『ソカロ』2013年2-3月号



「SMFああと！ファクトリー」より、ダンスワークショップ
「かいじゅう・街に現れる！」のひとこま



「きたうらワンとアートパレード」のひとこま

■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファミス(fam.s=friends of art museum, saitama)。

■会員数

757件(人)(平成25年3月31日現在)。

内訳：一般会員356人、シルバー会員187人、学生会員12人、家族会員134家族(489人)、賛助会員(個人)24人、賛助会員(法人)21団体、特別賛助会員23団体。

■活動内容

1. 企画委員会

① ファミス美術館見学会

「秋の京都 伝統文化再発見の旅」／2012年10月16日(火)～10月18日(木)／見学地：伝統織物「龍村光峯」工房、東福寺、真珠庵、清水焼陶芸家・宮永東山氏工房、飛雲閣、帯問屋「蒼田屋源兵衛」／参加者：32名(うち会員30名)。

② ファミスコンサート2013「木村俊介コンサート『音象』&スペシャルゲスト/中村元(寿獅子舞)」／2013年3月23日(土)14時30分～16時30分／参加者：71名(うち会員53名)。

2. 広報委員会

① 『ファミス通信』第29号の発行(5月)。

② 『ファミス通信』第30号の発行(9月)。

③ 『ファミス通信』第30号別紙の発行(11月)。

3. ミュージアム・ショップ委員会

① オータムセール開催／11月1日(木)～11月30日(金)。

② ショップ・サポートの実施。

③ 他美術館ミュージアム・ショップの視察。

④ オリジナル商品(クリアファイル)の開発、商品化。

4. 事務局

① 『平成23年度フレンド年報』の発行(7月)。

② 企画展「日本の70年代 1968-1982」レセプション&パーティー・内覧会の開催。参加者：60名(うち会員51名)。

5. 合同委員会

① ファミス入会キャンペーンの実施／5月1日(火)～5月31日(木)。

■担当後記

◆今年度も美術館見学会、コンサート等の事業開催により美術館活動に貢献することができた。

◆3委員会合同で入会キャンペーンを行い、会員増員に繋がった。

◆長きにわたりファミスの運営にご尽力いただいた役員、丹下尤子氏が2012年9月9日に逝去された。謹んでご冥福をお祈りする。
(事務局・野口恵子)

■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

平成25年3月31日現在

氏名	現職等	備考
清水 武司	秩父地域利用者 写真家	会長
内田 和子	秩父地域利用者	副会長
増野 武夫	県北地域利用者	顧問
石川 信子	県南地域利用者	ミュージアム・ショップ運営委員長
石原 猛男	県西地域利用者 松田産業(株) 監査役	
小林 真	秩父地域利用者 デザイナー (株)コア 代表	広報委員
大久保敏三	県西地域利用者 (株)丸広百貨店 代表取締役社長	
太田せつ子	県東地域利用者 第一生命保険(株) 教育部顧問	
滝沢 布沙	県北地域利用者 染色家	
戸所 邦弘	県南地域利用者 埼玉りそな銀行 代表取締役副社長	
福島 勤	県南地域利用者 (株)テレビ埼玉 専務取締役	
丸山 晃	県西地域利用者 埼玉新聞社 取締役会長	
水野 晶子	県南地域利用者	広報委員 ミュージアム・ショップ運営委員
竹内 悦子	県南地域利用者	広報委員長
小口 良三	県南地域利用者	監事
田沼 利将	県南地域利用者 (財)長島記念財団 常務理事	監事

■貸館事業

当館には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室（大小4室）が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。また、講演会や集会などの会場として講堂を貸し出している。

平成24年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

一般展示室

- ・利用単位：1週間（月曜日の午後1時→翌週月曜日正午）。
連続の場合は最長3週間。
- ・使用料：一般展示室 1 227,850円（1週間につき）
2 88,200円（ " ）
3 51,450円（ " ）
4 29,400円（ " ）

講堂

- ・利用単位：1時間
- ・使用料：1時間あたり2,100円

■一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 H24年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	U展	4月3日	4月8日	6	1~4	洋画・ドローイング・版画・彫刻	185	1,198	199
2	山の山の花2人展-刺しゅうときり絵のコラボレーション-	4月10日	4月15日	6	2	刺しゅう・きり絵	74	740	123
3	井山紋文個展	4月10日	4月15日	6	3	油彩・ミクストメディア	9	433	72
4	第15回渓水会展	4月10日	4月15日	6	4	日本画・洋画・水墨画ほか	69	725	120
5	第28回さいたま閨秀100選展	4月17日	4月22日	6	1	書	90	1,695	282
6	第5回フォト・トルトゥーガ写真展	4月17日	4月22日	6	2	写真	120	1,243	207
7	Design Hert 2012 at 埼玉県立近代美術館	4月17日	4月22日	6	3	工芸・ドローイングほか	16	859	143
8	第8回彩・ポタニカルアート展（水彩）	4月17日	4月22日	6	4	水彩	46	1,320	220
9	第8回群炎埼玉支部展	4月24日	4月29日	6	2	油彩・工芸・写真	41	1,351	225
10	第29回自然写真の会「彩」写真展	4月24日	4月29日	6	3	写真	66	1,427	237
11	第36回埼玉女流工芸展	4月26日	4月29日	4	1・4	工芸	220	4,851	1,212
12	第16回埼玉二科展	5月1日	5月6日	6	1~4	油彩・彫刻・デザイン	150	3,570	595
13	第62回埼玉県美術展覧会（県展）	5月29日	6月20日	20	1~4	日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真	1,650	27,313	1,365
14	第31回埼玉県高等学校写真連盟写真展	6月27日	7月1日	5	2~4	写真	736	1,127	225
15	第11回埼玉独立展	7月3日	7月8日	6	1	水彩・油彩・アクリルほか	95	705	117
16	麦倉忠彦彫刻展	7月3日	7月8日	6	2	彫刻	30	704	117
17	第3回A.L.アーティストインレジデンス展-アメリカ現代美術	7月3日	7月8日	6	3	油彩・彫刻ほか	40	501	83
18	PART.13「自然讃歌」チロリン村フォトクラブ写真展	7月3日	7月8日	6	4	写真	40	696	116
19	第39回埼玉二紀展	7月10日	7月15日	6	1~4	油彩・彫刻	133	1,263	210
20	第5回埼玉モダンアート展	7月17日	7月22日	6	2・3	水彩・油彩・版画・彫刻	30	736	122
21	詫間正秋油絵展	7月17日	7月22日	6	4	油彩	40	641	106
22	第25回白の会洋画展	7月24日	7月29日	6	3	油彩	28	954	159
23	14th BANSEI EXHIBITION	7月24日	7月29日	6	4	インスタレーション	30	849	141
24	零のゼロ2012	7月31日	8月5日	6	1	絵画・版画・立体ほか	118	1,389	231
25	第19回基の会展	7月31日	8月6日	6	2	油彩・アクリル	20	1,135	189
26	第12回横瀬和弘展	7月31日	8月7日	6	3	油彩	31	706	117
27	第4回橡の会展	7月31日	8月8日	6	4	日本画・油彩・水彩	32	1,001	166
28	第22回旺玄会埼玉支部展	8月7日	8月12日	6	2~4	水彩・油彩・日本画・版画	56	1,088	181
29	第46回埼玉平和美術展	8月14日	8月19日	6	1~4	絵画・彫刻・工芸ほか	366	2,729	454

No.	展 覧 会 名	開催期間 H24年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
30	第8回水彩連盟埼玉西支部展	8月21日	8月26日	6	1	水彩	58	1,527	254
31	第2回晨翔会書展	8月21日	8月26日	6	2	書	101	1,104	184
32	南太平洋の風	8月21日	8月26日	6	4	写真	30	1,457	242
33	第26回創立60周年記念墨芳展	8月28日	9月2日	5	1・2	書	159	1,015	203
34	ひととひと個展	8月28日	9月2日	6	4	油彩	39	1,086	181
35	ヨシズミトシオ展”是相”創立40周年記念	8月28日	9月9日	12	3	油彩・版画ほか	25	782	65
36	第29回埼玉写真サロン	9月4日	9月9日	6	1	写真	473	1,453	242
37	第16回西遊会美術展	9月4日	9月9日	6	2	水彩・油彩	54	816	136
38	野下弘・室田妙子二人展	9月4日	9月9日	6	4	油彩	45	854	142
39	第56回埼玉書道展	9月13日	9月16日	4	1~4	書	732	1,665	416
40	矢部澄翔書展・第7回墨翔展	9月18日	9月23日	6	1	書	134	582	97
41	第21回工芸新樹会公募展	9月18日	9月23日	6	2	工芸	65	403	67
42	第28回フォトグループウェーブ写真展	9月18日	9月23日	6	3	写真	85	525	87
43	小中四平写真展	9月18日	9月23日	6	4	写真	45	435	72
44	第46回埼玉三軌展	9月25日	9月30日	6	1	水彩・油彩	46	962	160
45	第33回太平洋埼玉展	9月25日	9月30日	6	2・3	水彩・油彩・版画	83	962	160
46	澤田石貴子個展	9月25日	9月30日	6	4	水彩・版画・アクリル	40	521	86
47	第27回埼玉県版画家協会展	10月2日	10月7日	6	1	版画	55	527	87
48	第28回アート現宇展	10月2日	10月7日	6	2	油彩、アクリル	33	441	73
49	第4回フォトサークル・オプト写真展	10月2日	10月7日	6	3	写真	102	740	123
50	第16回溪水会展	10月2日	10月7日	6	4	日本画・洋画・水墨画ほか	72	611	101
51	第45回第一美術協会埼玉支部展	10月9日	10月14日	6	1	絵画・版画ほか	145	1,321	220
52	第7回悠友会作品展	10月9日	10月14日	6	2・3	水彩・油彩	61	1,006	167
53	第2回風を描く会作品展	10月9日	10月14日	6	4	水彩・油彩	45	970	161
54	第22回全国平成水墨画展	10月17日	10月21日	5	1・2	水墨画・墨彩画	120	1,091	218
55	内田知佳子彫刻展	10月16日	10月21日	6	3	彫刻	31	356	59
56	全日写連浦和支部写真展	10月16日	10月21日	6	4	写真	47	706	117
57	第17回全日中展(日中書画芸術大展)	10月23日	10月28日	6	1~4	水墨画・墨彩画	500	2,105	350
58	第12回美術協会純展・埼玉支部展	10月30日	11月4日	6	2	水彩・油彩	44	744	124
59	鈴木紀子個展	10月30日	11月4日	6	3	油彩	28	676	112
60	第14回彩游会日本画展	10月30日	11月4日	6	4	日本画	30	754	125
61	2012CAFネビュラ展	11月7日	11月18日	11	1~4	絵画・版画・彫刻ほか	110	2,011	182
62	第55回埼玉県高校書道展	11月20日	11月25日	6	1~4	書	842	1,676	279
63	第50回新構造埼玉展	11月27日	12月2日	6	1	洋画、版画、彫刻ほか	154	1,017	169
64	第3回埼玉植物画の会作品展	11月27日	12月2日	6	2	水彩	97	1,339	223
65	大槻綾子染色画展	11月27日	12月2日	6	3	染色画	50	666	111
66	彩美展	11月27日	12月2日	6	4	絵画、工芸	37	1,009	168
67	第3回埼玉県障害者アート企画展	12月5日	12月9日	5	1	絵画、彫刻、工芸ほか	267	1,467	293
68	第25回四ツ葉会展	12月4日	12月9日	6	2	水彩、油彩	75	938	156
69	鏡彩写真展「冬の樹」・フォトサークルらむ 第3回写真展「それぞれの胸」	12月4日	12月9日	6	3	写真	74	619	103
70	第1回二彩会作品展	12月4日	12月9日	6	4	油彩	41	649	108
71	第26回創元会埼玉支部展	12月11日	12月16日	6	1	水彩、油彩	57	1,161	193
72	第4回C.A.J.アーティスト イン ヴェニス 中国現代美術展	12月11日	12月16日	6	2	彫刻ほか	7	351	58
73	薫風会展2012	12月11日	12月16日	6	3	水彩、油彩	51	889	148

No.	展覧会名	開催期間 H24年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
74	菊池英喜個展	12月11日	12月16日	6	4	パステル	30	417	69
75	第55回高校美術展	12月19日	12月23日	5	1~4	絵画・彫刻・工芸ほか	966	2,366	473
76	第17回凜の会	1月8日	1月13日	6	1・4	油彩	132	1,449	241
77	鉄道絵画展	1月8日	1月13日	6	3	アクリル	39	1,545	257
78	第41回埼玉書連役員新春展・併催「大作展」	1月16日	1月20日	5	1~4	書	301	1,025	205
79	埼玉大学美術専修卒業制作展	1月22日	1月27日	6	1	絵画・彫刻	44	744	124
80	彩展	1月22日	1月27日	6	2	絵画・彫刻・工芸ほか	56	685	114
81	埼玉大学大学院修了制作展	1月22日	1月27日	6	3・4	油彩・立体ほか	15	882	147
82	文教大学美術専修卒業制作展	1月29日	2月3日	6	1	絵画・彫刻・工芸ほか	9	556	92
83	関根宮夫個展	1月29日	2月3日	6	2	水彩	65	649	108
84	武蔵野写真展	1月29日	2月3日	6	3	写真	41	457	76
85	現代版47都道府県の河童展	1月29日	2月3日	6	4	アクリル	57	526	87
86	第36回埼玉国展	2月5日	2月10日	6	1	油彩・写真	94	1,050	175
87	第34回野美展	2月5日	2月10日	6	2	日本画・油彩・彫刻ほか	49	993	165
88	第1回私の自然展	2月5日	2月10日	6	3	写真	41	810	135
89	第4回彩友会ボタニカルアート展	2月5日	2月10日	6	4	水彩	68	810	135
90	第53回埼玉県小・中学校児童生徒美術展覧会 第5回中央展覧会	2月14日	2月17日	4	1	水彩ほか	200	1,856	464
91	第27回私がみつけた「埼玉の自然」フォトコンテスト	2月12日	2月17日	6	2	写真	155	1,697	282
92	第31回杉山繁男展	2月12日	2月17日	6	3	アクリル	150	686	114
93	第17回溪水会展	2月12日	2月17日	6	4	日本画・洋画・水墨画ほか	57	955	159
94	第18回日本美術専門学校卒業・進級制作展	2月19日	2月24日	6	1	絵画ほか	140	759	126
95	女子美術大文部・第10回彩の会 記念事業「未来世代へつなぐ」	2月19日	2月24日	6	2~4	日本画・洋画・工芸ほか	85	1,178	196
96	キルトリーダーズ埼玉パッチワークキルト作品展	2月26日	3月3日	6	1	パッチワークキルト	100	1,717	286
97	第4回華耀会展	2月26日	3月3日	6	2	日本画	80	887	147
98	第1回箸の会展	2月26日	3月3日	6	3	油彩	44	762	127
99	第9回彩・ボタニカルアート展	2月26日	3月3日	6	4	水彩	42	861	143
100	第37回埼玉現展	3月5日	3月10日	6	1	油彩・彫刻・写真ほか	121	997	166
101	フォト・トルトゥーガ写真展2013	3月5日	3月10日	6	2	写真	130	896	149
102	第9回埼玉県ネーチャーフォト支部写真展	3月5日	3月10日	6	3	写真	90	768	128
103	ステファン・マルコフ展 ヨシズミ トシオ展	3月5日	3月17日	6	4	油彩・版画ほか	40	908	151
104	第47回埼玉三軌展	3月12日	3月17日	6	1	水彩・油彩	42	936	156
105	三尾彰藍（雄治）遺作展をひらく会	3月12日	3月17日	6	2	日本画	36	661	110
106	自然写真の会“彩”写真展	3月12日	3月17日	6	3	写真	37	713	118
107	埼玉県立美術系高校作品展・卒展	3月20日	3月24日	5	1~4	絵画・彫刻・工芸ほか	963	4,088	817
108	第41回主体美術武蔵野作家展	3月26日	3月31日	6	1	水彩・油彩ほか	78	1,121	186
109	第18回彩の国さいたまきりえ展	3月26日	3月31日	6	2・3	きりえ	99	1,255	209
110	彩の国写真倶楽部・第9回展	3月26日	3月31日	6	4	写真	84	994	165

■入館状況

■平成24年度入館者数一覧

平成25年3月31日現在

	入館者数	展 示 事 業							企画展計
		MOMAS コレクション	企 画 展 示						
			草間彌生 永遠の永遠の永 遠	ウルトラマン・ アート!	日本の70年代 1968-1982	ベン・シャーン 展	ポール・デルヴォー 展		
開催期間	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/14(土) ～ 5/20(日)	7/7(土) ～ 9/2(日)	9/15(土) ～ 11/11(日)	11/17(土) ～ 1/14(月)	1/22(火) ～ 3/24(日)		
(日) 日 数	308	293	37	51	52	42	55	237	
(人) 観 覧 者 数 利 用 者 数	303,075	70,199	47,546	30,990	12,787	9,264	14,740	115,327	
(人) 1日当たり平均	984	240	1285	608	246	221	268	487	
有 料	一般個人 一般団体 大高個人 大高団体 (人) 合 計	入館料 無 料	4,766	24,916	11,862	4,866	3,156	5,509	50,309
			1,185	1,042	2,281	235	131	488	4,177
			627	1980	791	541	235	390	3,937
			7	117	28	21	3	18	187
			6,585	28,055	14,962	5,663	3,525	6,405	58,610
(人) 無 料	-	63,614	19,491	16,028	7,124	5,739	8,335	56,717	

	普 及 事 業					貸館事業							
	企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	SMF関連	図書室	一 般 展示室	埼玉県 美術展覧会						
開催期間	4/10(日) ほか	4/10(日) ほか	4/2(土) ほか	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/1(日) ～ 3/31(日)	5/29(火) ～ 6/20(水)						
(日) 日 数	24	14	64	14	302	252	20						
(人) 観 覧 者 数 利 用 者 数	2,189	289	2,598	1,669	4,005	118,083	27,313						
(人) 1日当たり平均	91	21	41	119	13	468	1,365						
有 料	一般個人 一般団体 大高個人 大高団体 (人) 合 計	-	-	-	-	-	-						
								-	-	-	-	-	-
								-	-	-	-	-	-
								-	-	-	-	-	-
								-	-	-	-	-	-
(人) 無 料	-	-	-	-	-	-	-						

月別入館者数													
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 入館者数	34,157	47,612	29,053	24,275	33,555	20,327	20,037	21,837	15,180	14,010	18,694	24,338	303,075

■名簿

■埼玉県立近代美術館協議会委員

平成25年3月31日現在

選出区分	氏名	現職
学校教育関係者	永田 直美	埼玉県市町村教育委員会連合会会長 川口市教育委員会委員長
	村上 博俊	埼玉県美術教育連盟連盟長 川口市立仲町中学校長
社会教育関係者	遠山 公一	(財)遠山記念館評議員 慶應義塾大学文学部教授
	塗師祥一郎	埼玉県美術家協会会長 洋画家
家庭教育関係者	青山 孝行	埼玉県家庭教育振興協議会会長 劇団シアターDAC理事長
学識経験者	恩地 元子	東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 非常勤講師
	斎藤 陽子	雑誌編集者 「工房 萌」代表
	佐藤 恵	フリーアナウンサー FM浦和レズウェブメインパーソナリティ
	神保ふみえ	染色画家 春日部市景観絵画コンクール審査員
	田中 徳尚	セントラル自動車技研(株) 代表取締役社長
	古川 雅之	NHKさいたま放送局副局長
	保坂 雪絵	「アトリエいろのは」主宰 カワイ絵画造形教室講師

■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

平成25年3月31日現在

氏名	現職	任期
青木 茂	明治美術学会会長	23.5.1～25.4.30
酒井 忠康	世田谷美術館長	23.5.1～25.4.30
真保 亨	筑波大学名誉教授	23.5.1～25.4.30
山梨 俊夫	国立国際美術館長	23.5.1～25.4.30
金子 賢治	茨城県陶芸美術館長	23.5.1～25.4.30

■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

平成25年3月31日現在

氏名	現職	任期
飯野 一朗	彫金作家 東京芸術大学教授	24.12.20～26.12.19
小澤 基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	24.12.20～26.12.19
栗崎 浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	24.12.20～26.12.19
齋藤 研	洋画家 独立美術協会会員	24.12.20～26.12.19
内藤 五瑠	日本画家 日本美術院特待	24.12.20～26.12.19
増田 明弘	写真家 全日本写真連盟埼玉県本部顧問	24.12.20～26.12.19
清水 隆	県教育局 生涯学習文化財課長	24.12.20～26.12.19

■埼玉県立近代美術館職員

平成25年3月31日現在

担当	職名	氏名
総務・管理担当 総務担当	館長(非常勤)	建 晶 哲
	副館長	小 林 貞 雄
	担当部長	町 田 智
	担当課長	小 野 圭 弘
	主任	佐 藤 嘉 章
	主事	山 田 恵
	管理担当	鈴 木 亨
	主任	山 崎 佑
	主事	端 山 晃 弘
	主事	阿 部 恵 一
学芸担当 企画展、教育・広報担当 企画展担当	学芸担当	前 山 裕 司
	企画展、教育・広報担当	平 野 到
	企画展担当	吉 岡 知 子
	学芸員	大久保 静 雄
	専門員兼学芸員	大 越 久 子
	教育・広報担当	山 水 明
	学芸員	田 中 耕 次
	学芸員	植 村 孝 一
	学芸員	伊豆井 秀 一
	学芸員	中 村 誠
常設展・収蔵品担当	主任	梅 津 元
	学芸員	澁 谷 拓
	学芸員	平 山 都
	学芸員	菱 村 宏 子
	嘱託(非常勤)	

埼玉県立近代美術館年報〔平成24年度〕

発行：埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1

電話：048-824-0111(代)

平成25年9月10日